

使いこなす本

B3FH-5271-02

ハード編

FMV-BIBLO

NE/36LA, NE/36L, NE/36X, NE/33, NE/33E

パソコンの各部は
こうなっている

基本的な機能を使おう

電源と節電機能を賢く使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

索引



FUJITSU

こんなことがやりたい

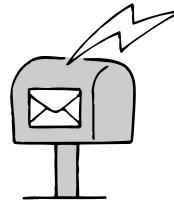
コードレスにしたい！



喫茶店や会議室などコンセントが使えない場所では、ACアダプタを取り外して、バッテリでパソコンが使えます。

→ P.52

携帯電話でインターネットにアクセスしたい！



携帯電話でメールを送ったり、インターネットのホームページを見ときは、携帯電話を接続します。

→ P.95

使い慣れたマウスで快適作業！



フラットポイントに慣れないときは、別売のマウスを接続して作業しましょう。

→ P.87

印刷したい！



企画書、年賀状、家計簿…パソコンで作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

→ P.75

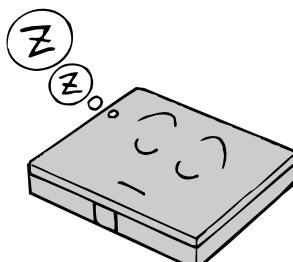
もっと快適に作業したい！



たくさんのアプリケーションを開いたり、ゲームをしているとき「パソコンの処理が遅いなあ」と感じたことはありませんか？メモリを増設すると、より快適に作業ができます。

→ P.79

休憩するときは、一時停止で節電！



液晶ディスプレイを閉じるか、SUS/RESスイッチを押すだけで、パソコンの作業を一時停止して、節電できます。

→ P.60

電卓をたたくのは得意なの！ 家計簿もすばやく入力したい！



キーボードでは数字の位置がなかなか覚えられなくて…というときは、別売のテンキーボードを使って数字を入力できます。

→ P.87

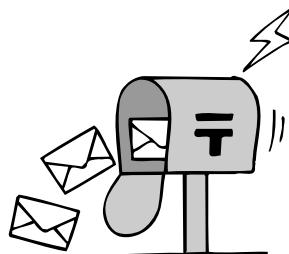
BIBLO で音楽が聞きたい！



BIBLO を起動していないときでも、ワンタッチボタンを押すと気軽に音楽 CD を楽しめます。

→ P.33

メールが楽しみ！



今すぐメールを見たい！
E-mail ボタンを押すと、メールの着信をすぐに確認できます。

→ P.18

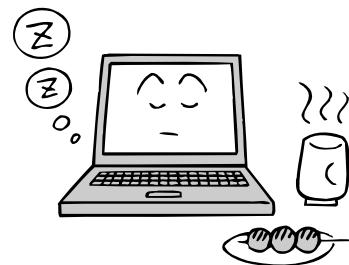
大画面でプレゼンテーション！！



CRT ディスプレイや液晶プロジェクタに BIBLO の画面を映すことができます。

→ P.104

節電設定で省エネしよう！



BIBLO を使っていないときも電源を入れたままにしていませんか？自動的に電力をセーブして、電力の無駄使いを防ぎましょう。

→ P.67

バッテリ残量を知りたい！



バッテリ切れで、作業中の大事なデータを消してしまったら大変…残量表示でバッテリの残量を確認しましょう。

→ P.54

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

⚠警告	⚠注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容(左図の場合は感電注意)が示されています。
	で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容(左図の場合は一般的な禁止事項)が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容(左図の場合は一般的な強制事項)が示されています。

その他の記号について

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 コラム	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になつていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

画面例および入力例について

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- 画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列(コマンドライン)などは、入力例の文字上に をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

dir c:

この場合は、「dir」と入力したあと、 を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

FMV-BIBLO NE/36X を例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows®98 operating system	Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Microsoft® Outlook™ Express	Outlook Express
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
Personal Intelligence Manager	FM 手帳

機種名の表記について

次のように略して表記します。

機種名	本書の表記
FMV-BIBLO NE/36LA, NE/36L, NE/36X, NE/33, NE/33E	本パソコン
FMV-BIBLO NE/36LA	NE/36LA
FMV-BIBLO NE/36L	NE/36L
FMV-BIBLO NE/36X	NE/36X
FMV-BIBLO NE/33	NE/33
FMV-BIBLO NE/33E	NE/33E

Contents

目次

こんなことがやりたい
本書の表記について

第1章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き	2
本体前面	2
本体左側面	4
本体右側面	6
本体背面	8
状態表示 LCD	10
キー ボード	12
ワンタッチボタン	16
2. 本パソコンの取り扱い上の注意	20
取り扱い上の注意	20
廃棄について	21

第2章 基本的な機能を使おう

1. フロッピーディスクを使う	24
使えるフロッピーディスクは?	24
気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき	25
フロッピーディスクをセットする / 取り出す	26
フロッピーディスクのデータを守るには	27
2. CD-ROM を使う	28
使える CD は?	28
気をつけてください~ CD を使うとき	28
CD-ROM をセットする / 取り出す	29
音楽 CD を聞く	33
3. 音量を調節する	35
音量ボリュームで調節する	35
音量つまみで調節する	35
4. 画面の解像度や発色数を変える	37
液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数	37
液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える	38
5. 液晶ディスプレイの明るさを変更する	41
明るさを設定する	41
設定した明るさを変更する	41
6. お手入れのしかた	42
パソコン本体 / ディスプレイ / キー ボードのお手入れ	42
フロッピーディスクドライブのお手入れ	42

FMV
B I B L O
Contents

第3章 電源と節電機能を賢く使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る	46
電源を入れてパソコンを使おう	46
今日はおしまい。電源を切るには？	48
2. AC アダプタで使う	50
AC アダプタを取り付ける	50
AC アダプタを取り外す	51
3. バッテリで使う	52
充電する	52
充電時間	53
稼動時間	54
残量を確認する	54
気をつけてください～バッテリを使うとき	57
内蔵バッテリパックを交換する	57
4. 節電する	60
サスPEND機能と Save To Disk 機能	60
サスPEND機能を使う	61
Save To Disk 機能を使う	64
コラム 節電機能について	66
5. 節電の設定を変更する	67
ご購入時の節電の設定	67
「電源の管理」で設定を変更する	67
「PMSet98」で設定を変更する	68

第4章 オプション機器を活用しよう!

1. オプション機器について	72
オプション機器の紹介	72
オプション機器の接続にあたって	73
2. プリンタを接続する	75
必要なものを用意する	75
プリンタを接続する	76
3. メモリを増やす	79
必要なものを用意する	79
メモリを取り付ける / 取り外す	80
4. マウス / テンキーボードを接続する	87
5. PC カードをセットする	88
コラム PC カードの種類	88
気をつけてください～ PC カードを使うとき	89
必要なものを用意する	90
PC カードをセットする	91
PC カードを取り出す	93

6. 携帯電話や PHS を接続する	95
PDC コネクタに接続する	95
PC カードを使って接続する	97
PDC コネクタに携帯電話を接続して通信する	99
7. CRT ディスプレイを接続する	104
必要なものを用意する	104
CRT ディスプレイを接続する	105
ディスプレイの表示を切り替える	106
CRT ディスプレイの解像度と発色数について	109
8. その他のオプション機器を使う	111
ハードディスクを使う	111
MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	112

第 5 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	114
2. BIOS セットアップの操作のしかた	115
BIOS セットアップを起動する	115
設定を変更する	116
変更内容を取り消す	118
BIOS セットアップを終了する	119
3. ご購入時の設定に戻す	120
4. BIOS セットアップのメニュー詳細	121
メインメニュー	121
詳細メニュー	122
セキュリティメニュー	125
省電力メニュー	126
起動メニュー	128
情報メニュー	129
終了メニュー	129
5. BIOS のパスワード機能を使う	130
パスワード機能について	130
パスワード機能を設定する	131
パスワードを入力する	133
パスワードを変更 / 削除する	134
6. BIOS が表示するメッセージ一覧	136
メッセージ一覧	136
メッセージが表示されたときは	141

1. 仕様一覧	144
本体	144
モデム	148
リソース一覧	149
コネクタのピン配列と信号名	150
CRT ディスプレイの走査周波数	152
2. Save To Disk 領域	153
Save To Disk 領域について	153
Save To Disk 領域の容量	153
Save To Disk 領域を変更する	154
3. 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意	156
制限事項	156
赤外線通信をするときの注意	157
転送速度について	157
Windows 98 の赤外線機能を使用しているとき	158
Intellisync の設定を確認する	158
4. モデムについて	159
内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意	159
電話回線の接続口の形状	160
電話回線に電話機を取り付けているとき	161
認証番号の表示	161
5. ドライバのインストール	162
インストールのときに気をつけること	162
ディスプレイドライバをインストールする	163
サウンドドライバをインストールする	169
GlidePoint をインストールする	172
6. マルチモニタ機能を使う	175
セカンダリアダプタを設定する	175
分割したデスクトップを表示する位置を変更する	177
7. その他の注意事項	178
ACPIについて	178
索引	186

第1章

パソコンの各部はこうなっている

本章では、パソコン本体の各部の名称と働きや、取り扱い上の注意について説明しています。

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 各部の名称と働き | 2 |
| 2. 本パソコンの取り扱い上の注意 | 20 |

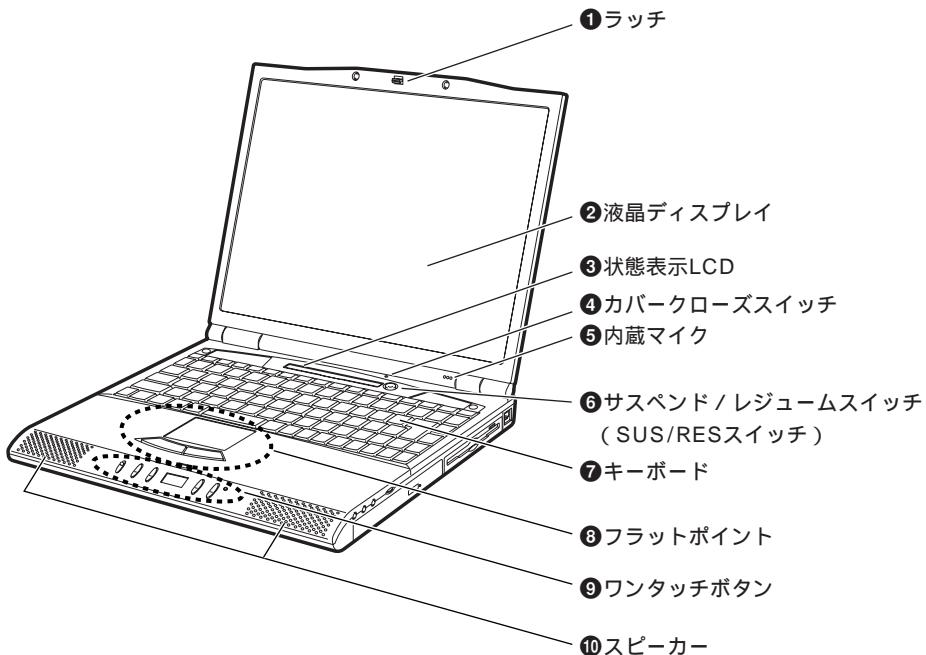


各部の名称と働き

パソコン本体各部の名称と働きを、以下の部分ごとに説明します。

- ・本体前面 ➡ P.2
- ・本体左側面 ➡ P.4
- ・本体右側面 ➡ P.6
- ・本体背面 ➡ P.8
- ・状態表示 LCD ➡ P.10
- ・キーボード ➡ P.12
- ・ワンタッチボタン ➡ P.16

本体前面



① ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを上方向に引いてロックを外します。

② 液晶ディスプレイ

パソコンの画面を表示します。

エルシーディ

③ 状態表示 LCD

パソコンの状態を表示します。

「状態表示 LCD」(➡ P.10)

④ カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンド（一時停止）し、開けたときにレジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）ためのスイッチです。
「液晶ディスプレイを閉じる」（☞P.62）

⑤ 内蔵マイク

音声を録音するときなどに使います。

⑥ サスペンド / レジュームスイッチ（SUS/RESスイッチ）

パソコンの電源を入れるためのスイッチです。
また、サスペンド（一時停止）したり、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）ときにも使います。
4秒以上押すと、強制的に電源が切れます。通常は、4秒以上押さないでください。
本書ではSUS/RESスイッチと表記します。
「電源を入れてパソコンを使おう」（☞P.46）
「節電する」（☞P.60）

⑦ キーボード

文字を入力したり、パソコンに命令を与えます。

「キーボード」（☞P.12）

⑧ フラットポイント

操作面を上下左右になぞり、マウスポインタを操作します。
手前のボタンは、マウスの左ボタン、右ボタンに相当します。また、操作面を指でたたくと左ボタンを押したときと同じ機能になります。

⑨ ワンタッチボタン

アプリケーションソフトを起動したり、音楽CDを再生したりするボタンです。
「ワンタッチボタン」（☞P.16）

⑩ スピーカー

音声を出力します（ステレオ）。

アドバイス

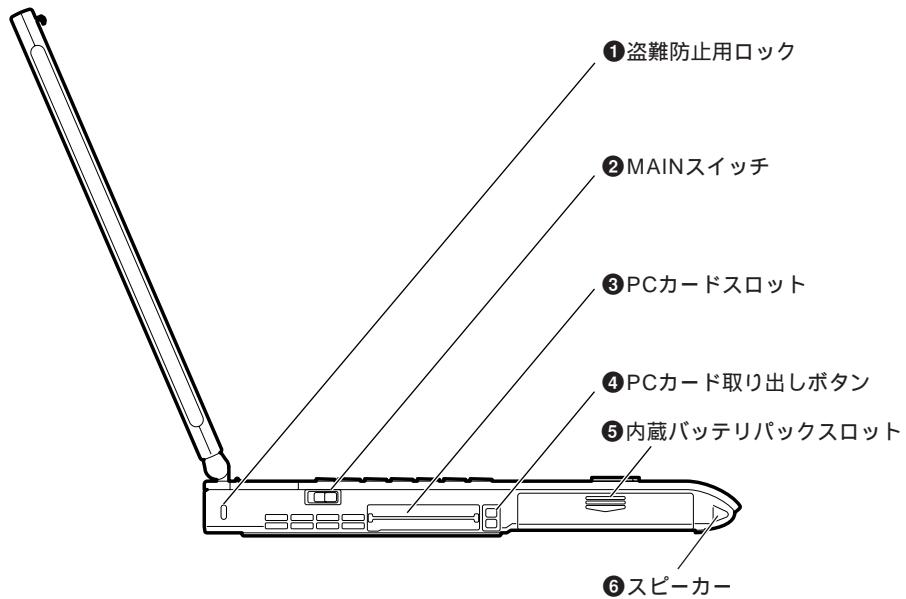
フラットポイントの設定を変えるには

「コントロールパネル」の「マウス」で変更できます。
マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

詳しくは、デスクトップにある『パソコン便利帳』の「Q&A」の「マウス」をご覧ください。

パソコン便利帳については、『FMV総合案内』をご覧ください。

本体左側面



① 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名 : マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）

商品番号 : 0522010

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375）

② MAIN スイッチ

本パソコンの主電源です。

↓ 側にスライドすると電源が入り、↑ 側にスライドすると電源が切れます。

本パソコンを携帯するときや長期間使用しないときは、MAINスイッチで電源を切ってください。

「電源を入れる／電源を切る」（☞P.46）

③ PC カードスロット

別売のPCカードをセットするためのスロットです。

下段が「スロット1」、上段が「スロット2」です。

「PCカードをセットする」（☞P.91）

④ PC カード取り出しボタン

PCカードを取り出すときに押します。

下段がスロット1、上段がスロット2の取り出しボタンです。

「PCカードをセットする」（☞P.91）

⑤ 内蔵バッテリパックスロット

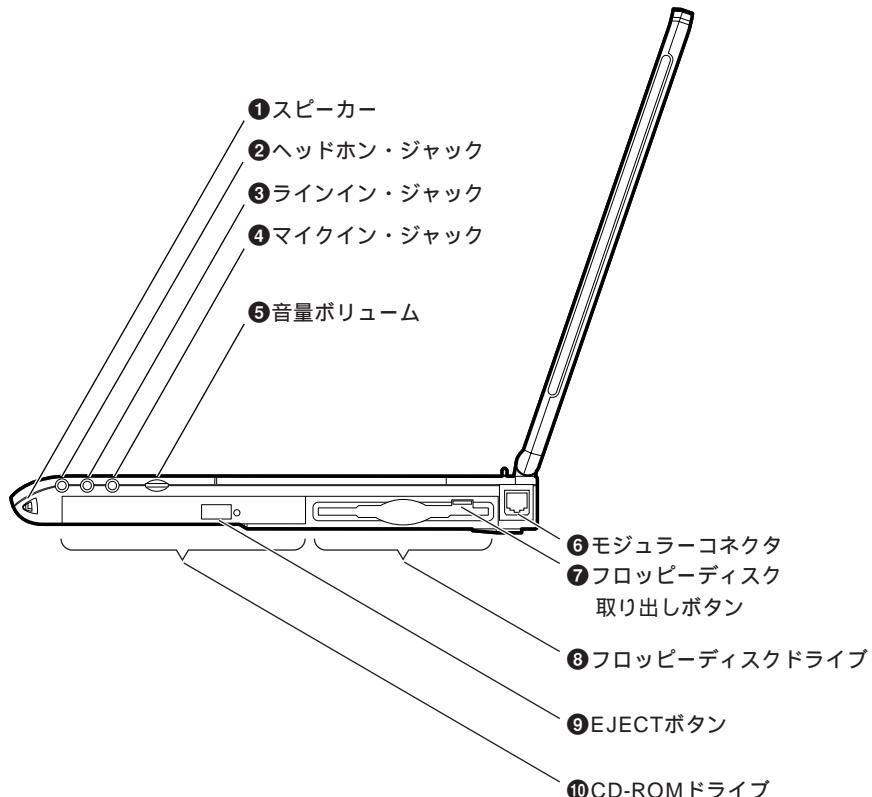
内蔵バッテリパックが装着されているスロットです。

「バッテリで使う」（☞P.52）

⑥ スピーカー

音声を出力します（ステレオ）。

本体右側面



① スピーカー

音声を出力します（ステレオ）。

② ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です。

ここに取り付けられるものは、外径3.5mmのミニプラグを持つヘッドホンやアンプ内蔵外部スピーカーです。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。



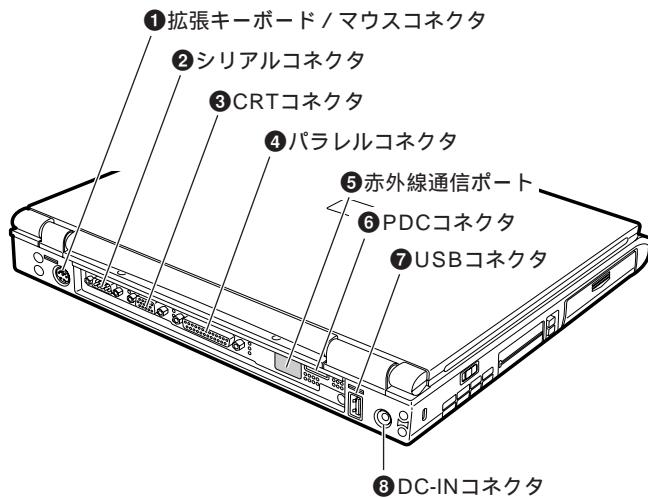
注意

聴力障害 ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害 ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンを接続してください。

- ③ ラインイン・ジャック**
AV 機器の出力端子と接続するための端子です。
- ④ マイクイン・ジャック**
市販のマイクを接続するための端子です。
ここに取り付けられるものは、外径 3.5 mm のミニプラグをもつマイクです。
ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）では、
使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。
- ⑤ 音量ボリューム**
音量を調節します。
「音量を調節する」（☞P.35）
- ⑥ モジュラーコネクタ**
インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続するためのコネクタです。
- ⑦ フロッピーディスク取り出しボタン**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
「フロッピーディスクをセットする／取り出す」（☞P.26）
- ⑧ フロッピーディスクドライブ**
フロッピーディスクを差し込み、データを読み書きします。
「フロッピーディスクを使う」（☞P.24）
- ⑨ EJECT ボタン**
イジェクト
CD-ROM をセットしたり、取り出したりするときに押します。
「CD-ROM をセットする／取り出す」（☞P.29）
- ⑩ CD-ROM ドライブ**
シーディーロム
CD-ROM をセットします。
「CD-ROM を使う」（☞P.28）

本体背面



① 拡張キーボード / マウスコネクタ

別売のテンキーボードやマウスを接続するためのコネクタです。

「マウス / テンキーボードを接続する」(☞P.87)

② シリアルコネクタ

RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

③ CRT コネクタ

別売のCRTディスプレイを接続するためのコネクタです。

「CRTディスプレイを接続する」(☞P.104)



用語

USB
ユーエスピー

機器の接続に関する規格です。USB 規格に対応した機器には、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどがあります。

- ④ パラレルコネクタ**
別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。
「プリンタを接続する」（☞P.76）
- ⑤ 赤外線通信ポート**
赤外線通信の送受光部です。
赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」でお使いになれます。
「赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意」（☞P.156）
- ⑥ PDC コネクタ**
ビーディーシー
携帯電話と接続するためのコネクタです。
「PDC コネクタに接続する」（☞P.95）
- ⑦ USB コネクタ**
ユーエスピー
USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。
- ⑧ DC-IN コネクタ**
ディーシーイン
添付されている AC アダプタでコンセントに接続するためのコネクタです。
「AC アダプタを取り付ける」（☞P.50）

状態表示 LCD

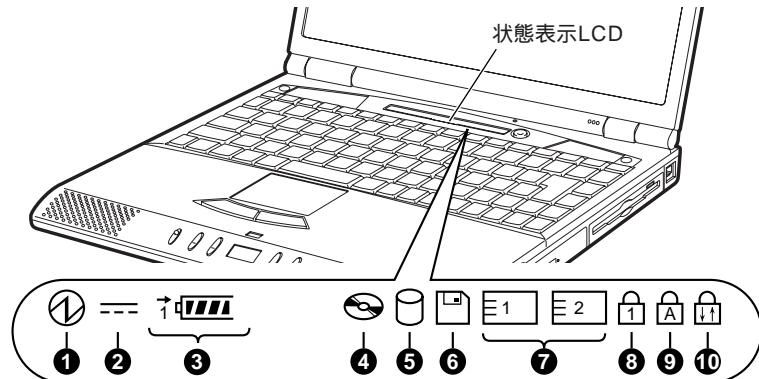
アドバイス

電源を切っているとき

状態表示 LCD の全表示が消えます。ただし、充電中は **---** と **■■■** が表示され、充電が完了すると消えます。

電源を入れると状態表示 LCD にマークが表示されます。

これらのマークは、バッテリの残量など、本パソコンのさまざまな状態を表しています。



① SUS/RES 表示 (①)

本パソコンで作業ができる状態のときに表示されます。suspend(一時停止)状態のときは点滅します。

「suspend機能を使う」(☞P.61)

② AC アダプタ表示 (**---**)

AC アダプタから電力が供給されているときに表示されます。

③ バッテリパック装着表示 (③)

内蔵バッテリパックを示しています。電源を入れると表示されます。

- バッテリ充電表示 (**→**)

バッテリの充電中に表示されます。

バッテリが熱くなっていたり、冷えていたりするときは、バッテリの保護機能が働き、適温になるまでバッテリの充電を開始しないことがあります。この場合は **→** が点滅します。

- バッテリ残量表示 (**■■■**)

バッテリの残量が表示されます。

「残量を確認する」(☞P.54)

④ CD-ROM ドライブアクセス表示 (④)

CD-ROM にアクセスしているときに表示されます。

 **アドバイス**
 **CD-ROM ドライブアクセス表示) の点滅を止めるには**

CD-ROM をセットしていないときでも、状態表示 LCD に  が表示されることがあります。これは CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っているかどうかを Windows 98 が定期的に調べているためです。次の操作を行うと点滅を止めることができます。ただし自動で起動する CD-ROM をセットしても、自動起動の機能は働かなくなります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
デバイスの一覧が表示されます。
- 4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。
「NEC CD-ROM DRIVE:282」または「TOSHIBA CD-ROM XM-1902B」が表示されます。
- 5 「NEC CD-ROM DRIVE:282」または「TOSHIBA CD-ROM XM-1902B」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「NEC CD-ROM DRIVE:282 のプロパティ」ウィンドウまたは「TOSHIBA CD-ROM XM-1902B のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「設定」タブをクリックし、「挿入の自動通知」をクリックし、 を  にします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「システムのプロパティ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って、再起動します。

自動起動の機能を使うときは、手順 6 で「挿入の自動通知」を にしてください。

⑤ ハードディスクアクセス表示 ()

内蔵のハードディスクにアクセスしているときに表示されます。

⑥ フロッピーディスクアクセス表示 ()

フロッピーディスクにアクセスしているときに表示されます。

 **重要**
 や  が表示されているときの注意

状態表示 LCD に  や  が表示されているときは、サスPENDしないでください。ハードディスクやフロッピーディスクのデータが壊れるおそれがあります。

⑦ PC カードアクセス表示 ( )

PC カードにアクセスしているときに表示されます。

 は、PC カードスロット 1 (下段) の PC カードにアクセスしているときに表示されます。

 は、PC カードスロット 2 (上段) の PC カードにアクセスしているときに表示されます。

⑧ Num Lock 表示 ()

テンキー モードになっているときに表示されます。**Num Lk** を押して、テンキー モードの設定と解除を切り替えます。

「テンキー モードについて」( P.15)

⑨ Caps Lock 表示 ()

英大文字固定 モード(英字を大文字で入力する状態) になっているときに表示されます。**Shift** を押しながら **CapsLock** を押し、英大文字固定 モードの設定と解除を切り替えます。

⑩ Scroll Lock 表示 ()

Fn を押しながら **Scr Lk** を押して、画面がスクロールしないように設定すると表示されます。もう一度押すと表示が消え、画面がスクロールするようになります。アプリケーションにより、機能が異なることがあります。

キーボード

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき



① エスケープ Esc キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

② ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられています。

- ③ Num Lk (Num Lock) キー**
[Num Lk] を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。
「テンキーモードについて」(☞ P.15)
- ④ Insert キー**
文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。
- ④ Prt Sc (Print Screen) キー**
画面表示をビットマップファイルとして保存するときに[Fn] を押しながら押します。
[Alt] と [Fn] を押しながら押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。
キーを押したあとにペイントソフト(ペイントなど)を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」等を選ぶことで編集、保存、印刷ができます。
- ⑤ Delete キー**
カーソルの右側にある 1 文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。
[Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押すと、応答のなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動したりできます。
- ⑥ Back Space キー**
カーソルの左側にある 1 文字を削除するときに使います。
- ⑦ 半角 / 全角キー**
文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。
- ⑧ Caps Lock 英数キー**
[Shift] を押しながら [CapsLock 英数] を押すと、英大文字固定モードになります。もう 1 度押すと解除されます。
- ⑨ Shift キー**
他のキーと組み合わせて使います。[Shift] を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。
- ⑩ Home キー**
カーソルを行の最初に移動します。
[Ctrl] を押しながら [Home] を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。
- ⑪ Pg Up (Page Up) キー**
前のページに切り替えるときに使います。

⑫ エンター
Enter キー

入力した文字を確定するときに使います。

⑬ ページダウン
Pg Dn (Page Down) キー

次のページに切り替えるときに使います。

⑭ エンド
End キー

カーソルを行の最後に移動します。

〔Ctrl〕を押しながら〔End〕を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

⑮ カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

⑯ エフエヌ
Fn キー

本パソコン独自の機能で、他のキーと組み合わせて使います。たとえば次のような使いかたがあります。

- ・〔Fn〕を押しながら〔F3〕を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。
- ・NE/36LA, NE/36L, NE/36Xでは800×600ドット以下、NE/33, NE/33Eでは640×480ドット以下の解像度のときに〔Fn〕を押しながら〔F5〕を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
- ・CRTディスプレイを接続したときに〔Fn〕を押しながら〔F10〕を押すと、液晶ディスプレイとCRTディスプレイで表示先を切り替えます。
- ・〔Fn〕を押しながら〔F6〕を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
- ・〔Fn〕を押しながら〔F7〕を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。

「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(☞P.41)

⑰ コントロール
Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。

⑱ ウィンドウズ
Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。

⑲ オルト
Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。

⑳ アプリケーション
Application キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。

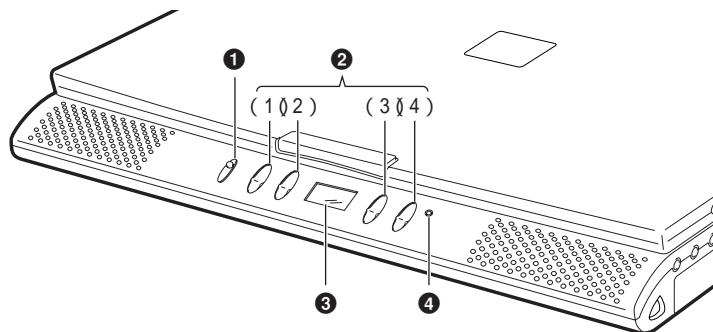
右クリックの代わりになります。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。[Num Lk]を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LCDに \square が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に文字が刻印されています。ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

ワンタッチボタン

ワンタッチでアプリケーションを起動したり、音楽CDを再生できます。



① モードスイッチ

上中下の3段にスライドし、ボタンの機能を切り替えます。

- アプリケーション
Application (上)

アプリケーションを起動したり、新着Eメールをチェックするときにスライドします。

起動するアプリケーションなどは、FM便利ツールの「かんたんボタンの設定」で設定しています。

⇒FM便利ツールのヘルプ

- ロック
Lock (中)

すべてのボタンを無効にし、不用意にボタンが押されることを防ぐときにスライドします。

- シーディーブレーカー
CD Player (下)

音楽CDを操作するときにスライドします。

「音楽CDを聞く」(⇒P.33)

■ 重要

次のときはワンタッチボタンが使えません

- FM便利ツールを終了しているとき

ワンタッチボタンを使うときは、FM便利ツールを終了しないでください。

- MAINスイッチを切っている（側面にスライドしている）とき

CD操作ボタンは、音楽CD以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。

特に□合ボタンを押すとEJECT機能(取り出し機能)が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。

⇒□『トラブル解決Q&A』の「CD-ROMを取り出したら青い画面になった」

② ボタン

モードスイッチをスライドして機能を切り替えてから、各ボタンを使います。

モードスイッチ の位置	(1)	(2)	(3)	(4)
Application 	A インターネット の無料体験 1	B NE/36LA, NE/36L, NE/36X, NE/33 ワープロを起動 2	Internet Internet Explorer を起動 4	E-mail 新着 E メールを チェック 5
Lock 	無効	無効	無効	無効
CD Player 	□△ 停止 取り出し	▷Ⅲ 再生 一時停止	◀◀ 曲戻し	▷▷ 曲送り

- 1 インターネット無料体験については、『取扱説明書』をご覧ください。
- 2 使いかたは、ワープロのマニュアルをご覧ください。
- 3 使いかたは、FM 手帳のマニュアルをご覧ください。
- 4 インターネットに接続するには、あらかじめ電話回線と接続し、インターネットの設定を行ってください。
→『使いこなす本 インターネット編』
- 5 「新着 E メールをチェックする」(→P.18)

③ 曲順表示 LCD

再生中の音楽 CD の曲番号などを表示します。

- 数字
再生中の曲番号を示します。停止しているときは先頭の曲番号が表示されます。
- -
音楽 CD がセットされていないとき、または音楽 CD 読み取り中に表示されます。
- SP
節電状態になっているときに表示されます。□△ボタンを押すと音楽CDを操作できる状態に戻ります。

④ メール着信ランプ

E-mail ボタンを押したとき、新着 E メールがあるかどうかをお知らせします。

- 点灯
インターネットに接続し、新着 E メールがあるかを確認しています。
- 点滅
新着 E メールがあります。
Outlook Express を終了するか、レジュームすると消灯します。
- 消灯
新着 E メールはありません。

新着 E メールをチェックする

E-mail ボタンを押すと、新着 E メールをチェックできます。Windows 98 を終了しているときでも、新着 E メールをチェックできます。

■ 重要

MAIN スイッチを切っているとき

Windows 98 を終了して MAIN スイッチを切っている（側にスライドしている）ときは、E-mail ボタンで新着 E メールをチェックできません。

インターネットの設定をしておいてください

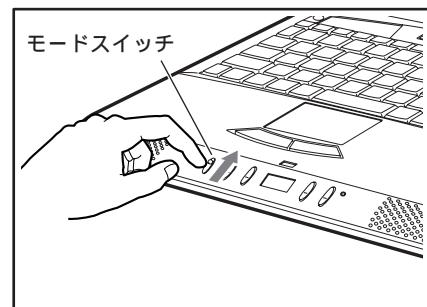
E-mail ボタンを使うには、あらかじめインターネットの設定をしておいてください。

☞ 『使いこなす本 インターネット編』

1 電話回線と接続します。

☞ 『取扱説明書』

2 モードスイッチをApplication の位置にスライドします。

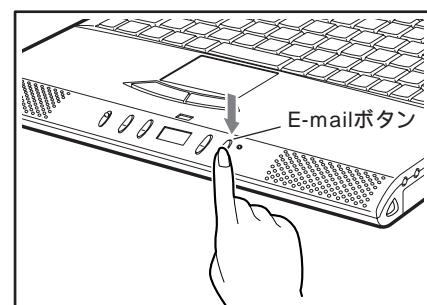


3 E-mail ボタンを押します。

インターネットに接続して新着 E メールをチェックします。

しばらくすると、Outlook Express が起動します。新着 E メールがあるときは受信します。

受信が終了して約30秒たつと、インターネットの接続を自動的に切断します。



アドバイス Outlook Express の使いかた

☞ 『使いこなす本 インターネット編』

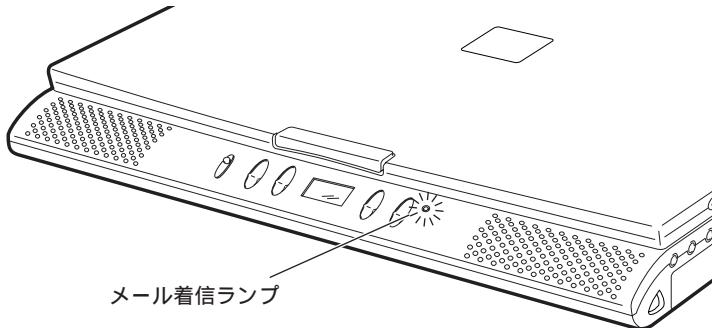
18

Windows 98 を終了またはサスPENDしていたとき

E-mail ボタンを押しても新着 E メールがなかった場合は、自動的に Windows 98 を終了またはサスPENDします。

新着 E メールはメール着信ランプでも確認できます

液晶ディスプレイを閉じたままで、新着 E メールをチェックするときに便利です。E-mail ボタンを押すと、メール着信ランプで次のようにお知らせします。



点灯：新着 E メールチェック中（インターネット接続中）

点滅：新着 E メールあり

消灯：新着 E メールなし

サスPENDからレジュームしたり、Outlook Express を終了すると、メール着信ランプは消灯します。



ここでは以下のことを説明します。

- ・取り扱い上の注意 ➡ P.20
- ・廃棄について ➡ P.21

取り扱い上の注意

本パソコンの取り扱いについて

- ・衝撃や振動を与えないでください。
- ・分解しないでください。
- ・電源を入れたままの状態で持ち運ばないでください。

次の場所での使用および保管は避けてください

- ・極端に温度変化が激しい場所
- ・直射日光のあたる場所や発熱器具に近い場所
- ・衝撃や振動の加わる場所
- ・湿気やほこりの多い場所
- ・磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所

電源を切るとき

電源を切るときは、いきなり MAIN スイッチを手前（側）にスライドさせないでください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(➡ P.48)

フラットポイントについて

フラットポイント (➡ P.3) は表面の結露、湿気等により誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいだ手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

内蔵マイクをお使いのとき

- ・カラオケソフトなど一部のソフトウェアをお使いのとき、ハウリング（キーンと音がなること）が起きる場合があります。このようなときは、市販のヘッドホンやスピーカーをお使いください。
- ・スピーカーとマイクを同時に使いのときは、音量によってはハウリングが起きる場合があります。音量を調節してください。

「音量を調節する」(➡ P.35)

ただし、音量を小さくすると、添付のアプリケーション「電話機能」のスピーカーホン機能を使用したとき、内蔵のスピーカーとマイクでは十分な通話ができないことがあります。このような場合には、市販のヘッドホンとマイクをお使いください。

液晶ディスプレイの特性について

次の状態は故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024×768 の場合）または 144 万個以上（解像度 800×600 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・液晶ディスプレイはその特性上、温度変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

廃棄について

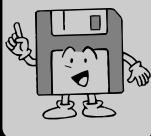
- ・液晶ディスプレイ内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。本パソコンの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。
- ・バッテリを廃棄するときは、バッテリがショートしないよう、バッテリ端子をテープ等で絶縁してください。また、廃棄については地方自治体の条例、または規則に従ってください。

第2章

基本的な機能を使おう

本章では、基本的な機能の操作方法などについて説明しています。

1. フロッピーディスクを使う	24
2. CD-ROMを使う	28
3. 音量を調節する	35
4. 画面の解像度や発色数を変える	37
5. 液晶ディスプレイの明るさを変更する	41
6. お手入れのしかた	42



フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクはプログラムやデータを保存するためのものです。ここでは以下のことを説明します。

- ・使えるフロッピーディスクは？ ☞P.24
- ・気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき ☞P.25
- ・フロッピーディスクをセットする／取り出す ☞P.26
- ・フロッピーディスクのデータを守るには ☞P.27



用語

MB

B(バイト)とは、パソコンで扱うデータの大きさの単位のことです。単位は、MBの他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1MBは約100万バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。



アドバイス

フロッピーディスクをフォーマットするときの注意

- ・フォーマットについて
☞『かるがるパソコン入門』
- ・本パソコンでは、1.2MBのフロッピーディスクのデータの読み出しや書き込みはできますが、1.2MBにフォーマットすることはできません。
- ・フォーマットした機種やソフトウェアが違うと、データを読み出せないことがあります。
- ・他社製のパソコンでフォーマットした場合は、使いになれないことがあります。

フォーマット済みのフロッピーディスクをお買い求めになるとき

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものを、お買い求めください。

使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の種類のフロッピーディスクがお使いになれます。

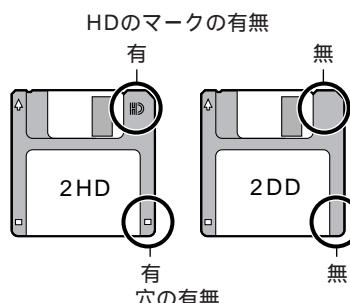
・2HD フロッピーディスク

記憶容量は、フォーマットにより異なります。1.44MBまたは1.2MBです。

・2DD フロッピーディスク

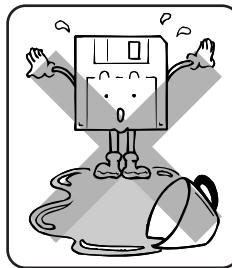
記憶容量は、2HD(1.44MB)の半分の720KBです。

2種類のフロッピーディスクの外見上の違いは、下図のとおりです。

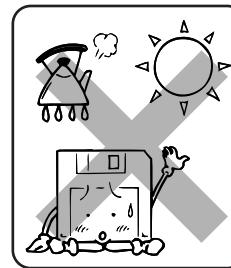


気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき

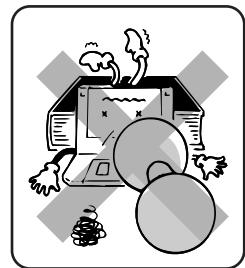
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



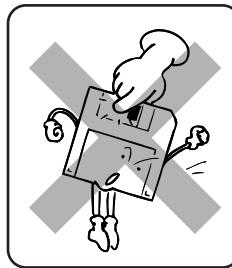
コーヒーなどの液体
がかからないように
注意してください。



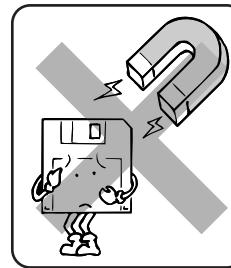
湿度の高い場所や直
射日光のあたる場所
には置かないでく
ださい。



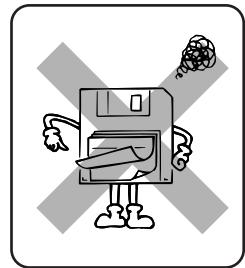
曲げたり、重い物
のせたりしないでく
ださい。



シャッタを開けて、中
のディスク面に、絶対
に触れないでください。



磁石など磁気を帯び
たものを近づけない
でください。



ラベルを重ねて貼ら
ないでください。
ドライブから取り出
せなくなる原因とな
ります。

フロッピーディスクをセットする／取り出す



注意



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスク ドライブの差込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

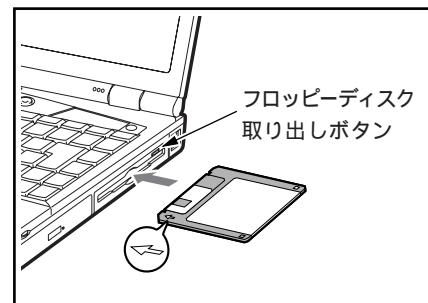
セットする

1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.46)

2 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込みます。

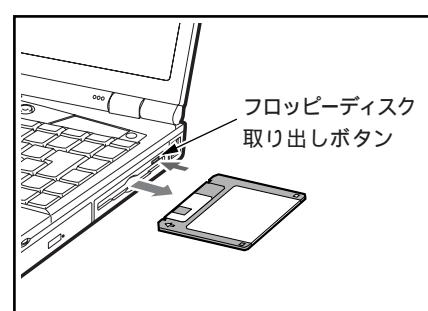
矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。



取り出す

1 状態表示LCDに□が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが少し飛び出します。



重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

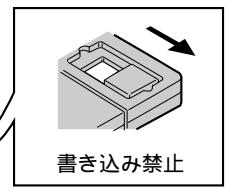
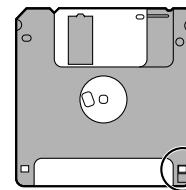
状態表示LCDに□が表示されているときに、フロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

フロッピーディスクのデータを守るには

ここでは保存してあるデータを守るために、フロッピーディスクを書き込み禁止にする方法と、書き込み禁止を解除する方法を説明します。

保存してあるデータの変更や削除をしたくないとき

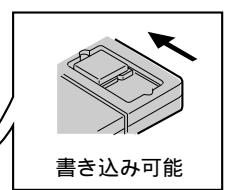
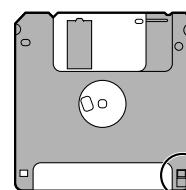
フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。書き込み禁止になります。データを読み込むことはできます。



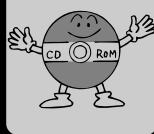
書き込み禁止タブ

データを書き込みたいとき

フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。書き込み可能になります。



書き込み可能タブ



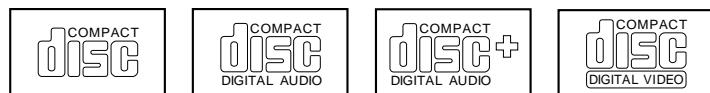
2 CD-ROM を使う

CD-ROM は、パソコンで扱えるデータやプログラムを保存した CD (コンパクトディスク) です。データは読み出しのみが可能で、書き込みはできません。ここでは以下のことを説明します。

- ・使える CD は? [P.28](#)
- ・気をつけてください~ CD を使うとき [P.28](#)
- ・CD-ROM をセットする / 取り出す [P.29](#)
- ・音楽 CD を聞く [P.33](#)

使える CD は?

本パソコンでは、以下のマークがついた CD-ROM や音楽 CD (12cm、8cm) がご利用になれます。

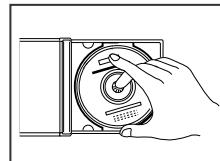


気をつけてください~ CD を使うとき

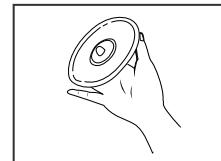
アドバイス

CD-ROM が結露したとき

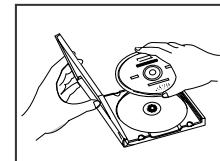
表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かってキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。



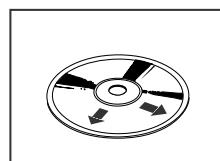
ケースから CD-ROM を取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



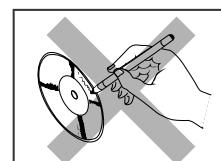
データ面 (裏面) に触れないように CD-ROM のふちを持つようにしてください。



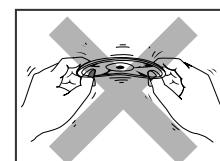
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



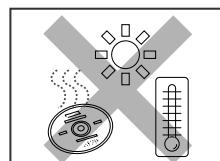
データ面が汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



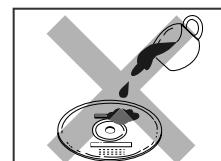
ラベルやシールを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



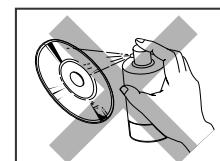
曲げたり、重いものをせたりしないでください。



高温や低温になる場所を避けて保管してください。



水などの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどを使わないでください。

CD-ROM をセットする / 取り出す



注意



けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレーに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

セットする

■ 重要

AC アダプタを取り付けてください

CD-ROM に頻繁にアクセスする場合は、AC アダプタを取り付けてください。

「AC アダプタを取り付ける」(☞P.50)

CD-ROM をセットするときの注意

CD-ROM ドライブのトレー中央の突起に CD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとめ込んでください。

きちんとめ込まないと、CD-ROM などの媒体が CD-ROM ドライブ内部で外れて、トレー やドライブの内部、および媒体を破損する原因となることがあります。

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときは、サスPEND

しないでください

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときにサスPEND(一時停止)すると、レジューム時(サスPENDする前の状態に戻したとき)にCD-ROMが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROMのアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROMをセットし直してください。

アドバイス

EJECT ボタンを押してもトレーが出ないとき

モードスイッチ(☞P.16)を CD Player の位置にスライドして口金ボタンを押してから、EJECTボタンを押してください。

MAINスイッチを切っている(側にスライドしている)ときは、MAINスイッチを側にスライドして電源を入れてください。

状態表示 LCD に  が点滅しているとき

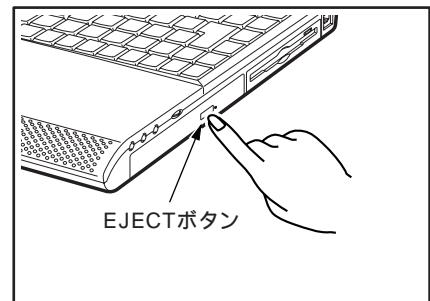
Windows 98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。

点滅は止めることもできます。

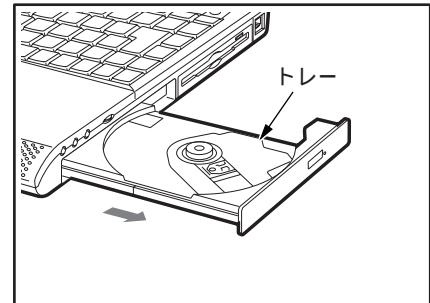
「 CD-ROM ドライブアクセス表示)の点滅を止めるには」(☞P.11)

1 EJECT ボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

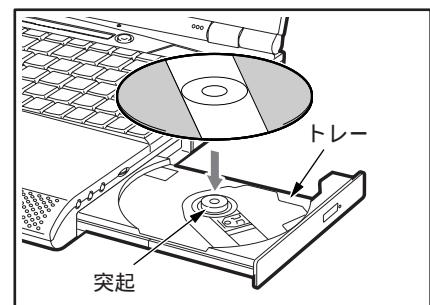


2 トレーを静かに引き出します。



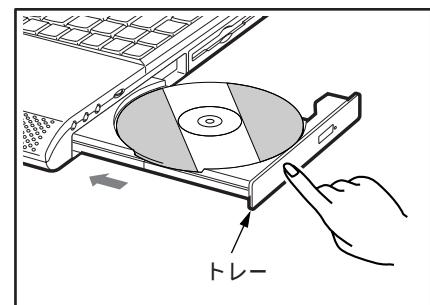
3 トレーの下部を手で支えながら、CD-ROM をセットします。

CD-ROM のレーベル面を上にして、トレー中央の突起にCD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD-ROM が取り出せなくなることがあります。



4 トレーを静かに押し込みます。

CD-ROM をセットしてから、本パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。

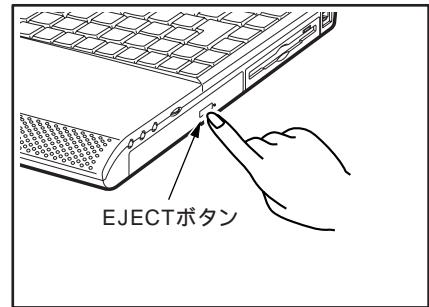


取り出す

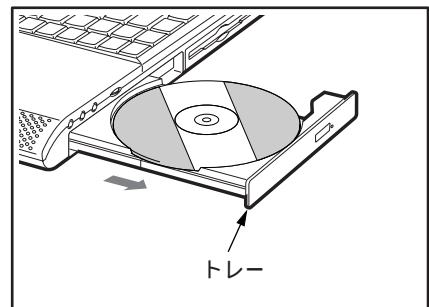
1 CD-ROMを利用しているアプリケーションがあれば終了します。

2 EJECTボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

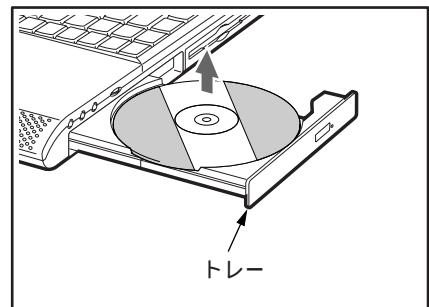


3 トレーを静かに引き出します。



4 CD-ROMを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、CD-ROMのふちを持ち上げてください。



アドバイス

EJECTボタンを押してもトレーが出ないとき

モードスイッチ (☞P.16) をCD Playerの位置にスライドして□合ボタンを押してから、EJECTボタンを押してください。

MAINスイッチを切っている(側にスライドしている)ときは、MAINスイッチを↓側にスライドして電源を入れてください。

状態表示LCDに \oplus が点滅しているとき

Windows98が、CD-ROMがセットされているかどうかを定期的に調べているため、 \oplus が点滅する場合があります。点滅中にEJECTボタンを押してもかまいません。

点滅は止めるこどもできます。

「 \oplus (CD-ROMドライブアクセス表示)の点滅を止めるには」(☞P.11)

5 トレーを静かに押し込みます。



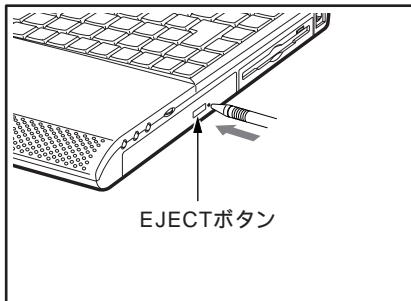
アドバイス

CD-ROMが取り出せなくなったとき

- 1 デスクトップの (マイコンピュータ) をクリックします。
- 2 「マイコンピュータ」ウィンドウの (E:) にマウスポインタを合わせます。
- 3 右ボタンをクリックします。
- 4 「取り出し」をクリックします。
トレーが少し飛び出します。
- 5 トレーを静かに引き出し、CD-ROMを取り出します。

上記の方法で取り出せないときは、次の方法で取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」([P.48](#))
- 2 EJECTボタンの右側にある穴に、ボールペンの先などを差し込みます。
トレーが少し飛び出します。



- 3 トレーを静かに引き出し、CD-ROMを取り出します。

音楽 CD を聞く

音楽用の CD は、ワンタッチボタンで操作できます。Windows 98 が終了しているときでも、CD を再生できます。

■ 重要

AC アダプタを取り付けてください

音楽用 CD を再生するときは、必ず AC アダプタを取り付けてください。

MAIN スイッチを切っているとき

Windows 98 を終了して MAIN スイッチを切っている（側面にスライドしている）ときは、CD を再生できません。

曲順表示 LCD に「SP」と表示されているとき

音楽 CD が停止してしばらくすると、節電状態になり、曲順表示 LCD に「SP」と表示されます。□合ボタンを押すと CD を操作できる状態に戻ります。

音量についての注意

Windows 98 が終了しているときやサスPENDしているときは、Windows 98 の音量つまり（☞P.35）の設定が無効になり、音量が大きくなります。音量ボリュームをしづかしてから再生を始め、好みの音量に調節してください。

「音量ボリュームで調節する」（☞P.35）

1 音楽用の CD をセットします。

「セットする」（☞P.29）

① Windows 98 が起動しているとき

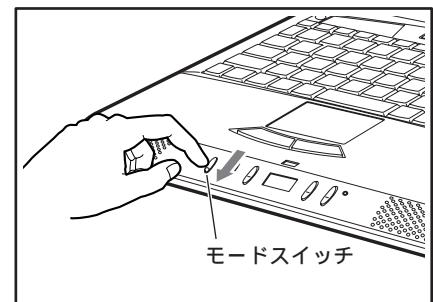
☞CD プレーヤーが起動し、音楽が始まります。

CD プレーヤーについては、FM 便利ツールのヘルプをご覧ください。

② Windows 98 が終了しているときや

サスPENDしているとき ☞手順 2 に進みます。

2 モードスイッチをCD Player の位置にスライドします。



アドバイス

ボタンで CD を操作
できます

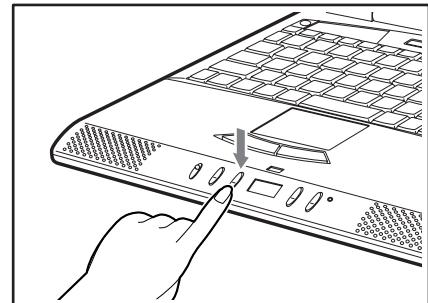
ワンタッチボタンを使って、曲戻しや曲送りなどの操作ができます。

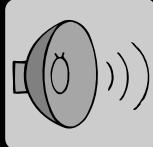
「ワンタッチボタン」の②
(☞P.17)

3

▷ボタンを押します。

音楽が始まります。





音量を調節する

アドバイス

ハウリング(キンと音がなること)が起きたとき

マイクをお使いのときに、音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングが起きる場合があります。音量を小さくしてください。

また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください。

➡ [トラブル解決 Q&A](#) の「スピーカーから変な音が出る」

スピーカーの確認

音量ボリューム、または音量つまみで音量を調節しても音が出ない場合は、スピーカーの状態を確認してください。[\[Fn\]](#) を押しながら [\[F3\]](#) を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーがON、音がない場合はスピーカーがOFFになります。

アドバイス

音量を表示したいとき

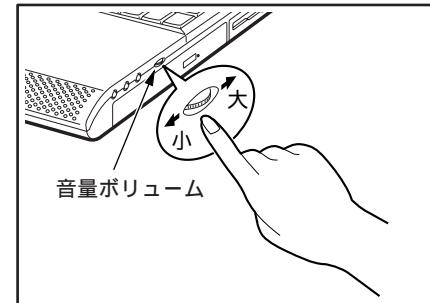
CD-ROMなどをお使いの最中に、タスクバーが表示されない場合は、[\[Alt\]](#) を押してください。タスクバーが表示されます。

音量を調節するには、パソコン本体の「音量ボリューム」で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法とがあります。

それぞれの音量調節は相互に関係しています。音量ボリュームでは、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり、小さくしたりできます。

音量ボリュームで調節する

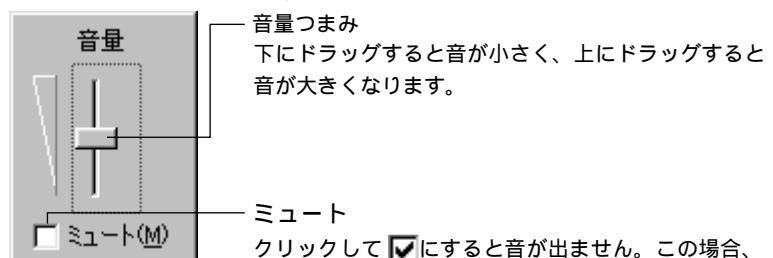
- 1 音量ボリュームを回して適当な音量に調節します。



音量つまみで調節する

音量ボリュームで調節しても、音が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、音量つまみで調節します。

- 1 タスクバーの (音量) をクリックします。
- 2 音量つまみをドラッグして、適当な音量に設定します。



- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

さまざまな音量を設定したいとき

音のバランスや入力時の音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示するには、次の2つの方法があります。

- ・タスクバーのをダブルクリックします。
- ・「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。

「ボリュームコントロール」ウィンドウでは、以下の音量設定ができます。

- ・ボリュームコントロール : パソコン全体の音量
- ・ライン : ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
- ・CD オーディオ : 音楽 CD の音量
- ・Wave アウト : Wave ファイルとソフトウェア MIDI の音量
- ・Midi アウト : MIDI の音量
- ・3D ワイド : 3D 効果の調整

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」、「プロパティ」をクリックし、「表示するコントロール」で、以下の項目をクリックしてを付けると「ボリュームコントロール」ウィンドウに表示されるようになります。

- ・レコーディングモニター : 録音時のモニター音
- ・レガシー : レガシーオーディオの音量
- ・ZV ポート : 未使用
- ・PC ピープ : 未使用
- ・テレフォン : モデムの音量
- ・マイクロфон : マイクイン・ジャックに接続したマイクと、内蔵マイクの音量
- ・ビデオ : 未使用
- ・AUX : 未使用
- ・モノアウト : モデムへのマイク入力

画面の解像度や発色数を変える

アドバイス

ご購入時の解像度

- NE/36LA, NE/36L, NE/36X
解像度: 1024 × 768 ドット
- NE/33, NE/33E
解像度: 800 × 600 ドット

ご購入時の発色数

High Color (16ビット)
High Color, True Colorの発色数

High Color (16ビット)は6万5千色、True Color (32ビット)は1677万色です。

別売のCRTディスプレイを接続したとき

別売のCRTディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数」(☞P.109)をご覧ください。

ここでは以下のことを説明します。

- 液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 ➡P.37
- 液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える ➡P.38

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。以下の解像度と発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数
640 × 480 ドット	256色 1 High Color (16ビット) 1 True Color (24ビット) 1 2 True Color (32ビット) 1 2
800 × 600 ドット	256色 1 High Color (16ビット) 1 True Color (24ビット) 1 2 True Color (32ビット) 1 2
1024 × 768 ドット 3 4	256色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) 2 True Color (32ビット) 2
1280 × 1024 ドット 4	256色 High Color (16ビット)
1600 × 1200 ドット 4	256色 High Color (16ビット)

- NE/36LA, NE/36L, NE/36Xは800 × 600 ドット以下の解像度、NE/33, NE/33Eは640 × 480 ドットの解像度に設定すると、設定した解像度を液晶ディスプレイ全体に拡大する全画面表示になります。
- 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color (24または32ビット)に表示されます。
- 1024 × 768 ドットの解像度で3Dアクセラレータを使用した場合、True Color 表示は、High Color (16ビット)表示になります。
- NE/36LA, NE/36L, NE/36Xは1280 × 1024 ドット以上の解像度、NE/33, NE/33Eは1024 × 768 ドット以上の解像度に設定すると、仮想スクリーンモードでの表示となります。仮想スクリーンモードでは、NE/36LA, NE/36L, NE/36Xは1024 × 768 ドット、NE/33, NE/33Eは800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

アドバイス 解像度や発色数を変更するとき

- ・設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ・アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。
- ・解像度を変更するときには、一時的に表示画面が乱れることがあります、動作に問題はありません。

液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える

重要

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

解像度や発色数を変更するときの注意

一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (画面) をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4

NE/36LA, NE/36L, NE/36Xをお使いの方

▶ 解像度を 1024×768 ドット以下に

設定する場合  16 (P.40)

▶ 解像度を 1280×1024 ドット以上

に設定する場合  5

▶ 発色数を変更する場合

 16 (P.40)

NE/33, NE/33Eをお使いの方

▶ 解像度を 800×600 ドット以下に

設定する場合  16 (P.40)

▶ 解像度を 1024×768 ドット以上に

設定する場合  5

▶ 発色数を変更する場合

 16 (P.40)

- 5** 「詳細」をクリックします。
- 6** 「モニタ」タブをクリックします。
- 7** 「変更」をクリックします。
- 8** 「デバイスドライバ更新ウィザード」の「次へ」をクリックします。
- 9** 「特定の場所にあるすべてのドライバの……」をクリックして^④にし、「次へ」をクリックします。
- 10** 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして^⑤にします。
- 11** 以下のように選びます。
 製造元：（標準モニタの種類）
 モデル：SuperVGA 1600 ×1200
- 12** 「次へ」をクリックします。
 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 13** 「次へ」をクリックします。
 「ハードウェア用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 14** 「完了」をクリックします。
- 15** 「閉じる」をクリックします。

アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

- 1 「OK」をクリックします。
 メッセージが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。
- 3 手順 16 へ進みます。

16 発色数や解像度を変更します。



(この画面は、機種により若干異なります)

17 「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

18 「OK」または「はい」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。

画面の設定が変更されます。

アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。



液晶ディスプレイの明るさを変更する

液晶ディスプレイの明るさは、PMSet98 で設定できます。

パソコンを使っている途中で明るさを変更したいときは、キーボードで変更します。
明るさは、8 段階まで調節できます。

明るさを設定する

PMSet98 の「電源依存」タブの「LCD バックライト」(☞P.70) で設定できます。AC アダプタで使っているときと、バッテリで使っているときの明るさをそれぞれ設定できます。

設定した明るさを変更する

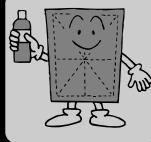
アドバイス キーで明るさを変更するときの注意

再起動したり、サスPEND からレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。

本パソコンを使用中に [Fn] を押しながら [F6] または [F7] を押すと、上記の設定に関係なく、明るさを 8 段階で調節できます。

調節中は、画面に明るさを示すインジケータが表示されます。

パソコンを再起動したり、サスPEND からレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行ったときは、PMSet98 で設定した明るさに戻ります。



6

お手入れのしかた

パソコンを快適にお使いいただくため、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、フロッピーディスクドライブなど、各部によって違います。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体／ディスプレイ／キーボードのお手入れ

 重要

お手入れ前の確認

感電やけがの原因になることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- ・パソコン本体の電源を切ってください。
- ・ACアダプタを取り付けている場合は、取り外してください。
- ・プリンタなど、取り付けている機器の電源を切り、パソコンから取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りのときには、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは別売のクリーニングフロッピーを購入して、3ヵ月に1回はヘッド（データを読み書きする部分）のクリーニングを行ってください。長い期間使用していると、ヘッドは汚れていきます。ヘッドが汚れると、記憶したデータを正常に読み書きできなくなります。



注意



フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた

1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」（☞P.46）

2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。

3 「C:¥WINDOWS >」のあとに **c:¥fjuty¥clndsk 0** と入力し、**Enter** を押します。

「clndsk」と「0」の間は、**Enter** を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。

4 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブに差し込み、**Enter** を押します。

「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングが始まります。クリーニングが終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。

5 「C:¥WINDOWS >」のあとに **exit** と入力し、**Enter** を押します。

Windows98の画面に戻ります。

6 状態表示LCDに□が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、クリーニングフロッピーを取り出します。

第3章

電源と節電機能を賢く使おう

本章では、電源の入れかたと切りかた、ACアダプタやバッテリでの使いかた、節電のしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る	46
2. ACアダプタで使う	50
3. バッテリで使う	52
4. 節電する	60
5. 節電の設定を変更する	67



1

電源を入れる / 電源を切る

ここでは以下のことを説明します。

- ・電源を入れてパソコンを使おう [P.46](#)
- ・今日はおしまい。電源を切るには? [P.48](#)

電源を入れてパソコンを使おう

■ 重要

電源を入れるときの注意

- ・フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされているときは、取り出してください。
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」([P.26](#))
- ・電源を切ったあと、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10秒ほど待ってから電源を入れてください。
- ・電源が入っている状態で、持ち運んだり、衝撃を与えたましください。
- ・長時間お使いになるときや通信をするときなど、大量の電力を消費する作業を行うときは、必ずACアダプタを取り付けてください。

バッテリで使うときの注意

以下の場合は、バッテリが充電されていないことがあります。バッテリ残量を確認し、必要に応じてバッテリを充電してください。

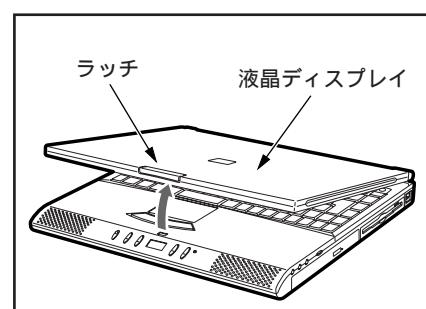
- ・本パソコンをご購入のとき
 - ・約1ヶ月以上充電していないとき
- 「残量を確認する」([P.54](#))
「充電する」([P.52](#))

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」([P.50](#))

2 液晶ディスプレイを開きます。

前面のラッチを上方向に引いてロックを外し、パソコン本体に手を添えて液晶ディスプレイを持ち上げます。



アドバイス

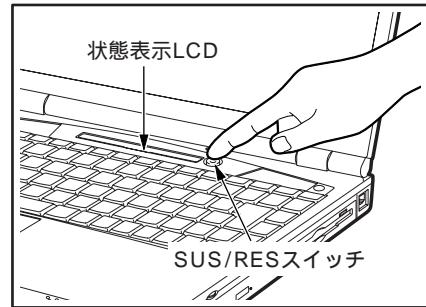
Windows 98 が起動しないとき

電源を入れても Windows 98 が起動しないときは、次の点を確認してください。

- ・ AC アダプタを取り付けているとき
AC アダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。
「AC アダプタを取り付ける」(☞P.50)
- ・ バッテリで使うとき
バッテリの残量が十分にあるかを確認してください。
「残量を確認する」(☞P.54)
- ・ 画面にメッセージが表示されているとき
「BIOS が表示するメッセージ一覧」(☞P.136)
以上の点を確認しても Windows 98 が起動しない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。FM インフォメーションサービスにご相談ください。

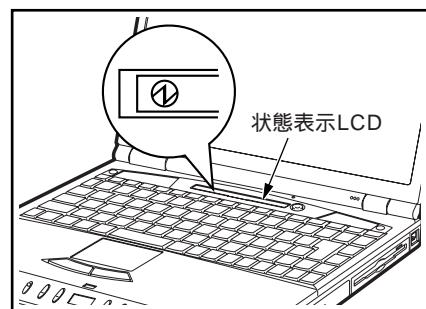
☞『トラブル解決 Q&A』の「第 3 章 サポート情報」

3 SUS/RES スイッチを押します。



状態表示 LCD に①が表示されます。

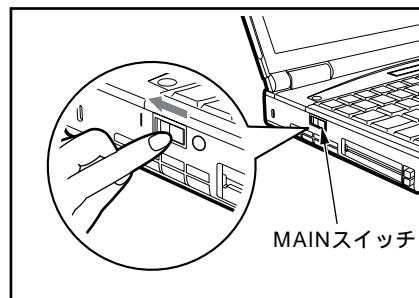
しばらくすると、Windows 98 が起動します。



アドバイス

MAIN スイッチを切っているとき

MAIN スイッチを切っている(側にスライドしている)ときは、MAIN スイッチを | 側にスライドして電源を入れてください。

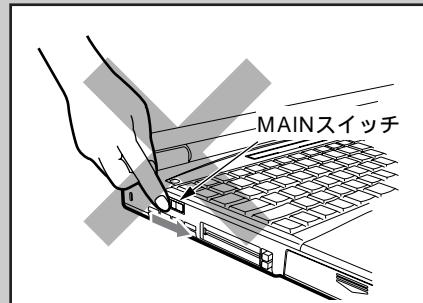


今日はおしまい。電源を切るには？

■ 重要

電源を切るときの注意

- ・状態表示 LCD に①(SUS/RES 表示)が点灯または点滅しているときは、MAINスイッチを手前(側)にスライドしないでください。
- ・必ず、以下の手順で Windows の終了処理を行ってください。
Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。



- ・電源を切る前に、フロッピーディスクや CD-ROM を取り出してください。
「フロッピーディスクをセットする／取り出す」(☞P.26)
「CD-ROM をセットする／取り出す」(☞P.29)

1 それまで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 状態表示 LCD に①や②が表示されていないことを確認します。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



アドバイス

フロッピーディスク
がセットされている
とき

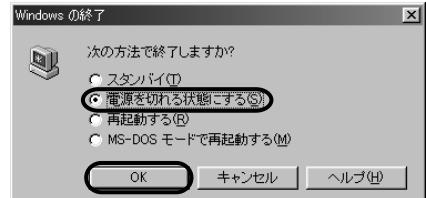
フロッピーディスクドライ
ブにフロッピーディスクが
セットされると、「フ
ロッピーディスクが入って
います。Windows の終了
を中止します。」という
メッセージが表示されま
す。

その場合は、「閉じる」をク
リックし、フロッピーディ
スクを取り出して、手順 3
から操作し直してください。

**続けてバッテリを充
電するとき**

電源を切ったあとに AC ア
ダプタを取り外す必要はあ
りません。

4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

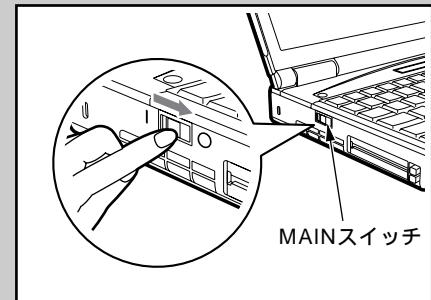


しばらくすると、状態表示 LCD の①が消え、電源が自動的に切れます。

■ 重要

次のときは MAIN スイッチを切って(側にスライドして)ください

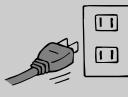
- ・長い間使わないとき
 - ・携帯するとき
 - ・オプション機器の取り付けや取り外しを
するとき
 - ・バッテリ残量が気になるときや節電し
たいとき
- MAIN スイッチを切らないと、電力を若
干消費します。電力を消費したくないとき
は、MAIN スイッチを 側にスライド
して電源を切ってください。



MAIN スイッチを切っているときは、ワンタッチボタンが使えません。

5 AC アダプタを取り外します。

「AC アダプタを取り外す」(P.51)



2

AC アダプタで使う

本パソコンを長時間使うとき、またはバッテリを充電するときは、ACアダプタを取り付けて、コンセントに接続します。パソコン本体を持ち運ぶときや、長期間本パソコンを使わないときは、ACアダプタを取り外します。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・ACアダプタを取り付ける ➡ P.50
- ・ACアダプタを取り外す ➡ P.51

ACアダプタを取り付ける

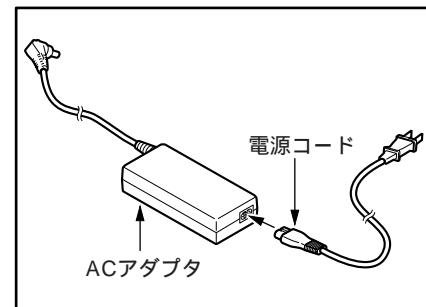


警告

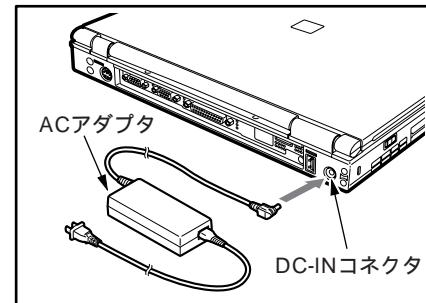


近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

1 電源コードを接続します。



2 ACアダプタをDC-INコネクタに接続します。



3 ACアダプタをコンセントに接続します。

ACアダプタを取り外す

■ 重要

バッテリは充電されていますか

本パソコンを使っている途中でACアダプタを取り外すときは、バッテリが充電されているか確認してください。

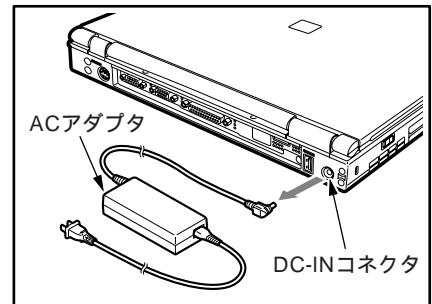
「残量を確認する」（☞P.54）

次の場合は必ずACアダプタを取り外してください

- ・オプション機器の取り付けや取り外しを行うとき
- ・本パソコンを長期間使わないとき

1 ACアダプタをコンセントから抜きます。

2 ACアダプタをDC-INコネクタから取り外します。





3 バッテリで使う

外出先など、コンセントがない場合には、バッテリで使うことができます。
ここでは以下のことを説明します。

- ・充電する [P.52](#)
- ・充電時間 [P.53](#)
- ・稼動時間 [P.54](#)
- ・残量を確認する [P.54](#)
- ・気をつけてください～バッテリを使うとき [P.57](#)
- ・内蔵バッテリパックを交換する [P.57](#)

■ 重要

充電してください

本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していないときは、充電してからお使いください。

次の場合は必ずACアダプタを取り付けてください

- ・パソコン通信やインターネットを利用するとき
- ・ハードディスクやCD-ROMに頻繁にアクセスするとき
- ・LANカードを使用するとき
- ・『トラブル解決Q&A』の「第4章 パソコンをふりだしにもどす」の作業を行うとき
- ・音楽CDを再生しているとき

充電する

■ 重要

バッテリを充電するときの注意

- ・満充電になるまで充電をやめないでください。
バッテリを充電するときは、バッテリ充電表示(状態表示LCDの↑■■■の↑)が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。満充電になると→が消えます。
- ・バッテリ残量表示が■■■になっていても、左端が点滅(※■■)していたり、→が表示されているあいだは、満充電ではありません。
- ・バッテリが約90%以上残っているときは、充電を開始しないことがあります。
「残量を確認する」([P.54](#))
- ・充電は、周囲の温度が5～35の範囲で行ってください。周囲の温度が高すぎたり低すぎたりする場合は、得られる電池容量が低くなります。また、周囲の温度が高いとき(35以上)は、バッテリの劣化の原因になります。
- ・本パソコンを使った直後は、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働き、適温になるまで充電を開始しないことがあります。

アドバイス

電源を切っているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリ充電表示を確認してください。

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」（☞P.50）

ACアダプタを取り付けると充電が始まり、バッテリ充電表示（状態表示LCDの \square の \square ）が表示されます。

バッテリ充電表示は、充電が完了すると消えます。

バッテリ残量表示は、充電が完了すると点滅（ \square ）から点灯（ \square ）に変わります。

「残量を確認する」（☞P.54）

「充電時間」（☞P.53）

状態表示LCDに何も表示されなかったり、バッテリ充電表示が表示されないときは、充電が完了しています。

2 バッテリ充電表示（状態表示LCDの \square の \square ）が消えたことを確認します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」（☞P.51）

充電時間

アドバイス

充電中もパソコンを使えます

バッテリの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っているときよりも長くなります。

作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント（☞P.3）に触れてください。フラットポイントに触れても元の状態に戻らないときは、SUS/RESスイッチ（☞P.3）を押してください。

本パソコンは、バッテリで使うときに節電するように、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

充電時間は、電源の状態によって異なります。

新品で充電残量0%のバッテリパックを満充電（100%充電されている状態）にする場合は、次の表のとおりです。

電源の状態	状態表示LCD	パソコンの状態	充電に必要な時間
電源入	①が点灯	動作中	約9時間
	①が点滅	サスPEND（一時停止）状態	約3時間
電源切	①が消灯	終了	

サスPENDについて「サスPEND機能を使う」（☞P.61）

稼動時間

新品のバッテリを満充電にした場合、稼動時間の目安は、次の表のとおりです。

NE/36LA, NE/36L	約2.2時間
NE/36X	約2.3時間
NE/33, NE/33E	約2.4時間

使用条件：オプション機器を取り外している状態で、Windows 98 の「電源の管理」や BIOS セットアップで節電の設定を有効にしているとき（ご購入時は有効）

本パソコンをバッテリで使える時間（稼動時間）は、バッテリの状態や作業内容によって異なります。

パソコン通信など、大量の電力を消費する作業を行うと、バッテリの稼動時間は短くなります。

■ 重要

バッテリの稼動時間について

- 周囲の温度が低いときは、周囲の温度が高いときに比べて充電と放電の能力が低くなるため、バッテリの稼動時間が短くなります。
- バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリの稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリパックに交換してください。

「内蔵バッテリパックを交換する」（☞P.57）

残量を確認する

アドバイス

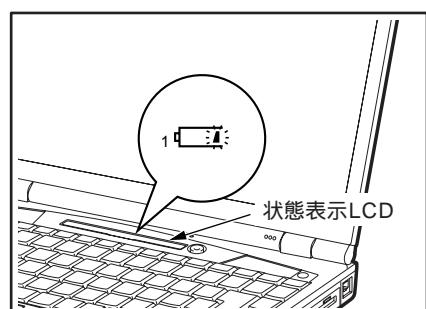
バッテリ充電表示（状態表示LCDの $\square\blacksquare\blacksquare$ ）について

バッテリが充電中であることを示しています。充電が完了すると矢印は消えます。

バッテリの残量がなくなると、作業中のデータが保存できなくなることがあります。本パソコンをバッテリで使っているときは、状態表示LCDでバッテリ残量を確認してください。

バッテリ残量表示

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に状態表示LCDで確認できます。バッテリ残量表示は、充電をするタイミングの目安になります。



■ 重要

バッテリ残量表示について

状態表示LCDに表示されるバッテリ残量表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充電回数など）により、実際のバッテリ残量と異なる表示をする場合があります。



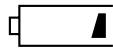
約 100 ~ 76 %



約 75 ~ 51 %



約 50 ~ 26 %

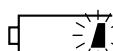


約 25 ~ 13 %

充電してください。



「充電する」(P.52)

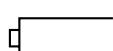


約 12 % 以下

バッテリ残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。しばらくするとバッテリの残量がなくなります。

この状態になったときは、すぐにサスPEND（一時停止）してください。

「LOW バッテリ状態」(P.56)



バッテリ切れ状態（充電残量 0 %）

すぐに充電してください。

「充電する」(P.52)

バッテリの異常表示

バッテリが正しく充電されないときは、（バッテリ残量表示）が点滅します。バッテリを取り付け直してください。

取り付け直しても表示される場合は、バッテリの異常です。新しいバッテリに交換してください。

「内蔵バッテリパックを交換する」(P.57)

ロウ

LOW バッテリ状態

アドバイス

次の場合は警告音が聞こえません

- スピーカーを OFF にしているとき
- 〔F1〕を押しながら〔F3〕を押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーが ON、音がない場合はスピーカーが OFF になります。
- 音量ボリュームを小さくしているとき

気をつけてください～バッテリを使うとき

自然放電します

- ・長期間（約1ヵ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリパックを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリパックの寿命が短くなります。
- ・バッテリは、充電後お使いにならずに保管しても、約1ヵ月で自然放電してしまいます。バッテリは使う直前に充電することをお勧めします。

消耗品です

バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下します。バッテリの稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。また、パソコンを長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度は、パソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。

重要

以下の場合はバッテリを取り外してください

万一、本パソコンから発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちにACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて、内蔵バッテリパックを取り外してください。

内蔵バッテリパックを交換する

バッテリの稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。

新しいバッテリは、以下のものをお買い求めください。

商品名 : Li-ion バッテリパック FM-20

商品番号 : 0643770

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375）



- 感電
- ・内蔵バッテリパックの取り付けや取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。
 - ・バッテリは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付けや取り外しを行う場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは使用しないでください。感電や火災、破裂の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.48)をご覧になり、MAINスイッチを切って(側面にスライドして)ください。

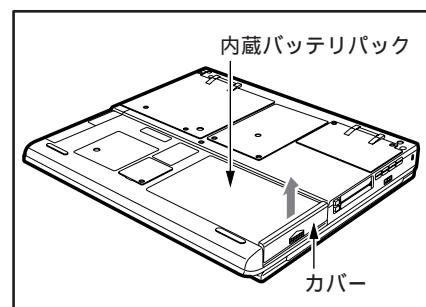
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(☞P.51)

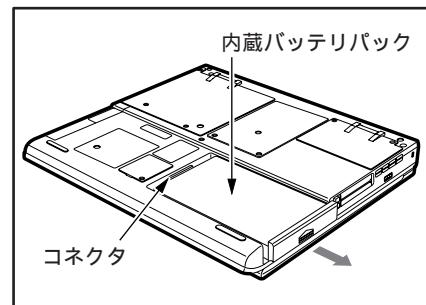
4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

5 内蔵バッテリパックのカバーを上にスライドします。

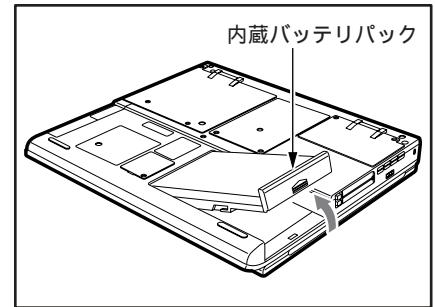


6 内蔵バッテリパックをスライドします。

内蔵バッテリパックが、コネクタから外れます。

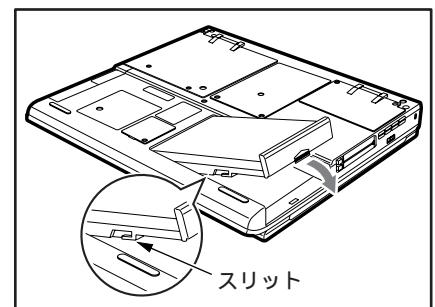


- 7** 内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げながら、取り外します。



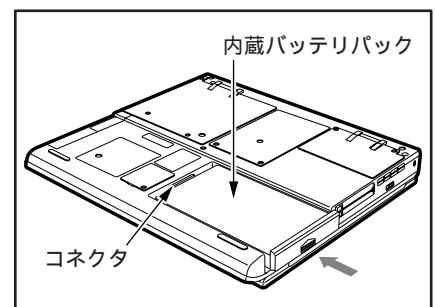
- 8** 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

パソコン本体の突起と内蔵バッテリパックのスリットを合わせてください。

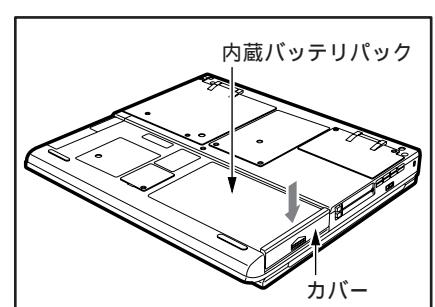


- 9** 内蔵バッテリパックをスライドします。

コネクタが、内蔵バッテリパックとしっかりと接続するようにスライドしてください。



- 10** 内蔵バッテリパックのカバーを下にスライドします。



4 節電する

パソコンを使っている途中でひと休みするときは、パソコンも休ませて節電しましょう。

本パソコンには、パソコンの動作を停止させて節電するための、「サスPEND機能」と「Save To Disk 機能」があります。

ここでは以下のことを説明します。

- ・サスPEND機能と Save To Disk 機能 ➡P.60
- ・サスPEND機能を使う ➡P.61
- ・Save To Disk 機能を使う ➡P.64

サスPEND機能と Save To Disk 機能

サスPEND機能とは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させる機能です。

Save To Disk 機能とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切る機能です。

これらの機能を利用すると、アプリケーション使用中でも、本パソコンを一時停止したり電源を切ったりして節電することができます。

サスPEND機能と Save To Disk 機能の違いは以下のとおりです。

	サスPEND機能	Save To Disk機能
作業状態の保存場所	メモリ	ハードディスク
電源の状態	節電状態 (メモリの内容を維持するためだけの電力を消費する)	電源を切っている状態 (電力を消費しない)

MAINスイッチを切っている（側にスライドしている）とき

■ 重要

LANカードなどのPCカードをお使いのとき

LANカードを使ってネットワークに接続しているときなど、PCカードをセットしているときは、サスPEND機能やSave To Disk機能が使えないことがあります。PCカードをお使いのときに作業を中断する場合は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

サスPEND機能を使う

サスPEND機能を使うと、パソコンの動作を一時停止し、作業を中断できます。中断した作業を再開すると、サスPEND機能を使う前の状態に戻ります。

■ 重要

サスPENDが可能な時間

新品のバッテリを満充電にした状態で、約1日サスPENDできます。

サスPENDが可能な時間が短くなるとき

「PMSet98」で、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がに設定されている場合（ご購入時は）は、サスPEND可能な時間が短くなることがあります。

「節電の設定を変更する」（☞P.67）

サスPENDについての注意

- ・ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード利用中は、それらの作業を完了または中断してからサスPENDしてください。
- ・サスPENDしているときにバッテリが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。バッテリでパソコンを使っているときにサスPENDする場合には、バッテリ残量に十分注意してください。長い時間サスPENDするときは、ACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- ・Windows98が起動するまでの間は、サスPENDしない場合があります。

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときは、サスPEND

しないでください

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときにサスPENDすると、レジューム時にCD-ROMが二重に起動てしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROMのアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROMをセットし直してください。

オプション機器を接続しているとき

ドライバのインストールが必要なオプション機器を接続しているときは、ドライバのインストールを終了してからサスPEND機能を使ってください。

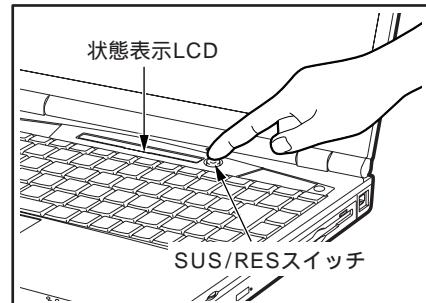
作業を中断する（サスペンド機能）

サスペンドするには、SUS/RESスイッチ（☞P.3）を使う方法や、液晶ディスプレイを閉じる方法などがあります。

SUS/RESスイッチを使う

1 状態表示LCDに□や□が表示されていないことを確認し、SUS/RESスイッチを押します。

しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。



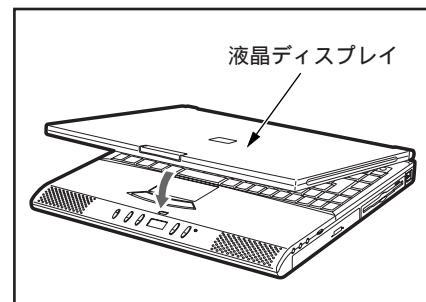
液晶ディスプレイを閉じる

■ 重要

液晶ディスプレイを閉じてサスペンドするときの注意

Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

1 状態表示LCDに□や□が表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンドしないようにするには

BIOSセットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスペンド」を「使用しない」に設定してください（ご購入時は「使用する」）。

「BIOSセットアップの操作のしかた」（☞P.115）

サスペンドの別の操作方法

「スタート」ボタンから「Windowsの終了」をクリックして表示される「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」をクリックしても、サスペンドできます。

中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「リジューム」といいます。

リジュームするには、SUS/RESスイッチ(☞P.3)を使う方法や液晶ディスプレイを開く方法などがあります。

■ 重要

リジュームするときの注意

サスPENDした直後にリジュームしないでください。リジュームするときは、10秒ほど待ってください。

SUS/RESスイッチは4秒以上押さないでください

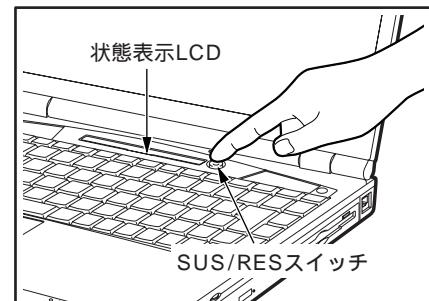
SUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを開いているとき

1 状態表示LCDに①が点滅していることを確認します。

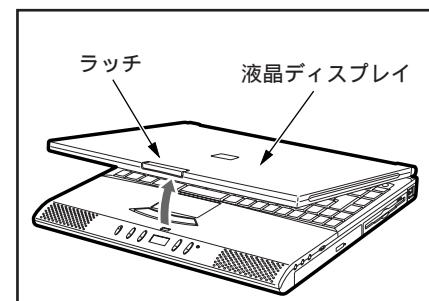
2 SUS/RESスイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



液晶ディスプレイを開じているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。



アドバイス

リジューム時の画面の乱れについて

リジュームするとき、一時的に画面表示が乱れことがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

リジューム後にキーボードが使用できないとき

BIOSセットアップの「セキュリティメニュー」(☞P.125)で、「起動時のパスワード」と「リジューム時のパスワード」を「使用する」に設定していると、リジューム後はフラットポイント(マウス)と、パスワードを入力する以外のキーボード操作ができません(状態表示LCDの①、②が一定時間順番に表示されます)。

この場合は、起動時のパスワードを入力し、[Enter]を押してください。キーボードとフラットポイント(マウス)が使用できるようになります。

Save To Disk 機能を使う

Save To Disk機能を使うと、作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断できます。中断しているあいだは、電源が切れているので、電力を消費しません（MAINスイッチを切っているとき）。中断した作業を再開すると、中断する前の作業状態に戻ります。

■ 重要

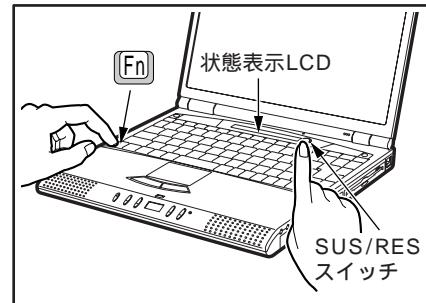
オプション機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うとき

PCカードやプリンタなどの機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うと、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

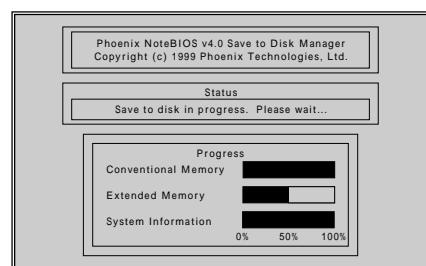
作業を中断する（Save To Disk 機能）

1 状態表示 LCD に や が表示されていないことを確認します。

2 を押しながら、SUS / RES スイッチを押します。



ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



■ 重要

電力を消費しないようにするには

MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。

中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「リジューム」といいます。

■ 重要

リジュームするときの注意

Save To Disk 機能で作業を中断した直後にリジュームしないでください。リジュームするときは 10 秒ほど待ってください。

アドバイス

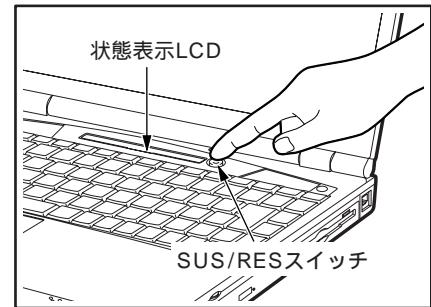
MAIN スイッチを切っている(側面にスライドしている)とき

MAIN スイッチを側面にスライドすると、リジュームします。

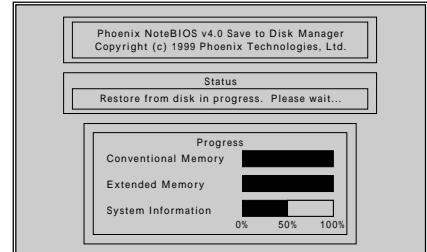
リジューム時の画面表示の乱れについて

リジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

1 SUS/RES スイッチを押します。



保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。





節電機能について

コラム

フラットポイント(マウス)や、キーボードの操作をしないまま一定時間過ぎると、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

本パソコンご購入時は、バッテリで使っているときに節電機能が働くように設定されています。

Windows98の「電源の管理」で、節電の設定を変更できます。ACアダプタで使うときに節電したり、節電機能を使わないようにすることもできます。

なお、通常お使いになるうえでは、節電の設定を変更する必要はありません。

「節電の設定を変更する」(☞P.67)

本パソコンの動作状態がわからないとき

パソコンを使おうとしたときに、パソコンが一時停止状態なのか、終了している状態なのか迷ったときは、次の順番で確認してください。画面が表示されたら、それ以降は、操作する必要はありません。

- 1 フラットポイントに触れる
- 2 SUS/RESスイッチを押す
- 3 MAINスイッチが手前(+)側)にスライドされているときは、奥(-側)へスライドする
間違えてMAINスイッチをスライドして、前回の作業状態が消えてしまった...などとい
うことがないように、気をつけてください。

節電の設定を変更する

本パソコンは、電源やパソコンの状況に合わせて適切に節電されるように設定されています。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・ご購入時の節電の設定 ➡ P.67
- ・「電源の管理」で設定を変更する ➡ P.67
- ・「PMSet98」で設定を変更する ➡ P.68

ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリで使うときに節電されるように設定されています。

節電の設定は、通常お使いになる上では、変更する必要はありません。変更する場合は、「PMSet98」またはWindows98の「電源の管理」を使います。

「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定します。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 (電源の管理) をクリックします。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

節電機能が働くまでの時間の設定は、「電源設定」タブで変更します。

バッテリの残量が少なくなったときにWindows98が出す警告の設定は、「アラーム」タブで変更します。

変更のしかたや設定項目について詳しくは、Windows98のヘルプをご覧ください。

アドバイス

サスPENDするまでの時間を変更するには

「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で、時間を変更してください。

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

節電方法をさらに細かく設定したいときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの項目も設定してください。

「省電力メニュー」(➡P.126)

バッテリの残量が12%以下になったとき

バッテリの残量が約12%以下の状態を、「LOWバッテリ状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリ残量表示(状態表示LCDの)が点滅し、警告音が鳴ります。

「LOWバッテリ状態」(➡P.56)

Windows98のヘルプで関連する項目を探すには

「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックすると、「Windowsのヘルプ」ウィンドウが表示されます。「キーワード」タブで、「電源」などの検索語を入力して表示される一覧から、該当する項目をクリックし、「表示」をクリックします。

「PMSet98」で設定を変更する

「PMSet98」には、現在の設定内容が表示される「PMSet98のプロパティ」ウィンドウと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98 のプロパティ」 ウィンドウを表示する

1 タスクバーの⑪または⑫をダブルクリックします。

「PMSet98 のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。



- タスクバーに⑪または⑫が表示されていないとき
「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「PMSet98」の順にマウスボインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。
- ⑫が点滅しているとき
バッテリの充電中は、タスクバーの⑫が点滅しています。
- 「PMSet98」を終了するには
「PMSet98」は、Windows 98 を起動するたびに起動します。
「PMSet98」を使用しないときは、タスクバーの⑪または⑫を右クリックし、「終了」をクリックします。

インジケータを表示する

インジケータには、バッテリ残量や電源の状態が表示されます。

1 「PMSet98 のプロパティ」 ウィンドウを表示します。

「PMSet98 のプロパティ」 ウィンドウを表示する

2 「インジケータ」 タブをクリックします。

アドバイス

表示位置について

- ・インジケータと他のウィンドウが重なったときは、インジケータが常に前面に表示されます。
- ・インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
- ・「自由位置 [ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- ・「種類」の右の ▾ をクリックすると、インジケータの種類を選べます。

電源の状態が表示されないと

「PMSet98のプロパティ」
ウィンドウの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックして を にします。

3 「インジケータを表示する」をクリックして を にします。

4 「表示位置」の右の ▾ をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。

5 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

: ACアダプタ接続時

: バッテリで使用時

3

電源と節電機能を賢く使おつ（節電の設定を変更する）

アドバイス

「CPUクロック」について

本パソコンでは、この項目は設定できません。

設定を変更する

「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウで設定できる項目について説明します。

LCD バックライト

液晶ディスプレイのバックライトの明るさを変更して、節電するかどうかを設定します。

「電源依存」タブの「LCD バックライト」で、ACアダプタで使っているときとバッテリで使っているときを、別々に設定できます。明るさは8段階に設定でき、「暗」に近づけるほど節電できます。

設定を変更したときは、「適用」または「OK」をクリックしてください。

設定した明るさを、キーボードで一時的に変更できます。

「設定した明るさを変更する」(☞P.41)

電話がかかってきたらレジュームする

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする(サスペンドする前に戻す)かどうかを設定します。

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックして を にし、「適用」または「OK」をクリックします。

アドバイス

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

BIOS セットアップの「省電力」メニューの「モデム着信によるレジューム」(☞P.127) でも設定を変更できます。

「PMSet98」で設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

レジュームするように設定しているとき

- ・PDC コネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。

- ・ を押しながら、SUS/RES スイッチを押して Save To Disk 機能を使っているときは、レジュームしません。

「Save To Disk 機能を使う」(☞P.64)

- ・BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」(☞P.127)などを「Save To Disk」に設定していても、サスペンドになります。

- ・サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が大きくなります。ACアダプタを接続してお使いになることをお勧めします。

第4章

オプション機器を活用しよう!

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、取り付けられるオプション機器の例を紹介し、取り付け方法や設定作業などについて説明しています。

1. オプション機器について	72
2. プリンタを接続する	75
3. メモリを増やす	79
4. マウス / テンキー ボードを接続する	87
5. PC カードをセットする	88
6. 携帯電話や PHS を接続する	95
7. CRT ディスプレイを接続する	104
8. その他のオプション機器を使う	111

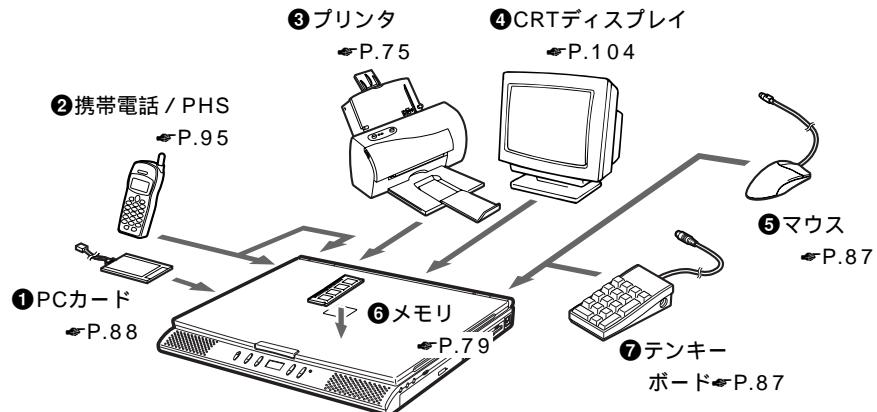
オプション機器について

ここでは以下のことを説明します。

- ・オプション機器の紹介 ➡ P.72
- ・オプション機器の接続にあたって ➡ P.73

オプション機器の紹介

本パソコンに取り付けられるオプション機器には、次のようなものがあります。接続のしかたなどについて詳しくは、各機器の参照先をご覧ください。



① PC カード

パソコンにさまざまな機能を追加できます。

② 携帯電話 / PHS

携帯電話や PHS を利用して、インターネットやパソコン通信ができます。

③ プリンタ

パソコンで作った文書や画像などを印刷できます。

④ CRT ディスプレイ

液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。

⑤ マウス

マウスポインタの操作がより快適にできます。

⑥ メモリ

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになり、パソコンの処理が快適になります。

⑦ テンキー ボード

数字を効率よく入力できます。

アドバイス

取り付けられるその他のオプション機器

- ・外径 3.5mm のミニプラグを持つオーディオ機器マイクやアンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンなどを、本体右側のジャックに接続できます。
- ・SCSI 規格対応の機器本体左側面の PC カードスロットに SCSI カードをセットすることで、SCSI 規格に対応した外付けハードディスクや MO(光磁気ディスク)ドライブなどを接続できます。

RS-232C 規格対応の機器

RS-232C 規格に対応した機器(デジタルカメラなど)を、本体背面のシリアルコネクタに接続できます。

- ・USB 規格対応の機器 USB 規格に対応した機器(マウスやキーボードなど)を、本体背面の USB コネクタに接続できます。

■ 重要

ドライバ

パソコンに取り付ける機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、パソコンとオプション機器との間を仲介します。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、機器が理解できるように翻訳するのがドライバの役目です。

ドライバは、それぞれの機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどの機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

インストール

ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にすることです。

オプション機器の接続にあたって

ここでは別売のオプション機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT互換機」です

パソコンには、さまざまな種類のものがあります。本パソコンは、「PC/AT互換機」です。また、通称で「DOS/Vパソコン」と呼ばれることもあります。

本書では、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴に沿って説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。

ただし、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。

本書をよくご覧になり、取り付けてください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。機器によっては、取り付けかたなどが異なる場合があります。本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するケーブルは、プリンタには「プリンタケーブル」というように、オプション機器によって、専用のケーブルが用意されています。

また、パソコンの規格によっても、使えるケーブルの種類が決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されたものです。

形状が同じでつながるように見えてても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

純正品をお使いください

オプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。オプション機器については、FAX サービスをご利用になるか、販売店にお問い合わせください。

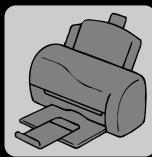


他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

取り付け / 取り外し時の注意

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、次の点に注意してください。

- ・作業を行う前に、パソコン本体および取り付けられている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・PS/2 規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows 98 のセットアップ終了後に行ってください。Windows 98 のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。
- ・電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。内蔵機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。



プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する P.75
- ・プリンタを接続する P.76

必要なものを用意する



警 告

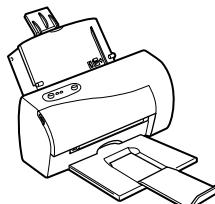


感 電

プリンタは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

プリンタによって、用意するものが異なります。プリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタ



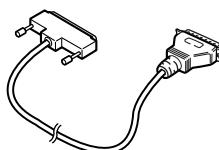
Windows 98 で動作可能なプリンタを用意してください。

プリンタのドライバ



プリンタによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類あるときは、「Windows 98 用」、「PC/AT 互換機用」、「DOS/V 用」などと表示されたものをお使いください。

プリンタケーブル



プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。

プリンタのマニュアル



プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CD-ROMで見るマニュアルもあります。

プリンタを接続する



感電 プリンタの接続や取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

感電、火災または故障の原因となります。

故障 ケーブルは正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

■ 重要

プリンタの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.48)をご覧になり、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

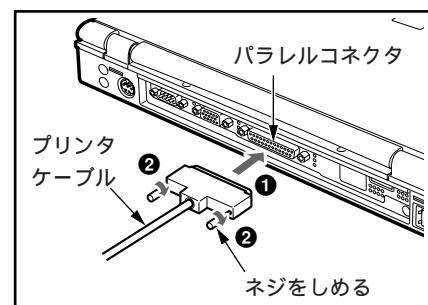
「ACアダプタを取り外す」(☞P.51)

4 パソコン本体背面のパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

①コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。

②プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



アドバイス

「Windows 98 の CD-ROM を挿入してください」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:¥windows¥options ¥cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

プリンタを取り外すとき

- ・パソコンとプリンタの電源を切り、ケーブルを取り外してください。
- ・もう一度同じプリンタを取り付けるときは、ドライバのインストールを行う必要はありません。

印刷のしかたについて

印刷のしかたについては、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

5 プリンタに、プリンタケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。

6 プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

7 プリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。

8 初めて接続したプリンタを使うには、ドライバのインストールという設定作業を行います。

プリンタのマニュアルをご覧になり、必ずドライバのインストールを行ってください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCD-ROM を使うことがあります。

「フロッピーディスクをセットする／取り出す（☞P.26）」

「CD-ROM をセットする／取り出す（☞P.29）」

プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに、「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは次のように操作してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。

2 「プリンタ」ウィンドウで「プリンタの追加」をクリックします。 「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。



アドバイス

弊社製 FMLBP シリーズのプリンタを接続したとき

FMLBP シリーズのプリンタを接続したときに、プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われないことがあります。

その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」をクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードが ESC/P モードの場合は、「ESC/P モード」をクリックします。
プリンタ側のモードが FM モードの場合は、「FM モード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。

そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。

XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年5月現在)

・プリンタドライバは、バージョンアップがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

・最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。

5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。

本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。

インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



3

メモリを増やす

用語 メモリ

記憶装置の総称です。ここでいうメモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

本パソコンご購入時のメモリ容量は 64MB です。最大 256MB まで増やすことができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する [P.79](#)
- ・メモリを取り付ける / 取り外す [P.80](#)

重要

メモリを 256MB にするとき

お買い求めのときに本パソコンに取り付けられているメモリは、64MB の拡張 RAM モジュールです。メモリを 256MB に増やすときは、取り付けられている 64MB の拡張 RAM モジュールを取り外し、128MB の拡張 RAM モジュールを取り付けてください。

必要なものを用意する



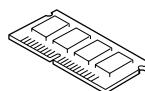
警告



感電

プリンタは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

メモリ ラム
(拡張RAMモジュール)



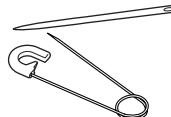
FMVN16SB、FMVN64SC、
FMVN32SC、FMVN12SC の
メモリのうち、1枚取り付けられます。
それぞれの数字はメモリの容量を示
しています。

プラスのドライバー



本パソコンのネジを取り外すときに
使います。ネジの頭をつぶさないよ
うに、ネジのサイズに合ったものをお
使いください。

針や安全ピンなどの
先のとがったもの



本パソコンのネジカバーを取り外す
ときに使います。

メモリを取り付ける／取り外す



警告

感電 メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

誤飲



取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意

けが メモリの取り付けや取り外しをするときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また故障の原因となることがあります。

故障 メモリの取り付けや取り外しをするときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持ってください。

指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

■ 重要

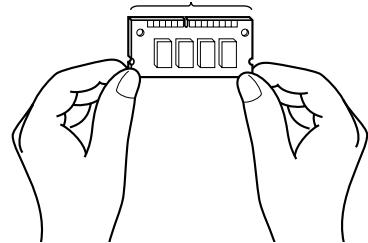
メモリの取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

取り付け／取り外し時の注意

- メモリは静電気に対して非常に弱い部品でできています。そのため人体にたまたま静電気によって壊れる場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。
- メモリを取り扱うときは、右図のようにふちを持ってください。また、メモリの取り付けや取り外しをするときは、メモリの端子やパソコン本体内部の端子には絶対に触れないでください。
- メモリの取り付けや取り外しをするときに外したネジは、パソコン本体内部には絶対に落とさないでください。

この部分（端子）には手を触れないでください。



Save To Disk機能で電源を切らないでください

メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ず「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源を切ってください。Save To Disk機能で電源を切ると、作業中のデータが失われるおそれがあります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.48)

「Save To Disk機能を使う」(☞P.64)

メモリを取り付ける

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには?」(☞P.48)をご覧になり、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。

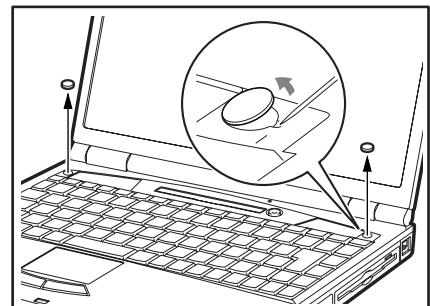
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(☞P.51)

4 ネジカバーを取り外します。

欠けている部分から針などを入れて、カバーを取り外してください。

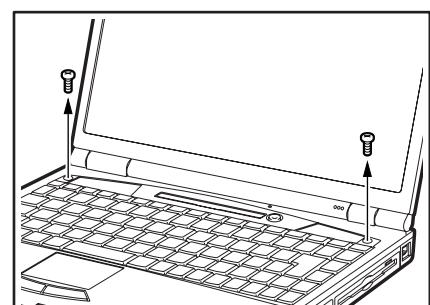


■ 重要

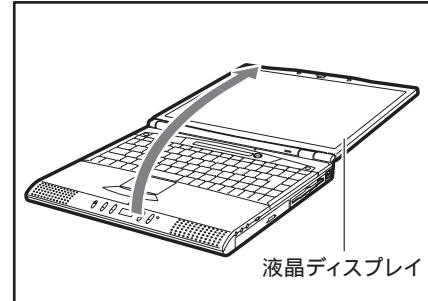
針などの取り扱いについて

針や安全ピンなどは、取り扱いに注意してください。けがをすることがあります。

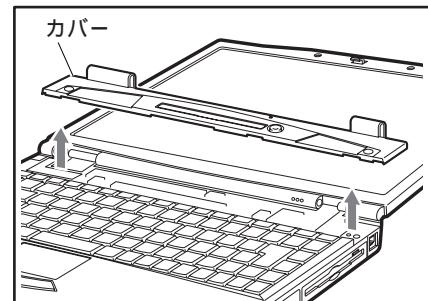
5 キーボードのネジを外します。



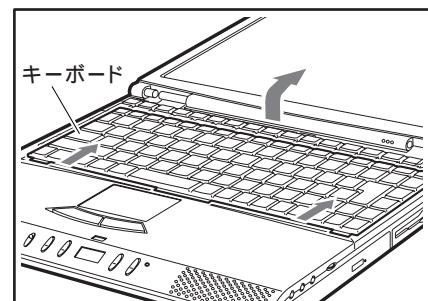
6 パソコン本体下面と水平になるよう、液晶ディスプレイを開きます。



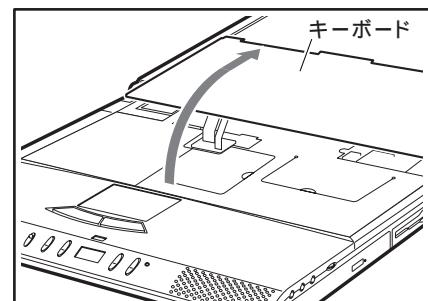
7 カバーを取り外します。



8 キーボードの液晶ディスプレイに近い側を少し持ちあげて矢印の方向にスライドします。



9 キーボードを静かに開きます。

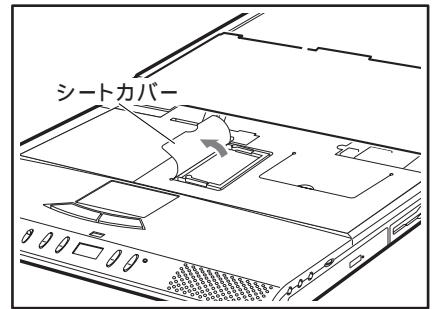


■ 重要

キーボードを引っ張らないでください

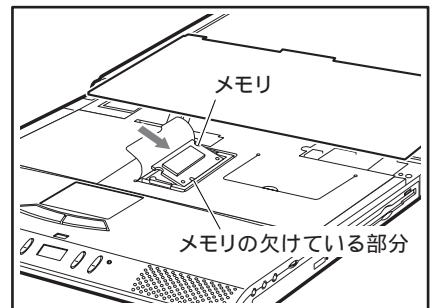
パソコン本体とキーボードを接続しているケーブルを破損する原因となります。

10 シートカバーをめくります。



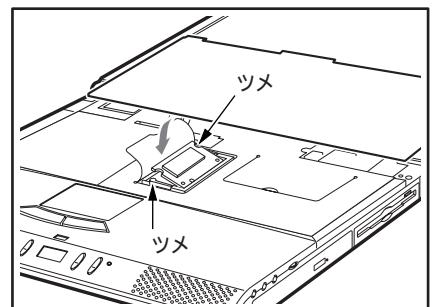
11 メモリを斜めに差し込みます。

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。



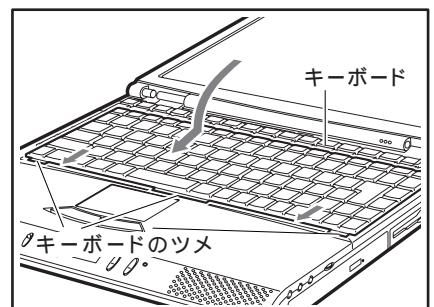
12 メモリをはめ込みます。

メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。

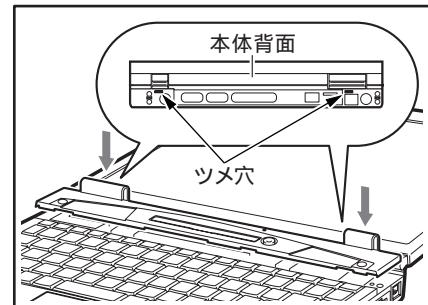


13 キーボードを静かに降ろします。

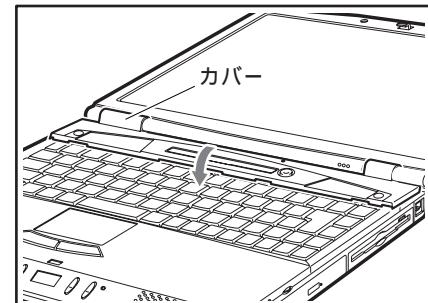
キーボードのツメとパソコン本体のツメ穴を合わせ、ケーブルをはさまないように閉じます。



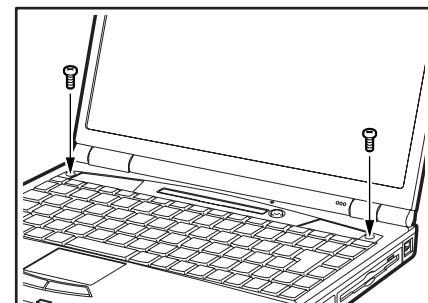
14 カバーのツメをパソコン本体背面のツメ穴に合わせます。



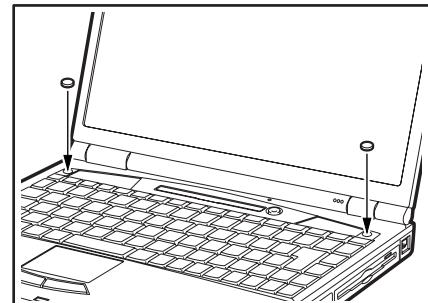
15 カバーを取り付けます。



16 手順 5 で取り外したネジでカバーを固定します。



17 手順 4 で取り外したネジカバーを取り付けます。



取り付けたメモリがパソコンで使える状態になっているかどうかを確認してください。

「取り付けたメモリが使える状態か確認する」(☞P.85)

■ 重要

Windows98 が起動しないとき

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、何も表示されないことがあります。その場合は、MAINスイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

「メモリを取り外す」(☞P.86)

「メモリを取り付ける」(☞P.81)

取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.46)をご覧になり、MAINスイッチを入れて（|側にスライドして）ください。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。



（この画面は機種により若干異なります）

画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

5 「OK」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

アドバイス

数値が増えていないとき

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

「メモリを取り付ける」(☞P.81)

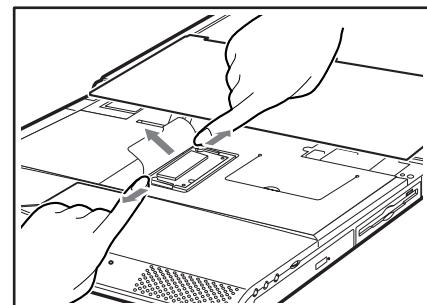
メモリを取り外す

増やしたメモリを大容量のメモリに交換するときは、メモリを取り外す必要があります。

1 キーボードを開きます。

「メモリを取り付ける」(☞P.81) 手順1~手順10

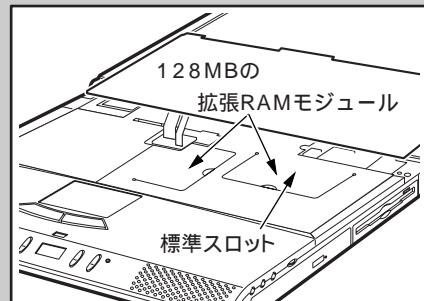
2 メモリを押さえている両側のツメを開き、メモリを取り外します。



■ 重要

メモリを256MBにするとき

標準スロットにあらかじめ取り付けられている64MBの拡張RAMモジュールを取り外し、128MBの拡張RAMモジュールを各スロットに取り付けてください。



必ずメモリを取り付けてください

電源を入れる前に、必ずいずれかのスロットにメモリ(拡張RAMモジュール)を取り付けておいてください。

3 キーボードを閉じます。

「メモリを取り付ける」手順13~手順17(☞P.83)

**アドバイス**

マウスの練習

『かるがるパソコン入門』で、実際の画面を使って、マウスの練習ができます。

その他のキーボードも接続できます

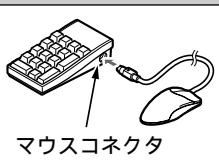
本パソコンの拡張キーボード / マウスコネクタには、101キーボード / OADGキーボード、JISキーボード、親指シフトキーボードも接続できます。ただし、親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムのOAK V5.0以降が必要です。

テンキー ボードの傾きを調節できます

テンキー ボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。

マウスとテンキー ボードを両方使うには

本パソコンでテンキー ボードとマウスの両方を同時に接続して使うときは、パソコン本体にテンキー ボードを接続し、マウスはテンキー ボードのマウスコネクタに接続してください。



マウスコネクタ

テンキー ボードで数字を入力できるとき

状態表示LCDに「1」が表示されているときにテンキー ボードで数字を入力できます（パソコン本体のテンキーは無効になります）。状態表示LCDに「1」が表示されていないときは、[Num_Lk]を押すか、テンキー ボードの[Num_Lk]を押してください。状態表示LCDに「1」が表示され、テンキー ボードで数字を入力できるようになります。

マウスを接続すると、より快適にマウスポインタの操作をすることができます。

テンキー ボードを接続して使うと、数字を効率よく入力できます。

ここではPS/2規格のマウスやテンキー ボードの接続方法を説明します。



警告



感電

マウス、テンキー ボードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

重要

接続は、Windows 98 のセットアップ終了後に行ってください

Windows 98 のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

ただし、PS/2規格のマウスは、セットアップ前に接続することができます。

マウスの接続についての注意

PS/2規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。

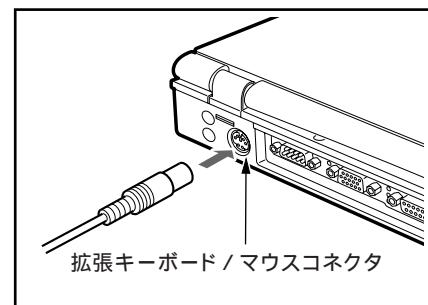
1 パソコン本体の電源を切ります。またはサスペンドします。

「今日はおしまい。電源を切るには？」（P.48）

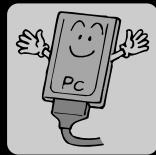
「作業を中断する（サスペンド機能）」（P.62）

2 マウスまたはテンキー ボードを、パソコン本体背面の拡張キーボード / マウスコネクタに接続します。

マウスまたはテンキー ボードのコネクタに示されている矢印を下向きにし、奥までしっかりと差し込んでください。



拡張キーボード / マウスコネクタ



PC カードをセットすると、パソコンにさまざまな機能を追加できます。
ここでは以下のことを説明します。

- ・気をつけてください～ PC カードを使うとき ☞ P.89
- ・必要なものを用意する ☞ P.90
- ・PC カードをセットする ☞ P.91
- ・PC カードを取り出す ☞ P.93



PC カードの種類

コラム

代表的な PC カードには、以下のようなものがあります。

スカジー SCSI カード

SCSI 規格対応のハードディスクや MO(光磁気ディスク) ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。

ラン LAN カード

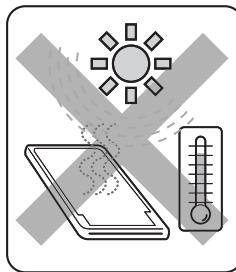
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。

ビーエイチエス デジタル携帯電話接続カード、PHS 接続カード

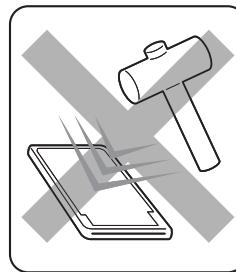
デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。

気をつけてください～PCカードを使うとき

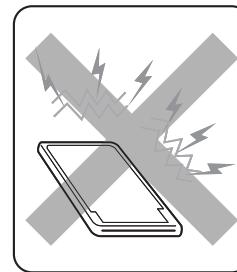
故障を防ぐため、PCカードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



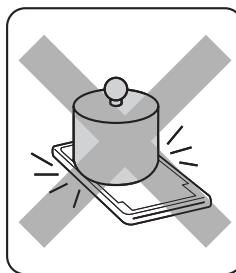
温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



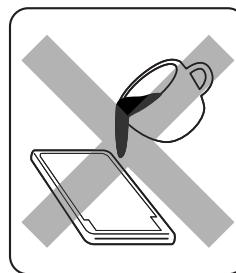
強い衝撃を与えないでください。



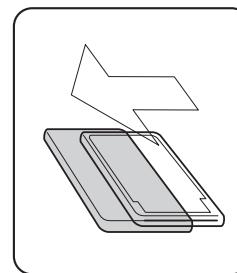
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかかるないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

用語

ピーシーエムシーアイエー ジェイイダ

PCMCIA と JEIDA

PCMCIA は、米国の PC カード標準化を推進する団体 Personal Computer Memory Card International Association の略称です。JEIDA は、日本電子工業振興会 (Japan Electronic Industry Development Association) の略称です。PCMCIA と JEIDA は共同で PC カードの規格を制定しています。一般的には、これらの団体が制定した規格のことを「PCMCIA」「JEIDA」といいます。

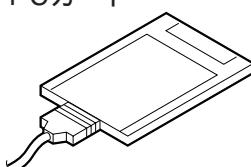
必要なものを用意する



PC カードは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

PC カード



PCMCIA と JEIDA の規格に対応した TYPE ~ TYPE の PC カードが使えます。(TYPE は 3.3 mm、TYPE は 5 mm、TYPE は 10.5 mm の厚さです。)

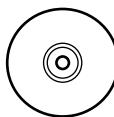
TYPE と TYPE のカードは、同時に 2 枚セットできます。TYPE のカードは 1 枚のみセットできます(他の PC カードとの同時使用はできません)。

PC カードのドライバ

フロッピーディスク



CD-ROM



PC カードによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。

PC カードのマニュアル



PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

PCカードをセットする



注意



PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。



重要

PCカードのセットは、Windows 98のセットアップ終了後に行ってください

Windows 98 のセットアップを行う前にセットすると、セットアップが正常に行われないことがあります。

通信関係の PC カードの同時使用について

通信関係の PC カード（LAN カード、ISDN カード、モデム / FAX モデムカード、デジタル携帯電話接続カード、通信カードなど）の中には、2枚同時に使えないものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

PC カードをセットするときの注意

PCカードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルをご覧ください。



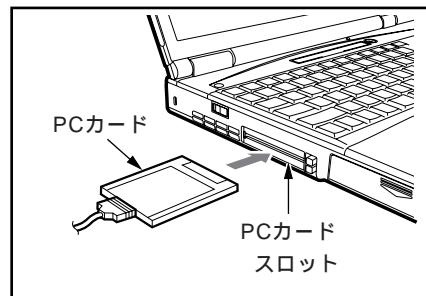
アドバイス

画面やメッセージが表示されたとき

初めてセットする PC カードの場合には、自動的にドライバをインストールする画面が表示されることがあります。画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

1 PCカードをPCカードスロットにセットします。

製品名のある面を上にして、PC カードスロットへ差し込みます。



重要

PCカードスロットについて

スロットで使える PC カードの種類は、以下のとおりです。

スロット	使用可能な PC カード
スロット 2（上段）	TYPE /
スロット 1（下段）	TYPE / /

別売のOSによっては、PCカードスロットのスロット1、スロット2をそれぞれスロット0、スロット1と読み替える場合があります。



重要

PC カードのコネクタ部分についての注意

PC カードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

初めてセットする PC カードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行います。PC カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PC カードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

PCカードを取り出す

■ 重要

PCカード取り出し時の注意

- 必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- PCカードによっては、取り出すときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。



注 意

けが PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。



高 温 使用した直後のPCカードは、高温になっていることがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となります。

1 タスクバーの(PCカード)をクリックします。

2 「×××××××の中止」をクリックします。

×××××××には、お使いのPCカードの名称が入ります。

■ 重要

必ず「XXXXXXの中止」をクリックしてください

「XXXXXXの中止」をクリックせずに、PCカードを取り外すと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

アドバイス

「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切つてから手順4へ進んでください。

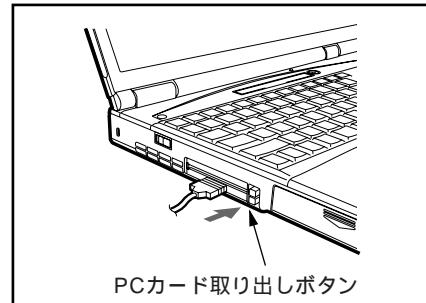
「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.48)

3 「OK」をクリックします。



4 PCカード取り出しボタンを押します。

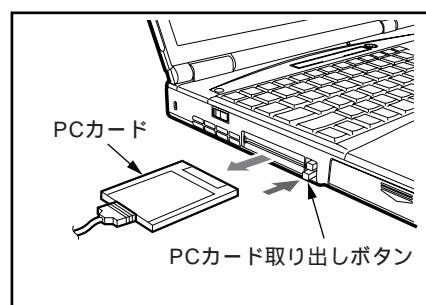
PCカード取り出しボタンが飛び出します。



PCカード取り出しボタン

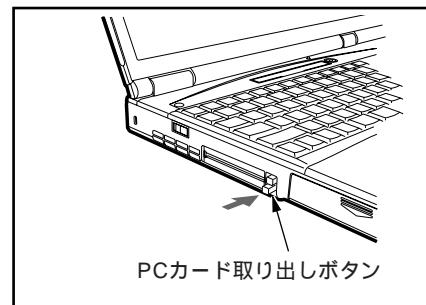
5 PCカードを取り出します。

PCカード取り出しボタンを押し、飛び出したPCカードを引き抜きます。



PCカード取り出しボタン

6 PCカード取り出しボタンを押し込みます。



PCカード取り出しボタン

 **重要**

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。



携帯電話やPHSを接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話は、パソコン本体背面のPDCコネクタに接続します。PHSや、PDCコネクタに対応していない携帯電話は、接続用のPCカードを利用して接続してください。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・PDCコネクタに接続する☞P.95
- ・PCカードを使って接続する☞P.97
- ・PDCコネクタに携帯電話を接続して通信する☞P.99

ピーディーサー PDCコネクタに接続する

携帯電話を本パソコンのPDCコネクタに接続し、通信することができます。

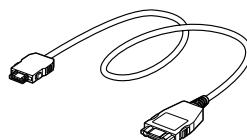
必要なものを用意する

携帯電話



お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/>)にてご案内します。

携帯電話接続ケーブル



FMV-NCBL92をお使いください。

携帯電話を接続する



注意



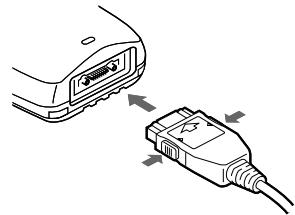
故障 ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話が故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.48)をご覧になり、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。

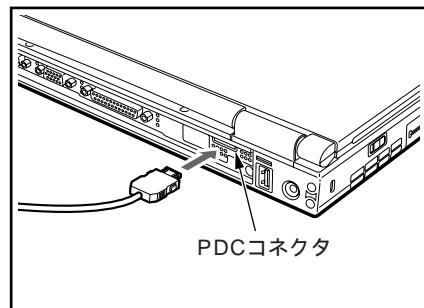
2 携帯電話接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話に接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



3 携帯電話接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン背面のPDCコネクタに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話で通信するための設定を行ってください。
「PDCコネクタに携帯電話を接続して通信する」(→P.99)

■ 重要

携帯電話を取り外すとき

携帯電話接続ケーブルを取り外すときは、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

PDCコネクタ経由で通信するときの注意

- ・本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- ・通信中には、サスPEND機能やSave To Disk機能は使えません。
- ・移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- ・PDCコネクタに接続した携帯電話どうしての対向接続はできません。
- ・ATコマンドは、電話回線で通信するためのドライバ(Fujitsu LB RWModem V.90 56K J)と仕様が異なります。
- ・携帯電話接続ケーブルは、Windows NT4.0では使用できません。

用語

PIAFS

PHS Internet Access Forum Standardの略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。PHSのデジタル通信回線(32kbps)を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末もPIAFSに対応している必要があります。

アドバイス

PIAFSに対応していないPHSを接続するとき

接続カードの代わりに、「モデムカード-2400」と「無線電話接続ケーブル」をお使いください。

PCカードを使って接続する

必要なものを用意する



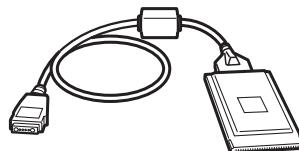
PCカードは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

デジタル携帯電話またはPIAFS対応のPHS



接続カード



本パソコンとデジタル携帯電話またはPHSを接続するためのPCカードです。

デジタル携帯電話には「デジタル携帯電話接続カード」を、PIAFS対応のPHSには「PHS接続カード」をお使いください。

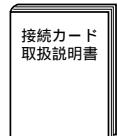
接続カードのドライバ

フロッピーディスク CD-ROM



接続カードによっては、フロッピーディスクやCD-ROMで添付されています。

接続カードのマニュアル



接続カードによって設定方法が異なります。必ず接続カードのマニュアルもご覧ください。

携帯電話やPHSを接続する



注意



PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。



重要

携帯電話やPHSの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われない
おそれがあります。

1 接続カードに添付のケーブルで、携帯電話やPHSを接続します。

携帯電話またはPHS、接続カードのマニュアルも、あわせてご覧ください。

2 接続カードを本パソコンのPCカードスロットにセットします。

「PCカードをセットする」(☞P.91)

接続した携帯電話やPHSで通信を行うには、接続カードや通信ソフトウェアの再
設定が必要です。設定方法については、接続カードのマニュアルをご覧ください。

PDC コネクタに携帯電話を接続して通信する

PDC コネクタに携帯電話を接続して通信するには、次のような手順で行います。

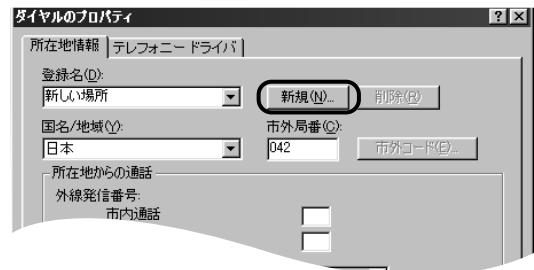
1. 携帯電話用の所在地情報を作る（☞P.99）
2. 外出先用のダイヤルアップ接続を作る（☞P.100）
3. 外出先で通信する（☞P.102）

携帯電話用の所在地情報を作る

通信するときは、パソコンを使う地域の市外局番を登録しておきます。携帯電話で通信するときは、携帯電話用の所在地情報を登録する必要があります。

ここでは、登録方法を説明します。

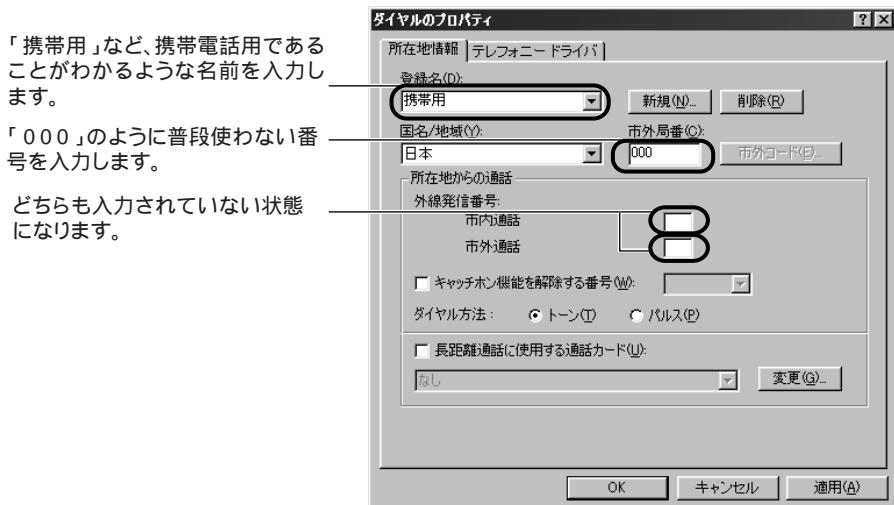
- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (テレフォニー) をクリックします。
- 3 「新規」をクリックします。



「新しい場所が作成されました。」というメッセージが表示されます。

- 4 「OK」をクリックします。

5 携帯電話用の所在地情報を設定します。



6 「OK」をクリックします。

7 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある~~×~~(閉じるボタン)をクリックします。

これで、携帯電話で通信するときに使う所在地情報が作成されました。

外出先用のダイヤルアップ接続を作る

通信をするときには、現在の場所からアクセスポイントまでの電話料金がかかります。外出先で通信をするときには、できるだけ外出先に近いアクセスポイントを指定したダイヤルアップ接続を作つておくことで、電話料金を節約できます。ここでは、InfoWebに加入していることを前提に説明しています。



アドバイス

他のプロバイダをご利用の場合

インターネット接続ウィザードでダイヤルアップ接続を作成してください。

☞ [『使いこなす本 インターネット編』](#)

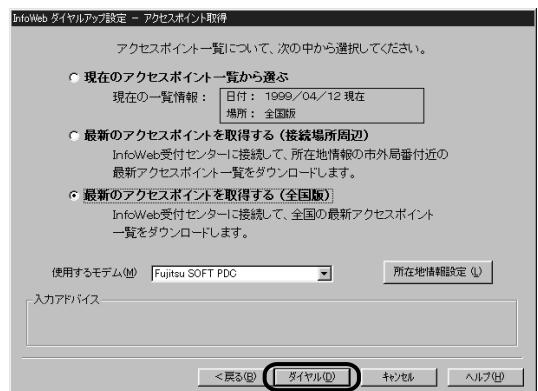
その後、次の手順に従つて、使用するモデムを「Fujitsu SOFT PDC」に変更します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 2 外出先用に作成したダイヤルアップ接続にマウスポインタを合わせ、右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 「全般」タブの「接続の方法」を「Fujitsu SOFT PDC」に変更し、「OK」をクリックします。

1 PDC コネクタに携帯電話を接続します。

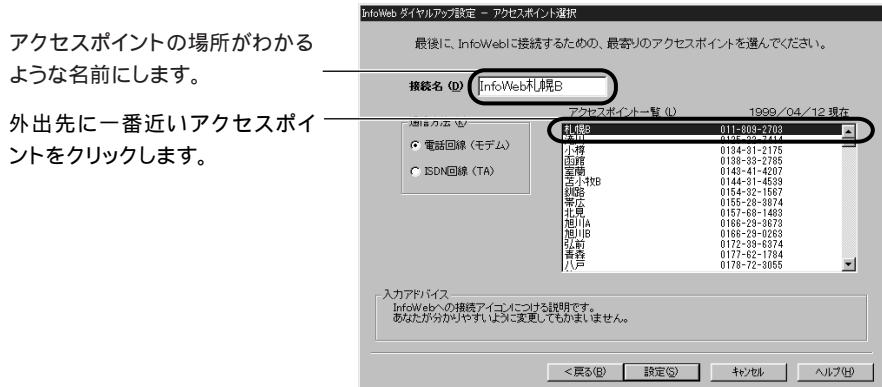
「PDC コネクタに接続する」(☞P.95)

- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「はじめよう！インターネット(InfoWeb)」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップ設定」をクリックします。
- 3 「InfoWebのアクセスポイントを変更する」の左がになっているのを確認し、「次へ」をクリックします。
- 4 「コネクションID」を確認し、「次へ」をクリックします。
- 5 「最新のアクセスポイントを取得する(全国版)」の左をクリックしにします。
- 6 「使用するモデム」の右のをクリックし、「Fujitsu SOFT PDC」をクリックします。
- 7 「ダイヤル」をクリックします。



InfoWeb加入受付センターに電話がかかり、全国のアクセスポイントの一覧がダウンロードされます。

8 「接続名」を入力して、接続したいアクセスポイントをクリックし、「設定」をクリックします。



9 「OK」をクリックします。

これで、携帯電話を使って通信するためのダイヤルアップ接続が作成されました。

外出先で通信する

1 PDC コネクタに携帯電話を接続します。

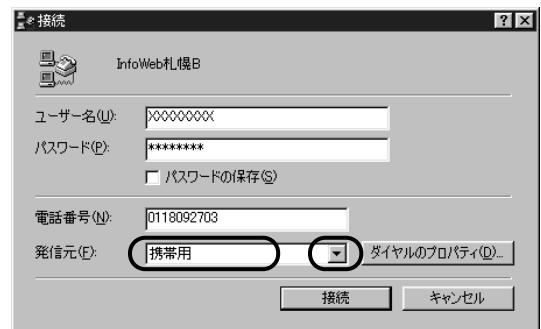
「PDC コネクタに接続する」(☞P.95)

2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。

3 外出先用に作成した「ダイヤルアップ接続」をクリックします。

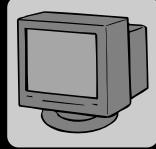
4 「パスワード」の右の欄にパスワードを入力します。

- 5** 「発信元」の右の▼をクリックし、携帯電話用に作成した所在地をクリックします。



- 6** 「接続」をクリックします。

- 7** お使いになる通信用のアプリケーションを起動します。



シーアールティー CRTディスプレイを接続する

CRTディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する [P.104](#)
- ・CRTディスプレイを接続する [P.105](#)
- ・ディスプレイの表示を切り替える [P.106](#)
表示するディスプレイを切り替える方法を説明しています。
- ・CRTディスプレイの解像度と発色数について [P.109](#)
CRTディスプレイの解像度と発色数を変更する方法などを説明しています。必要に応じてお読みください。

必要なものを用意する



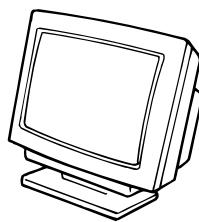
警告



感電

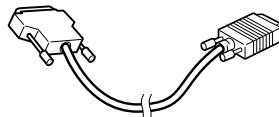
CRTディスプレイは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

CRTディスプレイ



「PC/AT互換機」または「DOS/Vパソコン」対応のものを用意してください。

ディスプレイケーブル



CRTディスプレイを接続するためのケーブルです。CRTディスプレイの背面につながっていたり添付されています。添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」と表示されたもので、CRTディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。

CRTディスプレイのマニュアル



CRTディスプレイにより接続方法が異なります。必ずCRTディスプレイのマニュアルもご覧ください。

CRTディスプレイを接続する



警 告



感 電 CRTディスプレイを接続するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。



注 意



ケーブル類は、間違えないように接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびCRTディスプレイが故障する原因となることがあります。



重 要

CRTディスプレイの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

CRTディスプレイのマニュアルもご覧ください

接続方法は、CRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.48）をご覧になり、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

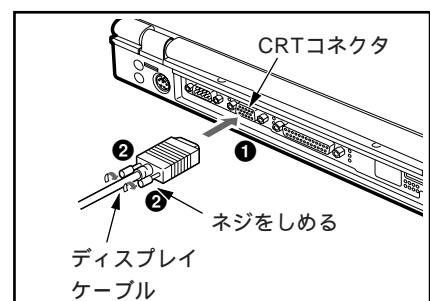
「ACアダプタを取り外す」（☞P.51）

4 パソコン本体背面のCRTコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

①コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。

②ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



- 5 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。**
CRTディスプレイ背面にディスプレイケーブルがつながっている場合もあります。
接続方法は、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 6 CRT ディスプレイに電源ケーブルを接続します。**
CRTディスプレイに電源ケーブルがつながっている場合もあります。CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 7 CRT ディスプレイの電源ケーブルを、コンセントに接続します。**

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続したCRTディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
- ・接続したCRTディスプレイで表示する
- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したCRTディスプレイで同時に表示する

- 1 AC アダプタを取り付けます。**
「ACアダプタを取り付ける」(☞P.50)
- 2 CRT ディスプレイの電源を入れます。**
CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 3 パソコン本体の電源を入れます。**
「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.46)をご覧になり、MAINスイッチを入れて(| 側にスライドして)ください。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 5  (画面)をクリックします。**
- 6 「設定」タブをクリックします。**
- 7 「詳細」をクリックします。**

 **アドバイス**
同時に表示するとき
電源を入れるとすぐに、パソコン本体の液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時に表示することができます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたとき
画面の指示に従ってCRTディスプレイのドライバをインストールしてください。

アドバイス

「画面」タブと「色」タブが表示されないと

「画面のプロパティ」ウィンドウを一度閉じてから、もう一度「画面のプロパティ」を開いて「詳細」をクリックすると、表示されます。

「セカンダリ」について

「セカンダリ」と表示されているときは、をクリックしてにし、「プライマリ」にしてください。

アドバイス

「はい」をクリックしないと

手順11で「はい」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。手順9からやり直してください。

8 「画面」タブをクリックします。

9 表示するディスプレイを選びます。

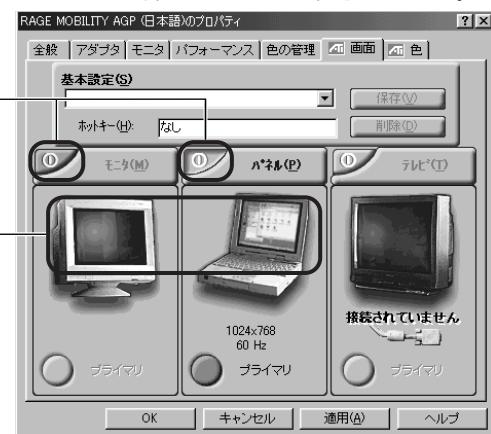
緑色のをクリックするたびに、液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時に表示するか、個別のディスプレイで表示するかを切り替えます。

・液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時に表示する

緑色のをクリックして、両方のを押された状態にします。

・液晶ディスプレイのみ、またはCRTディスプレイのみで表示する

緑色のをクリックして、両方のを押された状態にしてから、表示しないディスプレイのをクリックして押されていない状態にします。



10 「OK」をクリックします。

ディスプレイの表示が切り替わり、「ATIプロパティページ」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

12 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

■ 重要

CRTディスプレイ表示に切り替えたとき

CRTディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。

・何も表示されないとき

何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、**[Fn]**を押しながら**[F10]**を押して、表示先を切り替えてください。

・正常に表示されないとき

CRTディスプレイのマニュアルで、CRTディスプレイが対応している走査周波数を確認し、以下の方法で設定してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

2  (画面) をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4 「詳細」をクリックします。

5 「アダプタ」の「リフレッシュレート」をCRTディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。

ウインドウが表示された時は、「はい」または「OK」をクリックします。

アドバイス

キー操作で表示を切り替える

[Fn]を押しながら**[F1]**を押して、ディスプレイ表示を切り替えることもできます。キーを押すごとに、「CRTディスプレイ表示」
液晶ディスプレイとCRT
ディスプレイの同時表示
液晶ディスプレイ表示
CRTディスプレイ表示...」の順で表示が切り替わります。ただし、「画面」タブのディスプレイのイラストの表示は切り替わりません。キーでの切り替えは、再起動時まで有効です。再起動後も有効にするときは「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。

BIOSセットアップの画面について

BIOSセットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOSセットアップの画面もCRTディスプレイに表示したいときには、キー操作で表示を切り替えるか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「画面設定」の「ディスプレイ」(☞P.124)で「CRTディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。

マルチモニタ機能を使うとき

☞P.175

CRTディスプレイの解像度と発色数について

CRTディスプレイを接続すると、本パソコンの液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは、CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数

アドバイス

液晶ディスプレイと液晶プロジェクタで同時に表示するとき

NE/36LA, NE/36L, NE/36X では 1024×768 ドット、NE/33, NE/33E では 800×600 ドットの解像度が表示可能な液晶プロジェクタが必要となります。

High Color、True Color の発色数

High Color (16ビット) は 6万5千色、True Color (32ビット) は 1677万色です。

ディスプレイの解像度と発色数は次の表のとおりです。以下の解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数		
	液晶ディスプレイと CRTディスプレイ同時表示		CRT
640×480 ドット	256 色 1 High Color (16ビット) 1 True Color (24ビット) 1 2 True Color (32ビット) 1 2	256 色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) True Color (32ビット)	256 色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) True Color (32ビット)
800×600 ドット	256 色 1 High Color (16ビット) 1 True Color (24ビット) 1 2 True Color (32ビット) 1 2	256 色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) True Color (32ビット)	256 色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) True Color (32ビット)
1024×768 ドット	256 色 4 High Color (16ビット) 4 True Color (24ビット) 2 4 True Color (32ビット) 2 4	256 色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) True Color (32ビット)	256 色 High Color (16ビット) True Color (24ビット) True Color (32ビット)
1280×1024 ドット	256 色 4 High Color (16ビット) 4	256 色 High Color (16ビット)	256 色 High Color (16ビット)
1600×1200 ドット	256 色 4 High Color (16ビット) 4	256 色 High Color (16ビット)	256 色 High Color (16ビット)

- 1 NE/36LA, NE/36L, NE/36X は 800×600 ドット以下の解像度、NE/33, NE/33E は 640×480 ドットの解像度に設定すると、設定した解像度を液晶ディスプレイ全体に拡大する全画面表示になります。
- 2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、True Color (24または32ビット) に表示されます。
- 3 1024×768 ドットの解像度で 3D アクセラレータを使用した場合、True Color 表示は、High Color (16ビット) 表示になります。
- 4 液晶ディスプレイでは、NE/36LA, NE/36L, NE/36X は 1280×1024 ドット以上の解像度、NE/33, NE/33E は 1024×768 ドット以上の解像度に設定すると、仮想スクリーンモードでの表示となります。仮想スクリーンモードでは、NE/36LA, NE/36L, NE/36X は 1024×768 ドット、NE/33, NE/33E は 800×600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。



重要

解像度や発色数を変更するときの注意

- 表示できる解像度はお使いのCRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくはCRTディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイとCRTディスプレイの最大解像度は、CRTディスプレイの最大解像度になります。
- 同時表示を選択した場合、CRTディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- 同時表示時に、CRTディスプレイの画面が正しく表示されないことがあります。

CRTディスプレイの解像度と発色数を変更する

アドバイス

解像度、発色数の設定により画面の調整が必要になることがあります

変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

CRTディスプレイの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」(☞P.38)の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- 手順1の前にCRTディスプレイ表示に切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(☞P.106)
- 手順11「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください」というウィンドウでは、お使いのCRTディスプレイに合ったモデルを選んでください。CRTディスプレイのマニュアルもご覧ください。合うモデルがないときは、手順11の設定に従ってください。

8 その他のオプション機器を使う

ここでは本パソコンに接続できるその他のオプション機器の一例として「ハードディスク」と「MO（光磁気ディスク）ドライブ」をご紹介します。

- ・ハードディスクを使う [P.111](#)
- ・MO（光磁気ディスク）ドライブを使う [P.112](#)

ハードディスクを使う

用語

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、ハードディスクの他に、スキャナやMO（光磁気ディスク）ドライブなどがあります。

アドバイス

ハードディスクを増設するには

SCSIカードを本パソコンにセットします。

「PCカードをセットする」
([P.91](#))

外付けハードディスクの接続や設定のしかたについては、ハードディスクとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

本パソコンには、SCSI規格の外付けハードディスクを増設することができます。外付けハードディスクを増設すると、より多くのデータを保存できるようになります。

外付けハードディスクを増設するには、次のものが必要です。

外付けハードディスク

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗（ターミネータ）は、外付けハードディスクに内蔵されている場合もあります。

外付けハードディスクとSCSIカードのマニュアル

外付けハードディスクやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。

マニュアルを用意してください。



オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、MO(光磁気ディスク)ドライブの他に、スキャナやハードディスクなどがあります。

アドバイス

MO ドライブを使うには

SCSIカードを本パソコンにセットします。
「PCカードをセットする」(\leftarrow P.91)
MO ドライブの接続や設定のしかたについては、MO ドライブと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。

エムオー

MO(光磁気ディスク)ドライブを使う

MO(光磁気ディスク)ドライブとは、レーザーと磁気で光磁気ディスクにデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶媒体です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

MO ドライブを使うには、次のものが必要です。

MO(光磁気ディスク)ドライブ

本パソコンには、SCSI 規格の外付けの MO ドライブを取り付けられます。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI 規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗(ターミネータ)は、MO ドライブに内蔵されている場合もあります。

MO(光磁気ディスク)

128MB、230MB、540MB、640MB の容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになる MO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる MO ドライブが対応している容量の MO をお買い求めください。

第5章

BIOS セットアップ

本章では、「BIOS セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更する方法について説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

本章には、ある程度パソコンについての知識を必要とする記述があります。

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1. BIOS セットアップとは | 114 |
| 2. BIOS セットアップの操作のしかた | 115 |
| 3. ご購入時の設定に戻す | 120 |
| 4. BIOS セットアップのメニュー詳細 | 121 |
| 5. BIOS のパスワード機能を使う | 130 |
| 6. BIOS が表示するメッセージ一覧 | 136 |

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンをご購入になったときは、すでに最適なハードウェア環境が設定されています。通常お使いになる範囲では、これらの設定を変更する必要はありません。

アドバイス

BIOS セットアップの設定値の保存先

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記憶されます。CMOS RAM に記憶された内容は、パソコン本体の電源を切ったあとも、バックアップ用バッテリによって保持されます。

起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

「メッセージ一覧」の 23 (P.136)

用語

起動時の自己診断テスト (POST)

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test)といいます。

BIOS とは、「Basic Input/Output System」の略で、ハードウェア環境の設定や OS の起動、基本的な入出力機能の制御などを行うためのプログラムです。

BIOS セットアップは、BIOS の機能についての各種の設定値を変更するためのプログラムです。BIOS セットアップの設定値を変更することによって、パソコン本体と周辺機器の機能や動作モードを、変更することができます。

通常は、以下の場合などに BIOS セットアップを利用します。

- ・特定の人だけが本パソコンを使えるように、パスワード (暗証番号) を設定したいとき
- ・起動時の自己診断テストで、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき



重要

BIOS セットアップの設定は、正確に行ってください

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定値に戻して、本パソコンを起動し直してください。

「 BIOS セットアップの操作のしかた」 (P.115)

「ご購入時の設定に戻す」 (P.120)

BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップの設定を変更するには、BIOS セットアップを起動して、設定値を変更し、設定内容を CMOS RAM に保存して終了します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ BIOS セットアップを起動する \Rightarrow P.115
- ・ 設定を変更する \Rightarrow P.116
- ・ 変更内容を取り消す \Rightarrow P.118
- ・ BIOS セットアップを終了する \Rightarrow P.119



重要

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います

フラットポイントやマウスは使えません。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、起動することができます。

- 1 それまで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて、作業中のデータを保存してください。
- 2 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。**
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。**
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。**

アドバイス

Windows 98 の画面が表示されたとき

Windows 98 の起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

起動時の自己診断画面を表示するには

手順 5 で、**[F2]** の代わりに **[Esc]** を押します。

自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されるので、そのまま起動を続けたい場合には **[Esc]** を押してください。

「起動時のメニュー」という画面が表示されているとき

この画面は、起動時の自己診断テスト中に **[Esc]** を押すと、表示されます。

[Esc] を数回押して「<BIOS セットアップを起動>」を選択し、**[Enter]** を押すと、BIOS セットアップを起動できます。

項目名に「」が付いているとき

この項目にはサブメニューがあります。項目名にカーソルを移動して **[Enter]** を押すと、サブメニューの画面が表示されます。

元のメニュー画面に戻るには **[Esc]** を押します。

アドバイス

設定内容を、変更前の値に戻すには

「変更内容を取り消す」(\leftarrow P.118)

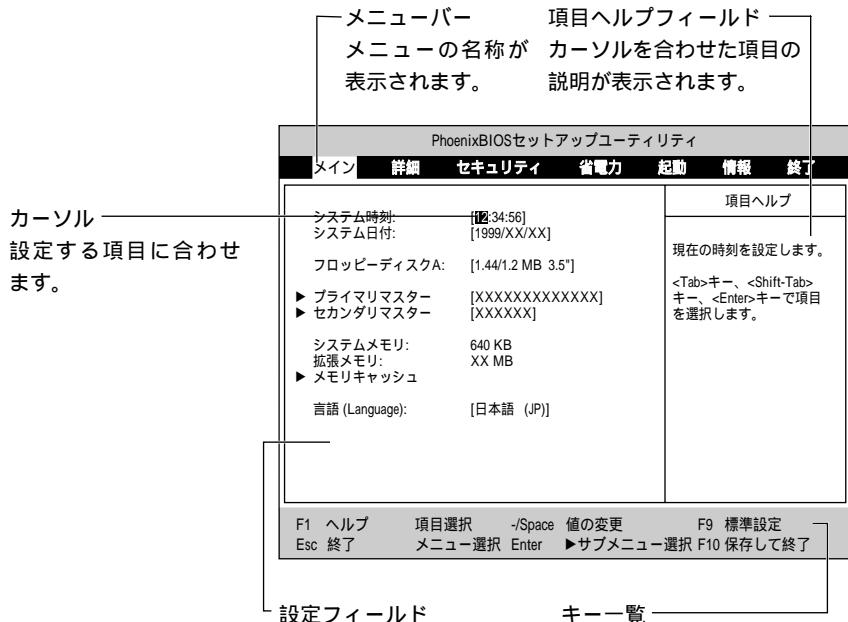
設定内容を、ご購入時の設定値に戻すには

「ご購入時の設定に戻す」(\leftarrow P.120)

5

「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「**[Esc]** を押すと自己診断画面、**[F2]** を押すと BIOS セットアップを起動します。」と表示されている間に、**[F2]** を押します。

BIOS セットアップが起動し、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



続いて、「設定を変更する」をご覧ください。

設定を変更する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードを使って行います。

ここでは、一般的な操作方法を説明します。

1

[Esc] または **[Space]** でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2

[Esc] または **[Space]** でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3

[Esc] または **[Space]** を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更するときは、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。

4

設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(\leftarrow P.119)

設定時に使用するキー一覧

[F1]

「一般ヘルプ」画面が表示され、BIOSセットアップの操作で使用するキーについての説明を見ることができます。次のページを見るときは[Pg Dn]を、前のページに戻るときは[Pg Up]を押します。「一般ヘルプ」画面を閉じるには[Enter]を押します。

[□] / [□]

設定する項目にカーソルを移動します。

[□] / [□]

メニューを切り替えます。

[Enter]

「」が付いている項目で押すと、サブメニューが表示されるか、その項目の処理が行われます。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

[□] / [□]

設定値を変更します。

[F9]

すべての設定値を、本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定）に戻します。

[F10]

設定した内容をCMOS RAMに保存して、BIOSセットアップを終了します。

[Esc]

「終了」メニューを表示します。

サブメニューが表示されているときは、1つ前のメニュー画面に戻ります。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAMに保存してある変更前の設定値を読み込みます。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

アドバイス

すべての変更を取り消して BIOS セットアップを終了するには

設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。

1 **[Esc]** を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニューを表示しているときは、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

2 **[Esc]** または **[Delete]** を押して「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。

設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！ 変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。

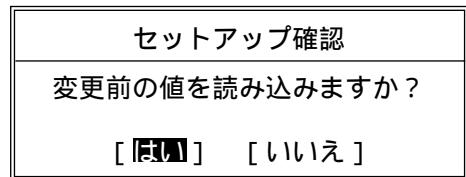
3 **[Esc]** または **[Delete]** で「いいえ」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[Esc]** または **[Delete]** を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



3 **[Esc]** または **[Delete]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

BIOSセットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

アドバイス

BIOS セットアップを終了せずに設定を保存するには

いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。

1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。

「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

2 **[Esc]** または **[Enter]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

設定を変更しないで終了するには

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。

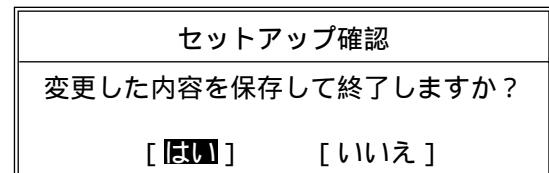
「変更内容を取り消す」
(☞P.118)

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[Esc]** または **[Enter]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



3 **[Esc]** または **[Enter]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

3 ご購入時の設定に戻す

設定内容をご購入時の状態に戻すには、「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
「BIOS セットアップを起動する」(☞P.115)
- 2 [Esc] を押します。**
「終了」メニューが表示されます。
- 3 [] または [Esc] を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、[Enter] を押します。**
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認

標準設定値を読み込みますか？

[はい] [いいえ]
- 4 [] または [Esc] で「はい」を選択し、[Enter] を押します。**
BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。
- 5 [] または [Esc] を押して「変更を保存して終了する」を選択し、[Enter] を押します。**
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認

変更した内容を保存して終了しますか？

[はい] [いいえ]
- 6 [] または [Esc] で「はい」を選択し、[Enter] を押します。**
読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、[Esc] を 2 ~ 3 回押してください。

アドバイス

保存後に設定操作を続けたいとき

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、[Enter] を押します。

BIOS セットアップのメニュー詳細

ここで使用しているマークは、次の意味です。

:項目名

:サブ項目名

ここでは以下のことを説明します。

- ・メインメニュー ↪P.121
- ・詳細メニュー ↪P.122
- ・セキュリティメニュー ↪P.125
- ・省電力メニュー ↪P.126
- ・起動メニュー ↪P.128
- ・情報メニュー ↪P.129
- ・終了メニュー ↪P.129

メインメニュー

「メインメニュー」では、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

フロッピーディスク A (標準設定値 : 1.44 / 1.2MB 3.5")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

設定項目については、「セカンダリマスター」を参照してください。

セカンダリマスター

CD-ROM ドライブのタイプと動作モードを設定します。

タイプ (標準設定値 : 自動)

■ 重要

「自動」以外を選択するとき

接続するドライブに合ったタイプを選択してください。誤ったドライブを選択すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

シリンド数

ヘッド数

■ アドバイス

標準設定値を読み込むとき

「終了メニュー」の「標準設定値を読み込む」(↪P.129) を実行した直後は、「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。

BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

セクタ数

■ 重要

シリンドラ数、ヘッド数、セクタ数を設定するとき

必ず正確に設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

最大容量

マルチセクタ転送

LBA モード制御

転送モード

Ultra DMA モード

システムメモリ

拡張メモリ

メモリキャッシュ

L2 キャッシュ (標準設定値 : 使用する)

言語 (Language) (標準設定値 : 日本語 (JP))

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

アドバイス

周辺機器設定を行うとき

I/O ポートアドレス、割り込み番号 (IRQ) 、 DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てるないように注意してください。同じ設定値を割り当てるとき、項目名の左に * が表示されます。 * が表示されたときは、別の設定値を割り当てるください。

ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。

「リソース一覧」 (P.149) 現在の設定値は、「コンピュータのプロパティ」

ウインドウで確認できます。

「現在のリソースを確認するには」 (P.149)

シリアルポート B (標準設定値 : 使用する)

シリアルポート B (赤外線通信ポート) を使用するかどうかを設定します。

モード (標準設定値 : FIR)

高速モード用の「I/Oベースアドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 2E8)

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 3)

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 118)

DMA チャネル (標準設定値 : DMA 3)

パラレルポート (標準設定値 : 使用する)**モード (標準設定値 : 双方向)**

「ECP」は、パラレルポートにECP対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECPモード用の「DMA チャネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 378)

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 7)

DMA チャネル (標準設定値 : DMA 1)

通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値ではシリアルポート B (赤外線通信ポート) のFIR用に割り当てられています。

フロッピーコントローラ (標準設定値 : 使用する)

内蔵 IDE コントローラ (標準設定値 : 両方使用する)

キーボード / マウス設定

Numlock (標準設定値 : 自動)

ホットプラグ (標準設定値 : 使用する)

アドバイス**接続したキーボードやマウスが使えないとき**

接続したキーボードやマウスがホットプラグに対応していない場合があります。

本パソコンの動作中に接続したキーボードやマウスが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンの電源を切るか、サスペンションしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- ・「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合
- ・拡張キーボード / マウスコネクタに、入力装置(バーコードリーダ: FMV-BCR101、バーコードタッチリーダ: FMV-BCR201、磁気カードリーダ: FMV-MCR101など)を接続している場合また、この場合は「省電力モード」(☞P.126)も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス（標準設定値：自動）

アドバイス

Microsoft 社製 IntelliMouse™ の利用について

Microsoft 社製 IntelliMouse™ は、「内蔵ポインティングデバイス」を「自動」に設定しているときのみお使いになれます。

画面設定

ディスプレイ（標準設定値：液晶ディスプレイ）

全体表示（標準設定値：使用しない）

PCI 設定

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたいとき、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようになります。

IRQ 3 ~ IRQ 11（標準設定値：予約しない）

DMI イベントログ設定

イベントログ領域の状態

イベントログ内容の状態

イベントログのクリア（標準設定値：クリアしない）

イベントログ（標準設定値：保存する）

システムブートイベント（標準設定値：保存しない）

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

「BIOS のパスワード機能を使う」(P.130)

管理者用パスワード

管理者(本パソコンをご購入になった方など)用のパスワードの設定状態が表示されます。

ユーザー用パスワード

ユーザー(ご家族など、管理者以外の利用者)用のパスワードの設定状態が表示されます。

管理者用パスワード設定

ユーザー用パスワード設定

設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます。

フロッピーディスクアクセス (標準設定値 : 常に可能)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

重要

フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

BIOS を経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (WindowsNT4.0 など) では、正しく動作しません。

起動時のパスワード (標準設定値 : 使用しない)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

リマインダータイム時のパスワード (標準設定値 : 使用しない)

「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合にのみ有効です。

Windows98 の「電源の管理」でも設定できます。

重要

リマインダータイム時のパスワード入力について

リマインダータイム時は、パスワード入力を要求する画面は表示されません。フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができなくなっているときは、状態表示 LCD に と が交互に点滅します。

キーボードとフラットポイント(マウス)を使用できるようにするには、本パソコン起動時に入力したパスワードをキーボードから入力し、 を押してください。

アドバイス

「電源の管理」で設定を変更する

リマインダータイム時のパスワードは、「電源の管理」でも設定できます。

「電源の管理」で設定を変更する」(P.67)

ハードディスク起動セクタ（標準設定値：通常動作）



重要

ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- ・ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
 - ・ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS (WindowsNT4.0 など) では、正しく動作しません。

ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブのみ利用できます。

プライマリマスター（標準設定値：使用しない）

セカンダリマスター（標準設定値：使用しない）
本パソコンでは設定できません。

省電力メニュー



アドバイス Windows98をお使いのとき

項目によっては無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

V. 1.8

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。

省電力機能は、「PMSet98」やWindows98の「電源の管理」でも設定できます。

「節電の設定を変更する」(☞P.67)

省電力モード（標準設定値：ユーザー設定）

ハードディスク省電力（標準設定値：使用しない）

ディスプレイ省電力（標準設定値：使用しない）

Windows 98 の「電源の管理」で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。



重要

別売のシリアルマウスをお使いのとき

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」(☞P.128)を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

アイドルモード（標準設定値：使用する）

スタンバイタイマー（標準設定値：4 分）

スタンバイは、Windows98の「システムスタンバイ」とは異なります。Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。

サスPENDタイマー（標準設定値：15分）

Windows98が起動しているときは、「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定に従ってサスPENDします。

サスPEND動作（標準設定値：サスPEND）

アドバイス

「サスPEND動作」を「Save To Disk」に設定しているとき

サスPENDするときに、自動的にSave To Disk機能が働いて、本パソコンの電源が切れます。

「Save To Disk」に設定してもサスPENDすることがあります

次の場合には、Save To Disk機能が働かず、サスPENDします。

- ・Save To Disk領域が作成されていないとき
- ・「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- ・「PMSet98のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がになっているとき
- ・LOWバッテリ状態で自動的にサスPENDするとき

自動Save To Disk（標準設定値：使用しない）

モデム着信によるレジューム（標準設定値：使用しない）

「PMSet98」が起動しているときに有効です。「PMSet98」が起動していないときは、「使用する」と同じ動作になります。

「「PMSet98」で設定を変更する」（☞P.68）

アドバイス

モデム着信によるレジューム機能についての注意

- ・PDCコネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・本パソコンがレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでは、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、モデムのマニュアルをご覧ください。
- ・「使用する」に設定すると、サスPEND中でもモデムを動作させておくため、サスPEND中の電力消費が増加します。この場合には、ACアダプタを接続してください。

時刻によるレジューム（標準設定値：使用しない）

Windows98で「タスクスケジュール」を設定しているときは、Windows98とBIOSセットアップの両方とも有効になります。

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、レジュームする（サスPENDする前の状態に戻す）時刻を時：分：秒（24時間制）で設定します。

詳細設定

SUS/RES スイッチ (標準設定値：使用する)

カバークローズ サスペンド (標準設定値：使用する)

重要

カバークローズサスペンドについての注意

- ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PC カード使用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- Windows 98 の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム (標準設定値：使用する)

APM の CPU アイドル動作 (標準設定値：低電力)

「低電力」に設定して動作が不安定になったときは「標準」に設定してください。

シリアルマウス (標準設定値：使用しない)

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

クイック起動 (標準設定値：使用する)

起動時の自己診断画面 (標準設定値：表示しない)

起動デバイスの優先順位 (標準設定値：「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」「ATAPI CD-ROM ドライブ」の順番)



アドバイス

優先順位を一時的に変更したいとき

起動時の自己診断テスト中に **[Esc]** を押すと、「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを **[↑]** または **[↓]** で選択し、**[Enter]** を押してください。

「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

情報メニュー

「情報」メニューでは、BIOS やパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵しているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

増設メモリ

拡張 RAM モジュールスロットに増設したメモリの容量が表示されます。

メモリを増設していないときは、「未使用」と表示されます。

資産番号

本パソコンでは「未定義」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

変更を保存せずに終了する

標準設定値を読み込む

変更前の値を読み込む

変更を保存する

BIOS のパスワード機能を使う

BIOS のパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パスワード機能について [P.130](#)
- ・パスワード機能を設定する [P.131](#)
- ・パスワードを入力する [P.133](#)
- ・パスワードを変更 / 削除する [P.134](#)

パスワード機能について

設定できるパスワードの種類

BIOS では、次の 2 つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。

パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。

ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方(ご家族など)が使用するパスワードです。

「管理者用パスワード」を設定したときにのみ設定できます。

パスワードで制限 / 保護できる機能

アドバイス

Windows 98 のパスワード機能について
Windows 98 のパスワード機能は、BIOS のパスワード機能とは異なります。

Windows 98 のパスワード機能だけでは、ハードディスクデータの読み出しからデータを保護することはできません。

BIOS セットアップの起動

「管理者用パスワード」を設定すると自動的に働きます。

設定してあるパスワードを入力しないと、BIOS セットアップが起動できないように制限されます。また、「ユーザー用パスワード」を入力して BIOS セットアップを起動したときは、設定できる項目が制限されます。

起動時のパスワード

設定してあるパスワードを入力しないと OS を起動できないように制限されます。また、下記の「フロッピーディスクアクセス」では、起動時に入力したパスワードによって制限機能が変わります。

レジューム時のパスワード

本パソコンがサスペンドから復帰するとき、起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力しないと、キーボードとフラットポイント(マウス)が使えないように制限されます。

この機能は、「起動時のパスワード」を設定しているときにのみ利用できます。

フロッピーディスクアクセス

「管理者のみ可能」に設定した場合に「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定しているときは、フロッピーディスクが使えないようになります。

「起動時のパスワード」を「使用する」に設定しているときは、ユーザー用パスワードを入力して起動したときにフロッピーディスクが使えないよう制限されます。

ハードディスクセキュリティ

接続してあるハードディスクを取り外して他のパソコンに取り付けたときに、データを読み出すことができないように保護されます。「起動時のパスワード」と併用することにより、パソコン本体を盗まれた場合でも、保存してあるデータの読み出しが困難になります。

本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブの場合にのみ利用できます。

パスワード機能を設定する

パスワードを設定する

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(☞P.115)

2 を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

3 または でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、[Enter] を押します。

パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定

新しいパスワードを入力して下さい。 []

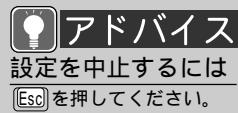
新しいパスワードを確認して下さい。 []

または

ユーザー用パスワード設定

新しいパスワードを入力して下さい。 []

新しいパスワードを確認して下さい。 []



アドバイス

設定を中止するには

[Esc] を押してください。

4 設定したいパスワード（半角英数字、7 文字まで）を入力します。

英字の大文字、小文字の区別はありません。

入力した文字は、表示されません。



重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておいてください。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

5 [Enter] を押します。

カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

6 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。

正しく入力してください。

7 [Enter] を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

8 [Enter] を押します。

これでパスワードが設定されました。

各パスワード機能の設定

各パスワード機能の設定は、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで行います。操作のしかたは、通常の設定項目と同じです。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞P.115)

以下に、各機能の設定項目を示します。

BIOS セットアップの起動

管理者用パスワードを設定すると、自動的に設定されます。

起動時のパスワード

「起動時のパスワード」(☞P.125)を、「使用する」に設定します。

リジューム時のパスワード

「起動時のパスワード」(☞P.125)と「リジューム時のパスワード」(☞P.125)の両方を、「使用する」に設定します。

フロッピーディスクアクセス

「フロッピーディスクアクセス」(☞P.125)を、「管理者のみ可能」に設定します。

アドバイス

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント（マウス）が一切反応しなくなります。この場合は、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してから、正しいパスワードを入力してください。

「ユーザー用パスワード」でBIOSセットアップを起動すると

設定できる項目が制限されます。

「ユーザー用パスワード設定」（☞P.125）

Windows98で設定するには

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の左をにしても、サスPENDから復帰するときのパスワードを設定できません。この場合は、BIOSで設定したパスワードではなく、Windows98のパスワードを入力してください。

ハードディスクセキュリティ

「プライマリマスター」（☞P.126）を、「使用する」に設定します。

パスワードを入力する

パスワード機能を設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が要求されます。

- ・BIOSセットアップを起動するとき
- ・本パソコンを起動するとき
- ・サスPENDから復帰するとき

BIOSセットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、[Enter]を押してください。

リジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示LCDに[A]と[!]が交互に点滅します。この状態では、フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力して、[Enter]を押してください。正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント（マウス）は使えません。

パスワードを変更 / 削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(☞P.115)
- 2 □を2回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3 □または□でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、[Enter]を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。 []	[]
新しいパスワードを入力して下さい。 []	[]
新しいパスワードを確認して下さい。 []	[]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。 []	[]
新しいパスワードを入力して下さい。 []	[]
新しいパスワードを確認して下さい。 []	[]

- 4 設定してあるパスワードを入力し、[Enter]を押します。
カーソルが、「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄に移動します。
- 5 新しく設定したいパスワード(半角英数字、7文字まで)を入力し、[Enter]を押します。
英字の大文字、小文字の区別はありません。
カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

■ 重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコセンターまでご相談ください。

アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。[Enter]を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、[Esc]を押してください。

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなります。この場合は、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してBIOSセットアップを起動し直してください。なお、BIOSセットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。[Enter]を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは、[Esc]を押してください。

6 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、[Enter]を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

7 [Enter]を押します。

これで新しいパスワードが設定されました。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」（ \leftarrow P.134）の手順5と6で、何も入力せずに[Enter]を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

本パソコンは、電源を入れたときや再起動したときなどに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・メッセージ一覧 [P.136](#)
- ・メッセージが表示されたときは [P.141](#)

メッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

アドバイス

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]**を押します。

起動時に常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

- ① <ESC> キーを押すと自己診断画面、<F2> キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に**[F2]**を押すと、BIOS セットアップが起動します。

また、**[Esc]**を押すと起動時の自己診断画面が表示され、さらに自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動するドライブを□または□で選択して、**[Enter]**を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

起動時のメニュー	
1.	フロッピーディスクドライブ
2.	ハードディスクドライブ
3.	ATAPI CD-ROM ドライブ
<BIOS セットアップを起動>	

- ② <F2> キーを押すと、BIOS セットアップを起動します。

起動時の自己診断画面の下に表示され、このメッセージが表示されている間に**[F2]**を押すと、BIOS セットアップが起動します。

- ③ BIOS セットアップを起動しています …

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

- ④ 0640K システムメモリ テスト完了。

システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑤ nnnnM 拡張メモリ テスト完了。

拡張メモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑥ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。

キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑦ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。

システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。

アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたときは
電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、「メッセージが表示されたときは」(☞P.141)をご覧になり、手順に従って確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

⑧ ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。

ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。

⑨ マウスが初期化されました。

マウス機能が初期化され、フラットポイント(マウス)が使えるようになったことを示しています。

エラーメッセージ

⑩ Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、□などを押してください。

⑪ Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、□などを押してください。

⑫ Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

⑬ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx

誤りビット: zzzz zzzz

システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。

「メモリを取り外す」(☞P.86)

メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

⑭ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx

誤りビット: zzzz zzzz

拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

「メモリを増やす」(☞P.79)

それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑯ メモリキャッシュのエラーです。- キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑰ キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ フロッピーディスク A のエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ システムタイマーのエラーです。
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ リアルタイムクロックのエラーです。
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ㉓ 前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中に電源を切ってしまったり、またはBIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は[F1]を押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は[F2]を押してください。
- ㉔ <F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すとセットアップを起動します。
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。[F1]を押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、[F2]を押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
- ㉕ 日付と時刻の設定を確認してください。
日付と時刻の設定値が不正です。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- ㉖ パスワードで保護されています。: ハードディスク n
取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」(☞P.125)を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- ㉗ ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
「Save To Disk 領域」(☞P.153)
- ㉘ ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
「Save To Disk 領域」(☞P.153)
- ㉙ ハードディスクが検出されませんでした。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉚ 不明な Save To Disk エラーが発生しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

③① ハードディスクからの読み取りに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

③② ハードディスクへの書き込みに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

③③ ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。

Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(☞P.153)

③④ Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかつたため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

③⑤ Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

メッセージが表示されたときは

メッセージが表示された場合は、「メッセージ一覧」(P.136)をご覧になって対処してください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からぬ場合は、次の手順に従って処置を行ってください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(P.120)

2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

3 取り外したオプション機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号(IRQ)を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

第6章

技術情報

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧	144
2. Save To Disk 領域	153
3. 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意	156
4. モデムについて	159
5. ドライバのインストール	162
6. マルチモニタ機能を使う	175
7. その他の注意事項	178

1 仕様一覧

- ・本体 ➡ P.144
- ・モデム ➡ P.148
- ・リソース一覧 ➡ P.149
- ・コネクタのピン配列と信号名 ➡ P.150
- ・CRT ディスプレイの走査周波数 ➡ P.152

本体

製品名称	FMV-BIBLO NE/36LA	FMV-BIBLO NE/36L
CPU	モバイル Pentium® プロセッサ 366MHz	モバイル Intel® Celeron™ プロセッサ 366MHz
キャッシュメモリ	32KB + 256KB (CPU内蔵)	32KB + 128KB (CPU内蔵)
PCIチップセット	Intel 440BX AGPset	
BIOS ROM	512KB (フラッシュ ROM)	
システムRAM	標準 64MB / 最大 256MB 1 (SDRAM) (拡張 RAM モジュール 16/32/64/128MB、標準スロット x 1、増設スロット x 1)	
VRAM	4MB (SDRAM)	
CD-ROM ドライブ	最大 24 倍速 (平均 17 倍速) マルチセッション、CD エクストラ対応	
フロッピーディスクドライブ	3.5インチ (2HD: 1.44MB/1.2MB、2DD: 720KB)	
ハードディスクドライブ	10GB	6.4GB
表示方式 2	TFT カラー液晶ディスプレイ (14.1型) 1024 × 768 ドット 最大 1677 万色 3	
音源機能	PCI バス接続サウンドチップ (16 ビットステレオ PCM、 FM エミュレーション音源) 64Voice XG Wave table 機能内蔵	
キーボード	一体型 OADG 配列準拠 92 キー (MS キー付き)	
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント	
PC カード	TYPE / × 2 または TYPE × 1 スロット (CardBus 対応)	
DATA/FAX モデム 4	DATA ITU-T V.90、K56flex™ /FAX 14.4Kbps	
外部インターフェース	外部 CRT パラレル シリアル 拡張キーボード / マウス USB 5 赤外線通信ポート ライン入力 ヘッドホン出力 マイク入力 FAX モデム PDC	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン D-SUB 25 ピン (ECP 対応) RS-232C D-SUB 9 ピン (16550A 互換) PS/2 タイプミニ DIN6 ピン USB 用コネクタ 4 ピン IrDA 1.1 準拠 (最大 4Mbps) 3.5mm ステレオミニジャック × 1 3.5mm ステレオミニジャック × 1 3.5mm モノラルミニジャック × 1 モジュラージャック (RJ-11) × 1 専用コネクタ 9 ピン
電源供給方式	AC アダプタまたは Li-ion バッテリ	
バッテリパック	Li-ion 10.8V、2400mAh	
バッテリ稼動時間 6	約 2.2 時間	
バッテリ充電時間	サスペンド時または電源を切っているとき : 3 時間 パソコン動作時 : 9 時間	
消費電力	約 48W 以下 (AC 運用時)	
省エネ法に基づく表示	エネルギー消費効率 約 4.0W (AC 運用時の待機時消費電力) 7	
外形寸法	308 × 282.5 × 37.5 (最薄部) mm (突起部含まず)	
重量	約 3.2kg	
サポート OS	Windows 98 および Windows NT 4.0 8	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

「印について」(➡ P.147)

製品名称	FMV-BIBLO NE/36X
CPU	モバイルIntel®Celeron™ プロセッサ 366MHz
キャッシュメモリ	32KB + 128KB (CPU内蔵)
PCIチップセット	Intel 440BX AGPset
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)
システムRAM	標準 64MB / 最大 256MB 1 (SDRAM) (拡張RAMモジュール16/32/64/128MB、標準スロット×1、増設スロット×1)
VRAM	4MB (SDRAM)
CD-ROM ドライブ	最大 24倍速 (平均 17倍速) マルチセッション、CDエクストラ対応
フロッピーディスクドライブ	3.5インチ (2HD: 1.44MB/1.2MB、2DD: 720KB)
ハードディスクドライブ	10GB
表示方式 2	TFT カラー液晶ディスプレイ (13.3型) 1024 × 768 ドット 最大 1677万色 3
音源機能	PCIバス接続サウンドチップ (16ビットステレオPCM、 FMエミュレーション音源) 64Voice XG Wave table 機能内蔵
キー ボード	一体型 OADG配列準拠 92キー (MSキー付き)
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント
PCカード	TYPE / × 2 または TYPE × 1スロット (CardBus対応)
DATA/FAX モデム 4	DATA ITU-T V.90、K56flex™ /FAX 14.4Kbps
外部インターフェース	外部CRT アナログRGB Mini D-SUB 15ピン
	パラレル D-SUB 25ピン (ECP対応)
	シリアル RS-232C D-SUB 9ピン (16550A互換)
	拡張キー ボード / マウス PS/2 タイプミニDIN6ピン
	USB 5 USB用コネクタ 4ピン
	赤外線通信ポート IrDA 1.1 準拠 (最大 4Mbps)
	ライン入力 3.5mm ステレオミニジャック × 1
	ヘッドホン出力 3.5mm ステレオミニジャック × 1
	マイク入力 3.5mm モノラルミニジャック × 1
	FAX モデム モジュラージャック (RJ-11) × 1
PDC	専用コネクタ 9ピン
電源供給方式	ACアダプタまたはLi-ionバッテリ
バッテリパック	Li-ion 10.8V、2400mAh
バッテリ稼動時間 6	約 2.3 時間
バッテリ充電時間	サスPEND時または電源を切っているとき: 3時間 パソコン動作時: 9時間
消費電力	約 48W 以下 (AC運用時)
省エネ法に基づく表示	エネルギー消費効率 約 4.0W (AC運用時の待機時消費電力) 7
外形寸法	308 × 282.5 × 37.5 (最薄部) mm (突起部含まず)
重量	約 3.1kg
サポートOS	Windows98 および WindowsNT4.0 8

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

「印について」(P.147)

製品名称	FMV-BIBLO NE/33	FMV-BIBLO NE/33E
CPU	モバイルIntel®Celeron™ プロセッサ 333MHz	
キャッシュメモリ	32KB + 128KB (CPU内蔵)	
PCIチップセット	Intel 440BX AGPset	
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)	
システムRAM	標準 64MB / 最大 256MB 1 (SDRAM) (拡張RAMモジュール 16/32/64/128MB、標準スロット×1、増設スロット×1)	
VRAM	4MB (SDRAM)	
CD-ROM ドライブ	最大 24倍速 (平均 17倍速) マルチセッション、CDエクストラ対応	
フロッピーディスクドライブ	3.5インチ (2HD: 1.44MB/1.2MB、2DD: 720KB)	
ハードディスクドライブ	6.4GB	4.3GB
表示方式 2	TFT カラー液晶ディスプレイ (12.1型) 800 × 600 ドット 最大 1677 万色 3	
音源機能	PCIバス接続サウンドチップ (16ビットステレオPCM、FMエミュレーション音源) 64Voice XG Wave table 機能内蔵	
キーボード	一体型 OADG配列準拠 92キー (MSキー付き)	
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント	
PCカード	TYPE / × 2 または TYPE × 1 スロット (CardBus対応)	
DATA/FAX モデム 4	DATA ITU-T V.90、K56flex™ /FAX 14.4Kbps	
外部インターフェース	外部CRT	アナログRGB Mini D-SUB 15ピン
	パラレル	D-SUB 25ピン (ECP対応)
	シリアル	RS-232C D-SUB 9ピン (16550A互換)
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプミニDIN6ピン
	USB 5	USB用コネクタ4ピン
	赤外線通信ポート	IrDA 1.1準拠 (最大 4Mbps)
	ライン入力	3.5mmステレオミニジャック×1
	ヘッドホン出力	3.5mmステレオミニジャック×1
	マイク入力	3.5mmモノラルミニジャック×1
	FAX モデム	モジュラージャック (RJ-11) ×1
	PDC	専用コネクタ9ピン
電源供給方式	ACアダプタまたはLi-ionバッテリ	
バッテリパック	Li-ion 10.8V、2400mAh	
バッテリ稼動時間 6	約 2.4 時間	
バッテリ充電時間	サスペンド時または電源を切っているとき: 3 時間 パソコン動作時 : 9 時間	
消費電力	約 48W 以下 (AC運用時)	
省エネ法に基づく表示	エネルギー消費効率 約 4.0W (AC運用時の待機時消費電力) 7	
外形寸法	308 × 282.5 × 38.5 (最薄部) mm (突起部含まず)	
重量	約 3.0kg	
サポートOS	Windows98 および WindowsNT4.0 8	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

「印について」(P.147)

印について

- 1 256MBにするには、取り付けられている64MBの拡張RAMモジュールを取り外す必要があります。
- 2
 - ・TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上(解像度1024×768の場合)、または144万個以上(解像度800×600の場合)の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
 - ・液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。

これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 3 ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color(24ビットまたは32ビット)で表示されます。
- 4
 - ・K56flexTMは、米ルーセントテクノロジー社等が提唱する通信規格です。56000bpsはK56flexTMおよびITU-T標準規格V.90の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。K56flexTMおよびITU-T標準規格V.90による33600bpsを超える通信速度は受信時のみで、送信時は33600bpsが最高速度となります。日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
 - ・ナンバーディスプレイ機能は、添付のアプリケーション「電話機能」でのみお使いになれます。
 - ・MS-DOSモードではお使いになられません。
- 5 すべてのUSB対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- 6 本体のみ、省電力制御あり、フル充電の場合(稼動時間は使用条件により異なります)
- 7 サスPENDモード(充電なし)
- 8
 - ・WindowsNTをお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
<http://www.fmworld.ne.jp/>
をご覧ください。
 - ・WindowsNT4.0に変更した場合、次の機能は使えません。また、搭載アプリケーションの動作は保証できません。
 - ・PDC
 - ・ワンタッチボタン
 - ・赤外線通信
 - ・USB

モデム

品名		Fujitsu LB RWModem V.90 56K J	
通信方式		2線式全二重(FAXモードでは2線式半二重)	
通信規格	データモード	K56flex ITU T V.90, V.34, V.32bis, V.32, V.22bis	
	FAXモード	ITU T V.17, V.29, V.27ter, V.21ch2	
通信速度	V.90 モード	受信	56000, 54667, 53333, 52000, 50667, 49333, 48000, 46667, 45333, 44000, 42667, 41333, 40000, 38667, 37333, 36000, 34667, 33333, 32000, 30667, 29333, 28000bps
		送信	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	K56flex モード	受信	56000, 54000, 52000, 50000, 48000, 46000, 44000, 42000, 40000, 38000, 36000, 34000, 32000bps
		送信	31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	データモード		33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200bps
FAX モード		14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 300bps	
同期方式		調歩同期	
データ転送プロトコル		MNP class 4 / 5 ITU T (CCITT) V.42 / V.42bis	
FAX インターフェース		TIA / EIA578 (class1)	
最大端末速度		115200bps	
バスインターフェース		PCI	
使用環境条件		パソコン本体による(温度:5 ~ 35 (結露がないこと))	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 自動速度検出 発信音、呼出し音、話中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状態を示す応答音の検出 トーン式/パルス式ダイヤルの自動選択 ナンバーディスプレイ対応(Windows95およびWindows98のみサポート) 	

- 本モデムはWindows 98、Windows NT 4.0以外のOSでの動作はサポートしていません。
- K56flexはRockwell International社、Lucent Technologies社が提唱している通信規格です。
- V.90およびK56flexでの接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- 56000bpsはV.90およびK56flexの理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90による33600bps(K56flexは31200bps)を超える通信速度は受信時のみで、V.90送信時は33600bps(K56flexは31200bps)が最高速度になります。
- 日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- MS DOSモードではお使いになれません。

アドバイス

現在のリソースを確認するには

オプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

リソース一覧

本パソコンの割り込み番号(IRQ)、DMAチャネルをどのハードウェアが使っているかの一覧です。

本パソコンご購入時の割り込み番号(IRQ)、DMAチャネルは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

割り込み番号 (IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマー
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート (COM4)
4	通信ポート (COM1)
5	サウンド
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システムCMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller / 内蔵モデム (COM2) / USB ホストコントローラ / サウンド / ディスプレイ
10	空き
11	空き
12	ポインティングデバイス
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ
15	IDE コントローラ

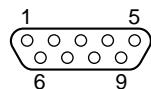
DMA チャネル

DMA	使用状況
0	空き
1	サウンド
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	空き

コネクタのピン配列と信号名

シリアルコネクタ

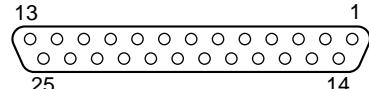
(D-SUB9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャラリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケータ

パラレルコネクタ

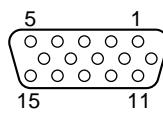
(D-SUB25 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18	GND	-	グランド
19	GND	-	グランド
20	GND	-	グランド
21	GND	-	グランド
22	GND	-	グランド
23	GND	-	グランド
24	GND	-	グランド
25	GND	-	グランド

CRT コネクタ

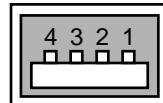
(ミニ D-SUB 15 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グランド
6	GND	-	グランド
7	GND	-	グランド
8	GND	-	グランド
9	+ 5V	-	電源 1
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

1 : MAX 300mA

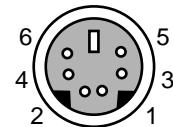
USB コネクタ



ピン信号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グランド

拡張キー ボード / マウスコネクタ

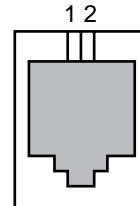
(ミニ DIN 6 ピン)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	データ
2	MDATA	入出力	データ
3	GND	-	グランド
4	+ 5V	-	電源
5	KCLK	入出力	クロック
6	MCLK	入出力	クロック

モジュラーコネクタ (モデム)

(RJ-11)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

CRT ディスプレイの走査周波数

CRT 表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数が選択できます。

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31-43	60-85
800 × 600	37-53	60-85
1024 × 768	48-68	60-85
1280 × 1024	64-91	60-85
1600 × 1200	75	60

同時表示の場合

解像度や発色数に関係なく一定です。

	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
NE/36LA, NE/36L, NE/36X	48.5	60.0
NE/33, NE/33E	37.9	60.0

Save To Disk 領域

ここでは以下のことを説明します。

- ・Save To Disk 領域について [P.153](#)
- ・Save To Disk 領域の容量 [P.153](#)
- ・Save To Disk 領域を変更する [P.154](#)

Save To Disk 領域について

アドバイス

「ファイル形式」と「区画設定」

Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、あらかじめ、Save To Disk 領域が「区画設定」で設定されています。

ファイル形式で使うときの注意

「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。

アドバイス

Save To Disk 領域に必要な容量

Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

Save To Disk 機能では、作業状態(メモリの内容)をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ Save To Disk 機能用の保存場所が確保されています。この Save To Disk 機能用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなつたときは、Save To Disk 機能が使えなくなります。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + 5MB (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量(増設時)	ビデオメモリ容量・その他
約 261MB	標準 128MB + 増設 128MB = 256MB	約 5MB

メモリを 256MB にするには、標準搭載の 64MB の拡張 RAM モジュールを取り外し、128MB の拡張 RAM モジュールを 2 枚取り付けます。

アドバイス

Save To Disk 領域を作成するとき

Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。

区画として Save To Disk 領域を作成するとき

- 区画として Save To Disk 領域を作成するときは、FDISKユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に行ってください。

- 「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。

Save To Disk 領域を作成したあとは再起動してください

Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。

再起動せずに Save To Disk機能を使うと、正しく動作しない場合があります。

区画として作成した Save To Disk 領域を増やすとき

区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

Save To Disk 領域を変更する

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使用します。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は 「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」に入っています。

また、Windows 98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されると正しく動作しません。フロッピーディスクドライブに 「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」を入れて本パソコンを起動し、起動後に表示される「Windows 98 リカバリメニュー」で、④を押してお使いください。

「A:¥>」のあとに、実行するコマンドとオプションを入力します。

コマンド

PHDISK { オプション }

```
  /CREATE /PARTITION
  (または /CREATE /FILE )
  /INFO
  /DELETE /PARTITION
  (または /DELETE /FILE )
  /REFORMAT /PARTITION
```

PHDISKをオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

オプション

それぞれのオプションは、先頭の1文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/の前は、 を1回押してください。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

作成

: /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)
Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。
/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。
/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。
Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。

区画設定で Save To Disk 領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

削除	<p>: /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)</p> <p>すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。</p> <p>/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。</p> <p>/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。</p> <p>Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。</p>
再フォーマット	<p>: /REFORMAT /PARTITION</p> <p>区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。</p> <p>このオプションは、Save To Disk 機能を使っていて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見ついた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。</p>
詳細情報	<p>: /INFO</p> <p>すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。</p> <p>表示例 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 区画設定で作成した場合 <p>Save To Disk 領域詳細情報:</p> <p>開始セクタ:XXXXXX (ヘッド X 、シリンド XXX 、セクタ X)</p> <p>全容量:XXXXXX バイト</p> <p>現在の状態:</p> <p>現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です .PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します .</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイル形式で作成した場合 <p>Save To Disk 領域詳細情報:</p> <p>現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C: ¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXX bytes です . 属性は、システム、隠しファイル、及び読み取り専用です .</p> <p>現在の状態:</p> <p>現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です .PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します .</p>

- ・制限事項 ➔ P.156
- ・赤外線通信をするときの注意 ➔ P.157
- ・転送速度について ➔ P.157
- ・Windows98 の赤外線機能を使用しているとき ➔ P.158
- ・Intellisync の設定を確認する ➔ P.158

本パソコンの赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機器を持った他のコンピュータと、ケーブルを接続することなく通信することができます。

本パソコンには、赤外線通信のアプリケーションとして、「Intellisync」が用意されています。赤外線通信をお使いになる前に以下の注意事項をご覧になり、設定を行ってください。なお、「Intellisync」を使った通信について詳しくは、「Intellisync」のマニュアルをご覧ください。

➔ 『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド』

制限事項

- ・Windows98 を終了させるときは、必ず「Intellisync」を先に終了させてください。
- ・データの通信中に、赤外線通信ポートをふさいだりして、通信エラーが発生した場合は、「Intellisync」をいったん終了させてから、再度行ってください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
- ・「Intellisync」のシンク機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しません。
- ・赤外線通信の相手先には、「TranXit3.0」の4Mbpsモードをお使いになれない。以下のいずれかの方法でお使いください。
 - 「TranXit3.0」の設定で、115Kbpsを指定してお使いください。
 - 4Mbpsモードをお使いになる場合は、「アプリケーションCD」より相手先のコンピュータに「Intellisync」をインストールして、「Intellisync」同士でお使いください。

赤外線通信をするときの注意

- ・赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタやCRTディスプレイを近づけないでください。
ノイズによる誤動作の原因となります。
- ・互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能な状態にし、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。
- ・距離は、20～50cmの範囲内でのご使用をお勧めします。特にバッテリ運用時は、互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- ・データの転送中にお互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗することがあります。
- ・次のようなときは、うまく通信ができない場合があります。
 - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていないとき
 - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物があるとき
 - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作しているとき
 - 直射日光や蛍光燈・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっているとき

転送速度について

本パソコンは、「Intellisync」を搭載しており、最大4Mbpsの速度で通信できます。

転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- ・115Kbpsのパソコンと通信する場合
自動的に115Kbpsモードで接続されます。
- ・4Mbpsのパソコンと通信する場合
自動的に4Mbpsモードで接続されます。

Windows 98 の赤外線機能を使用しているとき

Windows 98 に標準添付されている赤外線デバイスを実行していると、「Intellisync」が正常に動作しないことがあります。その場合、次の操作を行ってください。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2**  (赤外線モニタ) をクリックします。
「赤外線モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「オプション」タブをクリックします。
- 4** 「赤外線通信を使用可能にする」をクリックして を にします。
- 5** 「OK」をクリックします。

Intellisync の設定を確認する

BIOS セットアップでの設定

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。うまく通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「周辺機器設定」で、「シリアルポート B」の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

- ・シリアルポート B : 使用する
- ・モード : FIR
- ・I/O ベースアドレス : 2E8
- ・割り込み番号 : IRQ 3
- ・I/O ベースアドレス : 118
- ・DMA チャネル : DMA 3

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞P.115)

アドバイス コンピュータ名について

あらかじめインストールされている「Intellisync」は、「コンピュータ名」に「OEMCOMPUTER」が登録されています。通信相手の「コンピュータ名」が同じ名前になっていると通信できません。その場合は異なる名前になるように設定を変更してください。変更は「Intellisync」の「接続設定マネージャ」の「識別」タブの「コンピュータ名」で行います。

ZAURUS との通信について

「Intellisync」では、ZAURUS との通信はサポートされていません。

4 モデムについて

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



警 告



近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



注 意



モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。

・ モデムが使用可能な回線

本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。

・ ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません

本モデムが接続できる回線は、一般的NTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカー・保守業者にお問い合わせください。

・ デジタル回線に接続する場合

本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。

・ PBX に接続する場合

PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカー・保守業者にお問い合わせください。

ただし、“0”発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できます。

・ キャッチホン1契約をしている場合

キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。

- ・通信アプリケーションご使用時の注意

通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンをサスPEND状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスPEND状態になると、データ転送が中断することがあります。

- ・電源ケーブル等は離してご使用ください

電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してご使用ください。

- ・他のモデムを接続しないでください

他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。

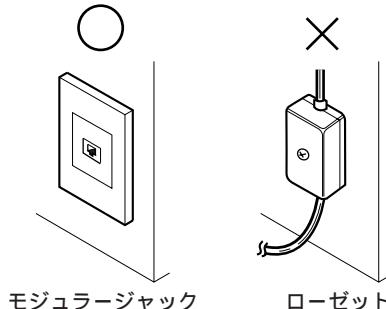
- ・ナンバーディスプレイ対応の電話番号で接続する場合

「184」「186」の電話番号をつけてダイヤルする場合、正常に接続できないことがあります。その場合は「184」「186」の電話番号と接続先の電話番号の間に「,」(半角のカンマ)を入れてダイヤルしてください。

電話回線の接続口の形状

一般的に電話回線の接続口には、「モジュラージャック」と「ローゼット」と呼ばれる2種類があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ接続できます。

ローゼットなどモジュラージャック以外の形状の場合は、NTTに工事を依頼する必要があります。



電話回線に電話機を取り付けているとき

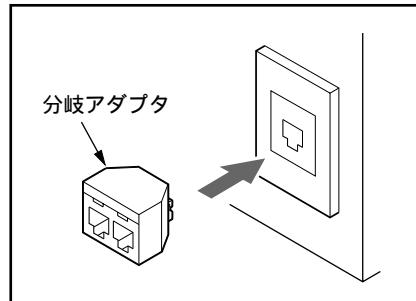
電話回線と本パソコンを接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外してください。

アドバイス

電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないとき

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方をモジュラージャックに接続できます。分岐アダプタを利用するときは、以下のことに注意してください。

- ・パソコンと電話機で同時に電話回線を使うことはできません。
- ・インターネットやパソコン通信をしているときは、電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはずれると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
- ・分岐アダプタの2つのモジュラージャックに、接続区別はありません。電話機、または本パソコンをどちらのモジュラージャックに接続してもかまいません。
- ・分岐アダプタを使用するときは、なるべく2分岐以内にしてお使いください。



モジュラーケーブルの長さが足りないとき

添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

携帯電話で通信する場合

「携帯電話やPHSを接続する」(P.95)

認証番号の表示

本モデムの技術基準適合認証番号は、パソコン本体下面に表記されています。



ドライバのインストール

ゲームなどをインストールすると、本パソコンに合わないドライバが自動的にインストールされてしまい、本パソコンが正しく動作しなくなることがあります。また、「アプリケーションCD」に入っているドライバをインストールすると、本パソコンの機能を拡張できことがあります。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・インストールのときに気をつけること  P.162
- ・ディスプレイドライバをインストールする  P.163
- ・サウンドドライバをインストールする  P.169
- ・Glide Pointをインストールする  P.172

インストールのときに気をつけること

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何もないところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

アプリケーションやウィンドウの終了

「Windows98へようこそ」画面など、開いているウィンドウや、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。タスクバーに常駐している「FM便利ツール」はスタートメニューから、「VirusScan」や「PMSet98」などは右クリックで終了してください。

また、何度もパソコンが再起動するので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

スクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーを設定している場合は（お買い求めのときは設定されています）「なし」に設定してください。

「バージョンの競合」ウィンドウ

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーションCD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

ディスプレイドライバをインストールする

画面が正しく表示されないときは、ディスプレイドライバをインストールします。ディスプレイドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

Windows98が起動しないときは、SafeモードでWindows98を起動してください。

Windows98のセットアップ直後など、Windows98が起動しているときは、ディスプレイドライバをインストールします。

「ディスプレイドライバのインストール」(☞P.165)

SafeモードでWindows98を起動する

アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないとき

を押すタイミングが合わなかったことが考えられます。本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

画面に何も表示されていない場合は、SUS/RESスイッチを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、手順2から操作し直してください。それでも「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないときは、本パソコンをSafeモードで起動できません。弊社パーソナルエコセンターにご相談ください。

Safeモードとは

Windows98を必要最低限の状態で起動する方法です。ディスプレイなどの設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。

Windows98が起動してしまったとき

手順4の操作を行わないまま30秒経過すると、自動的にWindows98が起動してしまうことがあります。その場合は、本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

エラーメッセージについて

Windows98が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。

1 キーボードの  の位置を確認します。

2 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.46)

3 「FUJITSU」のロゴマークが表示されたら、を押し続けます。

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。

4   を押して、「3. Safe mode」を反転表示させ、を押します。

SafeモードでWindows98が起動し、Safeモードの説明が表示されます。

5 「デスクトップ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

6 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

7  (画面)をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

8 「設定」タブをクリックします。

9 「詳細」をクリックします。

「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 10** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 12** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、にします。
- 13** 「次へ」をクリックします。
- 14** 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。
- 15** 製造元とモデルを以下のように選び、「次へ」をクリックします。
製造元：「(標準ディスプレイ)」
モデル：「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 17 へ進んでください。
- 16** 「はい」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 17** 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 18** 「完了」をクリックします。
「(不明なデバイス) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 19** 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 20** 「閉じる」をクリックします。
「続行しますか？」というメッセージが表示されます。
- 21** 「はい」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 22** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

 **アドバイス**
「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには
再起動後に「コントロールパネル」ウィンドウを表示すると、左端に説明が表示されないことがあります。このときは、「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューをクリックし、「Web ページ」をクリックして (チェックマーク) を付けてください。説明が表示されるようになります。

■ 重要

メッセージが表示されたとき

再起動後に「ディスプレイ設定に問題があります。」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「色」を「16色」に設定します。その後「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

ハードウェアウィザードが始まるメッセージが表示されたとき

ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、「OKをクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

ディスプレイドライバのインストール



注意



CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレーに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

1 「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。
「セットする」(☞P.29)

2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 （画面）をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「設定」タブをクリックします。

5 「詳細」をクリックします。

6 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
「アダプタ」タブが表示されていないときは、「OK」をクリックし、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしてください。「アダプタ」タブが表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。

アドバイス
「アダプタ」タブが表示されていないとき
「OK」をクリックして、一度「画面のプロパティ」
ウィンドウに戻り、もう一度手順5からやり直してください。

8 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、にします。

9 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。

10 「ディスク使用」をクリックします。

「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。

① Office 2000 Personal モデルをお使いの方
➡ 手順 11 に進みます。

② Word モデル／一太郎モデルをお使いの方
➡ P.169 手順 11' ~ 手順 14' を行ったあと、手順 16 に進みます。

Office 2000 Personal モデルをお使いの方

11 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、`e:\ati\disk0` と入力し、「OK」をクリックします。(e:には、お客様がお使いの CD-ROM ライブ名を入力してください。)

12 「RAGE MOBILITY-P AGP (Japanese)」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。

「ドライバの更新の警告」ウィンドウが表示されたときは、「はい」をクリックし「次へ」をクリックします。

「ディスクの挿入」ウィンドウが表示されます。

13 「OK」をクリックします。

14 「ファイルのコピー元」の下の欄に、`e:\ati\disk1` と入力し、「OK」をクリックします。

「ディスクの挿入」ウィンドウが表示されます。

15 「OK」をクリックします。

以降「ディスクの挿入」ウィンドウが表示されるたび「OK」をクリックし、ウィンドウ内に表示されている disk の後に続く数字を `e:\ati\disk` の後に続けて入力し「OK」をクリックしてください。

(例：「ディスクの挿入」ウィンドウに「ディスク 'Mach64 Windows9x driver,disk # 2' が必要です。」と表示されていた場合は、「ファイルのコピー元」の下の欄に「`e:\ati\disk2`」と入力します。)

16 「完了」をクリックします。

17 「モニタ」タブをクリックします。

アドバイス

「続行しますか？」というメッセージが表示されたとき

「はい」をクリックしてください。

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

1 「OK」をクリックします。

「この設定を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

2 「はい」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

3 手順 29 へ進みます。

18 以下のように表示されているか、確認します。

- ・NE/36LA, NE/36L, NE/36Xをお使いの方

「ラップトップディスプレイパネル 1024 × 768」

- ・NE/33, NE/33Eをお使いの方

「ラップトップディスプレイパネル 800 × 600」

表示されているときは、手順 28 へ進んでください。表示されていないときは、手順 19 へ進んでください。

19 「変更」をクリックします。

20 「次へ」をクリックします。

21 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

22 「すべてのハードウェアを表示」をクリックし、 にします。

23 「製造元」に「標準モニタの種類」を選びます。

24 「モデル」を以下のように選び、「次へ」をクリックします。

- ・NE/36LA, NE/36L, NE/36Xをお使いの方

「ラップトップディスプレイパネル 1024 × 768」

- ・NE/33, NE/33Eをお使いの方

「ラップトップディスプレイパネル 800 × 600」

「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 26 へ進んでください。

25 「はい」をクリックします。

ファイルがコピーされます。

コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。

26 「次へ」をクリックします。

27 「完了」をクリックします。

28 「閉じる」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

29 「閉じる」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

- 30** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
再起動しない場合は、「スタート」メニューから、「Windows の終了」を実行し、本パソコンを再起動してください。
本パソコンの再起動後に「ATIデスクトップのヘルプ」ウィンドウが表示されたときは、右上の（閉じるボタン）をクリックしてください。
- 31** 「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
「取り出す」（☞P.31）
- 32** 「コントロールパネル」ウィンドウの（システム）をクリックします。
- 33** 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 34** 「ディスプレイアダプタ」の「標準ディスプレイアダプタ（VGA）」に「！」が表示されているときは、「標準ディスプレイアダプタ（VGA）」をクリックし、「削除」をクリックします。
「！」が表示されないときは、手順35へ進んでください。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 35** 「OK」をクリックします。
- 36** 「閉じる」または「OK」をクリックします。
- 37** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 38** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

お使いの状況に合わせて、画面の解像度と発色数を変更してください。

「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」（☞P.38）

ご購入時の解像度と発色数は次のとおりです。

・NE/36LA, NE/36L, NE/36Xをお使いの方

解像度：1024 × 768 ドット

発色数：High Color（16 ビット）

・NE/33, NE/33Eをお使いの方

解像度：800 × 600

発色数：High Color（16 ビット）

Word モデル／一太郎モデルをお使いの方

11' 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、**e:¥ati**と入力し、「OK」をクリックします。（e:には、お客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください。）

12' 「RAGE MOBILITY AGP (日本語)」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 14 へ進んでください。

13' 「はい」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。

14' 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
しばらくすると、「ハードウェア用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
このあと、手順 16（☞P.166）へ進みます。

サウンドドライバをインストールする

ゲームなどをインストールして音が正しく出なくなったときは、サウンドドライバをインストールします。

サウンドドライバのインストールは、①「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」（☞P.162）

お使いのモデルによってインストールの方法が異なります。モデルを確認し、インストールをしてください。

①「Word モデル／一太郎モデルをお使いの方」（☞P.169）

②「Office 2000 Personal モデルをお使いの方」（☞P.171）



注意



CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレーに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

Word モデル／一太郎モデルをお使いの方

1 ①「アプリケーションCD」をCD-ROM ドライブにセットします。
「セットする」（☞P.29）

- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
- 3** 名前の右の欄に `e:\yamaha\dsuninst.exe` と入力し、「OK」をクリックします。
(e: には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。)
「YAMAHA DS-XG Driver の削除を開始します。」というメッセージが表示されます。
- 4** 「次へ」をクリックします。
- 5** 「次へ」をクリックします。
「アンインストールは完了しました。コンピューターを再起動します。」というメッセージが表示されます。
- 6** 「完了」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」が になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 9** 「検索場所の指定」をクリックして にし、 `e:\yamaha` と入力します。
(e: には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。)
- 10** 「検索場所の指定」以外の項目で、 になっているものをクリックして にします。
- 11** 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC」というメッセージが表示されます。
- 12** 「次へ」をクリックします。
しばらくすると、「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

「Diskが必要です」というメッセージが表示されたとき

「YAMAHA DS-XG PCI Audio Device Diskが必要です」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックします。表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に「c:\windows\system」と入力し、「OK」をクリックします。

アドバイス

「！」や「×」が表示されたり、画面例のように表示されないとき

手順2（☞P.170）からやり直してください。それでも画面例のように表示されないときは、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

13 「完了」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

再起動しない場合は、「スタート」メニューから、「Windowsの終了」を実行し、本パソコンを再起動してください。

14 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

15 「システム」をクリックします。

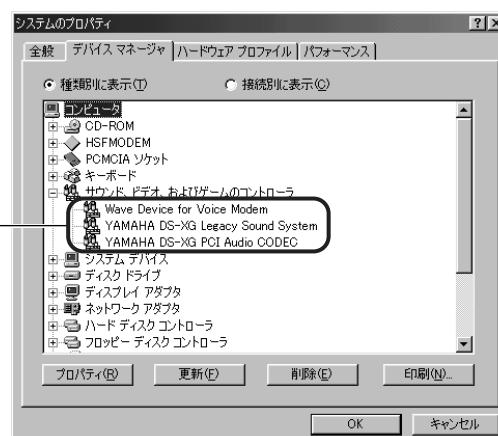
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

16 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

17 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の[+]をクリックします。

一覧が表示されます。

このように表示されて
いることを確認します。



18 「OK」をクリックします。

Office 2000 Personal モデルをお使いの方

1 「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。

「セットする」（☞P.29）

2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

3 名前の右の欄に `e:\$yamaha\$setup.exe` と入力し、「OK」をクリックします。

(e:には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。)

4 「次へ」をクリックします。

インストールが始まります。

インストールが終了すると、「セットアップ完了」というウィンドウが表示されます。

5 「はい、直ちにコンピューターを再起動します。」が になっていることを確認し、「完了」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

6  「アプリケーションCD」を CD-ROM ドライブから取り出します。

「取り出す」(☞P.31)

7 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

8  「システム」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

9 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

10 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の をクリックします。

「YAMAHA DS-XG Legacy Sound System」と「YAMAHA DS-XG PCI AUDIO CODEC」が表示されていることを確認します。

11 「OK」をクリックします。

グライドポイント GlidePoint をインストールする

「GlidePoint」をインストールすると、スクロールマウス機能を使用したり、フラットポイントの機能を拡張することができます。

「GlidePoint」のインストールは、 「アプリケーションCD」から行います。

インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(☞P.162)

 **アドバイス**
「！」や「×」が表示されたり、正しく表示されていないとき

手順 2 (☞P.171) からやり直してください。それでも正しく表示されないとときは、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

 **アドバイス**
スクロールマウス機能とは

フラットポイントの右端を上下に gezると、アクティブウィンドウの中が上下にスクロールする機能です。



注意



けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

■ 重要

制限事項

「GlidePoint」をインストールすると、以下の場合に正しく動作しないことがあります。

- ・ BIOS セットアップの「詳細」メニューの「キーボード / マウス設定」で、「内蔵ポインティングデバイス」(☞P.123) を「自動」に設定しているとき（ご購入時は「自動」）
- ・ PS/2 標準以外のマウスを接続しているとき

- 1 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
「セットする」(☞P.29)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「システム」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 「マウス」の左の $+$ をクリックします。
一覧が表示されます。
- 6 「PS/2 互換マウスポート」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「PS/2 互換マウスポートのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 8 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 9 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、 にします。

- 10** 「次へ」をクリックします。
- 11** 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 12** 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に `e:\¥alps` と入力し、「OK」をクリックします。
(e:には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。)
- 13** 「Alps GlidePoint [1-28-1998]」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 15 へ進んでください。
- 14** 「はい」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 15** 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 16** 「完了」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 17** 「いいえ」をクリックします。
「Alps GlidePoint プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 18** 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 19** 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 20** 「はい」をクリックします。
パソコンが再起動し、タスクバーに  (AlpsPoint) が表示されます。
- 21**  「アプリケーションCD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
「取り出す」(⇨P.31)
- 22** 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

アドバイス

設定を変更するには

フラットポイントのボタンの機能を変更するときは、「マウスのプロパティ」ウィンドウで行ってください。

マウスポインタの動きがおかしいときは

「デバイスマネージャ」ウィンドウのマウスの横の  をクリックし、「Alps GlidePoint」を選択し、「プロパティ」の「ドライバ」タブで「ドライバの更新」をクリックします。「デバイスドライバの更新ウィザード」では、「すべてのハードウェアを表示」をクリックして「(標準マウス)」の「標準 PS/2 ポートマウス」を選んでください。

マルチモニタ機能を使う

マルチモニタ機能を使うと、1つのデスクトップを液晶ディスプレイとCRTディスプレイで表示できます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・セカンダリアダプタを設定する (☞P.175)
- ・分割したデスクトップを表示する位置を変更する (☞P.177)

セカンダリアダプタを設定する



重要

マルチモニタ機能の注意

- ・マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- ・TV を接続することはできません。
- ・2つのディスプレイにまたがるウインドウがあるときは、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
- ・以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - DVD タイトルの再生
 - パネルのストレッチ表示
 - MS-DOS プロンプトのフルスクリーン表示
 - 一部のスクリーンセーバー

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows 98 の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

発色数についての注意

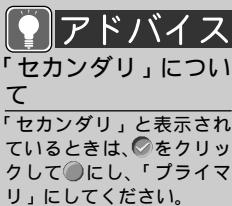
- ・プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
- ・High Color または True Color に設定してください。256 色に設定すると、正しく表示されないことがあります。

解像度についての注意

- ・プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは CRT ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ・プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの最大解像度は、CRT ディスプレイの最大解像度になります。

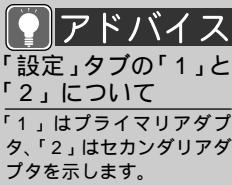
本パソコンの液晶ディスプレイをセカンダリアダプタに設定しているとき

再起動すると、本パソコンの液晶ディスプレイがプライマリアダプタになり、接続したディスプレイがセカンダリアダプタになることがあります。このときは、「設定」タブでセカンダリアダプタを使用不可にし、「OK」をクリックしていったん「画面のプロパティ」ウインドウを閉じたあと、液晶ディスプレイにセカンダリアダプタを設定し直してください。



アドバイス 「セカンダリ」について

「セカンダリ」と表示されているときは、をクリックしてにし、「プライマリ」にしてください。



アドバイス 「設定」タブの「1」と 「2」について

「1」はプライマリアダプタ、「2」はセカンダリアダプタを示します。

- 1 以下の操作をします。**
「ディスプレイの表示を切り替える」([P.106](#))の手順1~手順8を行い、「RAGE MOBILITY AGPのプロパティ」ウィンドウの「画面」タブを表示します。
- 2 緑色のをクリックして、両方のを押された状態にしてから、セカンダリアダプタに設定するディスプレイのをクリックして押されていない状態にします。**
- 3 「OK」をクリックします。**
「ATI プロパティページ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「はい」をクリックします。**
- 5 プライマリアダプタの解像度と発色数を設定します。**
「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」の手順16 ([P.40](#))
「マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数」([P.177](#))
- 6 「画面のプロパティ」ウィンドウの「適用」をクリックします。変更しないときは、クリックする必要はありません。**
ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。ただし、再起動を促すメッセージが表示されたときは、「キャンセル」または「いいえ」をクリックして、再起動しないでください。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。
- 7 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックし、「使用可能」をクリックして（チェックマーク）を付けます。**
「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。
- 8 セカンダリアダプタの解像度と発色数を設定します。**
「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」の手順16 ([P.40](#))
「マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数」([P.177](#))
- 9 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。**
ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。ただし、再起動を促すメッセージが表示されたときは、「キャンセル」または「いいえ」をクリックして、再起動しないでください。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

アドバイス

接続したディスプレイのリフレッシュレートを60Hzより高く設定したとき

仮想スクリーンモードになることがあります。このときは、「アダプタ」タブの「リフレッシュレート」を60Hzに設定してください。

マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数

次の組み合わせで選択できます。

次の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	セカンダリの解像度 プライマリの解像度	640	800	1024	1280
		× 480	× 600	× 768	× 1024
High Color (16ビット)	640 × 480				
	800 × 600				
	1024 × 768				×
	1280 × 1024			×	×
True Color (24ビット)	640 × 480				×
	800 × 600				×
	1024 × 768			×	×
	1280 × 1024	×	×	×	×
True Color (32ビット)	640 × 480		×	×	×

1280 × 1024ドット以上の解像度を表示できるディスプレイをお使いの場合でも、1152 × 864ドットの仮想スクリーンモードになります。

分割したデスクトップを表示する位置を変更する

1 セカンダリアダプタを設定します。

「セカンダリアダプタを設定する」(☞P.175)

2 「コントロールパネル」ウィンドウの□(画面)をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

5 「OK」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

7 その他の注意事項

ACPIについて

本パソコンご購入時は、省電力機能として APM (Advanced Power Management)機能が設定されています。本パソコンにはWindows98がインストールされているので、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)機能に変更することもできます。

■ 重要

必要のない方は設定を変更しないでください

本パソコンをACPI機能でお使いになるには、注意事項がたくさんあります。特に必要な方は、APM機能の設定のままお使いになることを、強くお勧めします。

注意事項をご確認ください

ACPI機能をお使いになるときは、注意していただきたいことがあります。ここに記載している注意事項を十分確認してから、設定を変更してください。

操作手順を間違えないでください

設定を変更するときは、必ず手順どおりに行ってください。操作を間違えると、Windows98が起動できなくなる場合があります。

ACPI機能使用時の注意事項

作成されたデータに関する注意

ACPI機能を有効にする前に、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻します。

☞『トラブル解決 Q&A』の「第4章 パソコンをふりだしにもどす」

ご購入時の状態に戻すと、本パソコンご購入後に作成されたファイルは、すべて消えてしまいます。大切なファイルは、必ずバックアップをとっておいてください。また、本パソコンご購入後にインストールしたアプリケーションは、ACPI機能が有効になったあとに、インストールし直す必要があります。

オプション機器に関する注意

本パソコンで使用するPCカードなどのオプション機器が、ACPI機能に対応している必要があります。

ACPI機能を有効にしたあとで、ACPI機能に対応していないPCカードなどのオプション機器を接続すると、オプション機器が使えなかったり、サスPEND(一時停止)などの省電力モードから復帰できなくなる場合があります。事前にお使いになるPCカードなどのオプション機器が、ACPI機能に対応しているかどうかをご確認ください。

なお、ご使用になるPCカードなどのオプション機器によっては、ドライバでACPI機能に対応できるものもあります。

APM 機能に戻すときの注意

ACPI 機能に設定を変更後、再び APM 機能へ戻すときにも、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す必要があります。

ネットワーク環境の使用時の注意

ネットワーク環境をご使用の場合、省電力モードへ移行すると通信先との接続が切れてしまい、レジューム(サスPENDする前の状態に戻す)時に、正常に通信を継続できなかったり、Windows 98 が正常に動作しなくなる場合があります。

お使いになれない機能

BIOS セットアップの省電力メニュー

ACPI 機能では、Windows 98 がすべての省電力機能を制御します。そのため、BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、すべて無効になります。

サスPEND機能

Windows 98 の「電源の管理」で、「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をにすると、サスPEND機能はお使いになられません。

サスPEND機能をお使いになる場合は、「休止状態をサポートする」をにしてください。

モデム着信によるレジューム

- Windows 98 の「電源の管理」で、「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をにすると、「モデム着信によるレジューム」機能はお使いになられません。
- サスPEND状態で内蔵モデムに着信すると、「モデム着信によるレジューム」機能の設定の有無にかかわらず、常にレジュームします。レジュームさせたくないときは、モジュラーコネクタからモジュラーケーブルを抜いておいてください。

ACPI 機能を設定する

必要なものを用意する

- ・ 「トラブル解決 Q&A」
- ・ 「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」
- ・ 「リカバリ CD-ROM」
- ・ 「アプリケーション CD」

ACPI 機能を設定する

重要

もう一度注意事項を確認してください

- ・ Windows 98 の ACPI 機能を有効にしたあとに再び APM 機能に戻すときは、ハードディスク (C ドライブ) の内容をご購入時の状態に戻す必要があります。注意事項を再度ご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。
「ACPI 機能使用時の注意事項」(☞P.178)
- ・ 操作手順は間違えないように十分注意してください。手順を間違えると、Windows 98 が起動できなくなる場合があります。

ACPI 機能の設定を始める前に

PC カードなどのオプション機器を接続していたり、アプリケーションをインストールされている場合には、本パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。

オプション機器を取り外す

オプション機器を接続されている場合は、すべて取り外してください。また、すべての作業が完了するまでは、取り付けないでください。

BIOS セットアップの設定を戻す

BIOS セットアップの設定を変更している場合は、ご購入時の設定に戻してください。

「ご購入時の設定に戻す」(☞P.120)

バックアップをとる

ご購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションは、すべて削除されます。必要なデータはあらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。また、インストールしたアプリケーションは、すべての作業が完了してからインストールし直してください。

ACPI機能を設定する

- 1 ハードディスクの内容を、ご購入時の状態に戻します。
☞『トラブル解決 Q&A』の「第4章 パソコンをふりだしにもどす」
- 2 パソコンの電源を入れ、スタートアップのアプリケーション登録をすべて削除します。



重要

スタートアップには何も登録しないでください

スタートアップにアプリケーションが登録されていると、ACPI機能が正しく設定されない場合があります。スタートアップへの登録は、ACPI機能を有効にしてから行ってください。

- 3 本パソコンを再起動します。
「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されたら、「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
- 4 CD-ROMドライブに◎「アプリケーションCD」をセットします。
- 5 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイルを指定して実行」をクリックします。
- 6 「名前」の右の欄に `e:\chgacpi\chgacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)
「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ACPIモードに設定する」をクリックして□を☑にし、「次へ」をクリックします。

アドバイス

メッセージが表示されたとき

新しいハードウェアを検出している途中で、メッセージやウィンドウが表示されたときは、次の操作を行ってください。

・「Windows98 の CD-ROM を挿入してください」というメッセージが表示されたときは
「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:¥windows
¥options¥cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

・「ドライバ更新の警告」
ウインドウが表示された場合
「はい」をクリックしてください。

・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合
「OK」をクリックし、次に表示される「画面のプロパティ」ウインドウで「キャンセル」をクリックしてください。

・「不明なデバイス」ウインドウが表示された場合
「キャンセル」をクリックして、次に進んでください。

すべてのハードウェアの検出と設定が完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。

メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウインドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

9 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

画面の表示に従って、ハードウェアの検索を行ってください。検索には数分かかります。

検索が完了したら、画面の表示に従ってWindows98を再起動してください。Windows98を再起動すると、新しいハードウェアの検出が行われます。

アドバイス

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたとき

Windows98の再起動中に「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「キャンセル」をクリックします。
しばらくすると、「不明なデバイス」が表示されます。
- 2 「キャンセル」をクリックし、再起動します。
- 3 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウインドウが表示されます。
- 4 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして(+)にし、「次へ」をクリックします。
- 5 デバイスの種類の一覧で「システムデバイス」をクリックして反転表示させ、「次へ」をクリックします。
- 6 「ディスク使用」をクリックします。
- 7 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、`e:¥pmset`と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)
- 8 「モデル」欄に「Fujitsu FUJ02B1 Device Driver [3-18-1999]」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します」というウインドウが表示されます。
- 9 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーがはじまります。
- 10 「完了」をクリックします。

10 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

11 「名前」の右の欄に `e:¥fixacpi¥fixacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。

(e:にはお客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)

「FixACPI」ウインドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。

12 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示されます。

13 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動されます。

- 14** 「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
- 15** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 16** 「システム」をクリックし、「デバイスマネージャ」タブで「接続別に表示」をクリックして  にします。
「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示されていることを確認します。
ACPI機能が有効になりました。
- 17** 「OK」をクリックします。
続いて、3モードフロッピードライバを再インストールしてください。
- 3モードフロッピードライバを再インストールする
- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの 「システム」をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 2 「種類別に表示」をクリックして  にし、「フロッピーディスクコントローラ」の左の  をクリックします。
 - 3 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
 - 4 「OK」をクリックします。
 - 5 「閉じる」をクリックします。
 - 6 「コントロールパネル」ウィンドウの 「ハードウェアの追加」をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
 - 7 「次へ」をクリックします。
 - 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。

9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というウィンドウで「いいえ」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というウィンドウが表示されます。

10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

11 「製造元」に「FUJITSU」を、「モデル」に「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)(FUJITSU)[11-18-1998]」を選び、「次へ」をクリックします。

12 「完了」をクリックします。

インストールが完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。

メッセージが表示されなかい場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

Windows 98 の再設定を行う

ACPI機能を有効にすると、Windows 98 の設定の一部が変更されます。次の手順で再設定を行ってください。

SUS/RES スイッチを押したときの動作設定

ACPI機能を有効にすると、SUS/RES スイッチを押したときの動作設定が、「シャットダウン（電源断）」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの（電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を設定して、サスPENDするように設定を変更してください。

液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定

ACPI機能を有効にすると、液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が、「何もしない」になります。サスPEND機能を有効にするときは、「コントロールパネル」ウィンドウの（電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を設定してください。

スタートアップの再登録

ACPI機能を有効にする前に削除したアプリケーションを、再登録します。

ACPI機能を使う際のヒント

Save to Disk 領域

Save to Disk 領域を削除すると、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウに「休止状態」タブは表示されません。「休止状態」の機能を使用する場合には、Save to Disk 領域を作成してください。

「Save To Disk 領域」（☞P.153）

なお、ご購入時には Save to Disk 領域は作成されています。

モデム着信によるレジューム

「モデム着信によるレジューム（Wake up on Modem Ring）」機能は、通信用アプリケーションを起動してから本パソコンをサスPENDすることで、自動的に有効になります。

レジューム時の画面表示

「モデム着信によるレジューム」機能でレジューム（サスPENDする前の状態に戻す）時に画面が表示されないことがあります。

キーボードかフラットポイント（マウス）を操作すると画面が表示されます。表示されない場合には、状態表示LCDの①が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはサスPENDになっています。SUS/RESスイッチを押して、レジュームさせてください。

電源を切る

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「休止状態」タブで、「休止状態をサポートする」をにし、「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「シャットダウン」を選択したときに、「適用」を押してからSUS/RESスイッチを押した場合は、電源を切るまでの時間が、長くかかることがあります。

索引

記号

- 2DD 24
2HD 24

A

- ACPI 178
AC アダプタ 50
- を取り付ける 50
- を取り外す 51
AC アダプタ表示 10
Alt キー 14
Application 16
Application キー 14
A ボタン 17

B

- Back Space キー 13
BIOS セットアップ 114
- 起動する 115
- ご購入時の設定に戻す 120
- 終了する 119
- 設定時に使用するキー一覧 117
- 設定を変更する 116
- 操作のしかた 115
- パスワード機能 130
B ボタン 17

C

- Caps Lock 英数キー 13
Caps Lock 表示 12
CD Player 16
CD (音楽用) を聞く 33
CD-ROM 28
- 注意 28
- 取り出せないとき 32
- をセットする 29
- を取り出す 31
CD-ROM ドライブ 7
CD-ROM ドライブアクセス表示 10
CRT コネクタ 8, 151
CRT ディスプレイ 104
- 解像度を変更する 109
- 発色数を変更する 109

- 表示を切り替える 106
- を接続する 105
Ctrl キー 14

D

- DC-IN コネクタ 9
Delete キー 13
DMA チャネル 149
DOS/V パソコン 73

E

- E-mail ボタン 17
EJECT ボタン 7
End キー 14
Enter キー 14
Esc キー 12
E メールをチェックする 18

F

- Fn キー 14

G

- GlidePoint 172

H

- Home キー 13

I

- Insert キー 13
Intellisync 156
Internet ボタン 17
IRQ 149

L

- LAN カード 88
Lock 16
LOW バッテリ状態 56

M

- MAIN スイッチ 5
MO 112
MO ドライブ 112

N

Num Lk (Num Lock) キー	13
Num Lock 表示	12

P

PC/AT 互換機	73
PC カード	88
- 注意	89
- をセットする	91
- を取り出す	93
PC カードアクセス表示	11
PC カードスロット	5
PC カード取り出しボタン	5
PDC コネクタ	9, 95
Pg Dn (Page Down) キー	14
Pg Up (Page Up) キー	13
PHS	95
- を接続する	95
PMSet98	68
Prt Sc (Print Screen) キー	13
PS/2 規格	87

R

RAM	79
-----------	----

S

Safe モード	163
Save To Disk 機能	60, 64
Save To Disk 領域	153
Scroll Lock 表示	12
SCSI カード	88
Shift キー	13
SP	17
SUS/RES スイッチ	3
SUS/RES 表示	10

U

USB コネクタ	9, 151
----------------	--------

W

Windows キー	14
------------------	----

I

一時停止ボタン	17
インストール	73
- サウンドドライバ	169
- ディスプレイドライバ	163
- フラットポイントのドライバ	172

工

液晶ディスプレイ	2
- 明るさを変更する	41
- 解像度を変更する	37
- 注意	21
- 廃棄	21
- 発色数を変更する	37

オ

お手入れ	42
オプション機器	72
音量ボリューム	7
音量を調節する	35

カ

カーソルキー	14
解像度を変更する	
- CRT ディスプレイ	109
- 液晶ディスプレイ	37
拡張キー ボード コネクタ	8, 151
拡張 RAM モジュール	79
各部の名称と働き	2
稼動時間	54
カバークローズスイッチ	3
画面	
- CRT ディスプレイ	104
- 解像度を変更する	37
- 解像度を変更する (CRT)	109
- 発色数を変更する	37
- 発色数を変更する (CRT)	109

キ

キーボード	3
- お手入れ	42
輝度	41

起動メニュー	128
曲送りボタン	17
曲順表示 LCD	17
曲戻しボタン	17

ケ

携帯電話	95
- を接続する	95
携帯電話で通信する	99

サ

再生ボタン	17
サウンドドライバ	169
サスPEND / レジュームスイッチ	3
サスPEND機能	60, 61

シ

充電	52
充電時間	53
終了メニュー	48
終了メニュー (BIOS)	129
仕様一覧	144
詳細メニュー	122
状態表示 LCD	2
省電力	60
省電力メニュー	126
情報メニュー	129
シリアルコネクタ	8
新着 E メールをチェックする	18

ス

スピーカー	3, 5, 6
-------	---------

セ

赤外線通信ポート	9, 156
セキュリティメニュー	125
接続・セット	
- AC アダプタ	50
- CD-ROM	29
- CRT ディスプレイ	105
- PC カード	91
- PHS	95

- 携帯電話	95
- テンキー ボード	87
- バッテリ	57
- プリンタ	76
- フロッピーディスク	26
- マウス	87
- メモリ	81
節電	60
- ご購入時の設定	67
- の設定を変更する	67

ソ

増設する	
- メモリ	79

テ

停止ボタン	17
ディスプレイ	
- CRT ディスプレイ	104
- 液晶	2
- お手入れ	42
- 解像度を変更する (CRT)	37, 109
- 発色数を変更する (CRT)	37, 109
ディスプレイドライバ	163
デュアルディスプレイ	175
テンキー ボード	
- を接続する	87
テンキーモード	15
電源	46
- の管理	67
- を入れる	46
- を切る	48
電話回線の接続口	160

ト

盗難防止用ロック	5
ドライバ	73, 162
ドライバのインストール	
- サウンドドライバ	169
- ディスプレイドライバ	163
- フラットポイントのドライバ	172
取り出しボタン	17

取り付け	37
- AC アダプタ	50
- CRT ディスプレイ	105
- PC カード	91
- PHS	95
- 携帯電話	95
- テンキー ボード	87
- バッテリ	57
- プリンタ	76
- マウス	87
- メモリ	81
取り外し・取り出し	
- AC アダプタ	51
- CD-ROM	31
- PC カード	93
- フロッピーディスク	26
- メモリ	86
ナ	
内蔵バッテリパック	
- を交換する	57
内蔵バッテリパックスロット	5
内蔵マイク	3
- 注意	20
内蔵モデム	
- 仕様	148
- 注意	159
名前	2
ハ	
ハードディスク (増設用)	111
ハードディスクアクセス表示	11
廃棄	21
パスワード (BIOS)	130
- を設定する	131
- を入力する	133
- を変更 / 削除する	134
パソコン本体	
- お手入れ	42
- 各部の名称と働き	2
- 注意	20
発色数を変更する	
- CRT ディスプレイ	109
- 液晶ディスプレイ	37
バッテリ	52
- 注意	57
- の異常表示	55
- の稼働時間	54
- の残量を確認する	54
- の充電時間	53
- を交換する	57
- を充電する	52
- 廃棄	21
バッテリ残量表示	10
バッテリ充電表示	10
バッテリパック装着表示	10
パラレルコネクタ	9
半角 / 全角キー	13
ヒ	
光磁気ディスクドライブ	112
フ	
ファンクションキー	12
フラットポイント	3
- 注意	20
プリンタ	75
- を接続する	76
フロッピーディスク	24
- 注意	25
- データを守る	27
- をセットする	26
- を取り出す	26
フロッピーディスクアクセス表示	11
フロッピーディスクドライブ	7
- お手入れ	42
フロッピーディスク取り出しボタン	7
ヘ	
ヘッドホン・ジャック	6
ホ	
ボタン	17

マ

マイク (内蔵)	3
マイクイン・ジャック	7
マウス	
- を接続する	87
マウスコネクタ	8, 151
マルチモニタ機能	175

メ

メール着信ランプ	17
メールをチェックする	18
メインメニュー	121
メモリ	79
- を取り付ける	81
- を取り外す	86

モ

モードスイッチ	16
モジュラーコネクタ	7, 151
モデム	
- 仕様	148
- 注意	159
モニタ	104

ラ

ラインイン・ジャック	7
ラッチ	2

リ

リソース一覧	149
--------	-----

レ

レジューム	63
-------	----

ワ

割り込み番号	149
ワンタッチボタン	3, 16

Microsoft および Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の商標です。
RAGE は、ATI Technologies, Inc. の商標です。
K56flex は、Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。
MNP は、Microcom 社の登録商標です。
ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。
GlidePoint® は、米国 Cirque 社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 1999
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV-BIBLO NE/36LA, NE/36L, NE/36X, NE/33, NE/33E

使いこなす本 ハード編

B3FH-5271-02-00

発行日 1999年7月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。 (ア) 9907-1

OPEN



箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認
しましょう。

はじめに読む本

まず最初に...

1 取扱説明書



パソコンが初めてなら...

2 かるがるパソコン入門



FMVを知ろう!

3 FMV総合案内



使いこなす本



インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



ソフト編

- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る
- ・写真でカレンダーを作る



ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

困ったときの本

お役立ちシート

お手元に置いてお使いください。

- ・ありがちなトラブルの解決
- ・文字入力早わかり



トラブル解決Q & A

- ・困ったときの画面集
- ・トラブル解決の道のり
- ・サポート情報
- ・パソコンをぶりだしにもどす
- ・アプリケーションのインストール

